
男女共同参画に関するアンケート結果
市 民



令和2年3月

倉 敷 市

目 次

◇ 調査の概要	1
◇ 回答者のプロフィール	3
◇ 調査結果の概要	11
◇ 調査結果の分析	
1 男女平等意識	
(1) 分野別男女共同参画の実現(問1)	15
(2) 固定的性別役割分担(問2・問3)	25
(3) 子どもの育て方(問4)	30
2 ワーク・ライフ・バランス	
(1) 意識(問5)	33
(2) 一日の労働時間・家事時間(問6・問7)	40
(3) 望ましい生活・現実の生活(問8・問9・問10)	44
3 セクシュアル・ハラスメント(問11・問12)	51
4 ドメスティック・バイオレンス	
(1) DVの状況(問13・問14)	55
(2) DVの相談(問15・問16・問17)	60
(3) DVの防止と支援(問18)	64
5 倉敷市の男女共同参画施策	
(1) 男女共同参画社会実現状況(問19)	66
(2) 取り組むべき男女共同参画施策(問20)	74
6 性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)(問21・問22・問23)	76
7 男性における男女共同参画(問24・問25)	79
◇ 自由意見	81
◇ 調査表	97

男女共同参画に関する市民アンケート調査の概要

1 調査の目的

倉敷市における男女共同参画に関する意識、実態及びニーズ等を把握し、市民一人ひとりの個性が輝き、人間らしく豊かさを実感できる男女共同参画社会の実現をめざして、さまざまな施策を充実させるために活用するとともに、令和3年度を計画の初年度とする「倉敷市男女共同参画基本計画」を策定するための基礎資料とする。

2 調査の期間

令和元年8月16日から令和元年9月17日

3 対象

(1) 市民アンケート

令和元年7月31日を基準日として、住民基本台帳から無作為に抽出した20歳以上の市民2,000人（男女各1,000人）

ただし、年齢層及び住所を次のように按分して抽出した。

- ① 年齢層 20歳代, 30歳代, 40歳代, 50歳代, 60歳代, 70歳以上
- ② 地区 倉敷（庄・茶屋町含）、児島、玉島、水島、真備、船穂

4 調査方法

抽出した市民に対し、調査用紙を郵送により配付・回収

5 調査項目

- (1) 回答者のプロフィール F1～F8
- (2) 男女平等意識 問1～問4
- (3) ワーク・ライフ・バランス 問5～問10
- (4) セクシュアル・ハラスメント 問11～問12
- (5) ドメスティック・バイオレンス 問13～問18
- (6) 倉敷市の男女共同参画施策 問19～問20
- (7) 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）（LGBT）について 問21～問23
- (8) 男性における男女共同参画について 問24～問25
- (9) 自由意見

6 率の算定

- (1) 百分比は回答実数を100%として算出し、結果の数表は少数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、百分比が100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答については、合計した値が100%にならない。
- (3) 性別の回答がない場合があるため、男女等の合計が全体数にならない場合がある。

7 自由意見

自由意見欄及び「市民の方にしていただけることの意味」欄については、一部の意見（男女共同参画に関連するもの等）を紹介している。

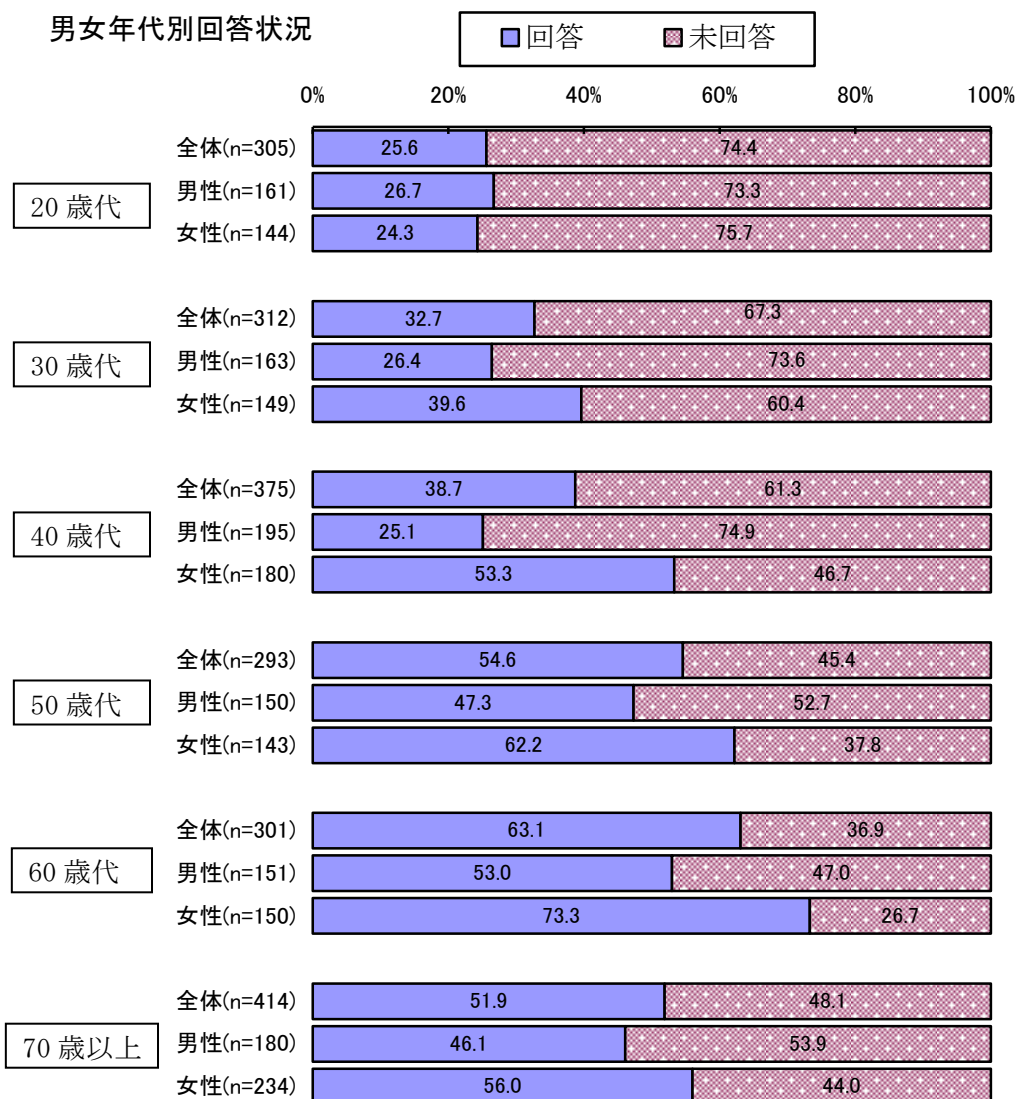
明らかな誤字、脱字を除き、原則的には記入された内容をそのまま掲載し、個人が特定できる部分についてはその部分は削除して掲載している。

8 回収結果

- (1) 発送数 2,000 人
- (2) 回答数 901 人
- (3) 回答率 45.1%
- (4) 男女年代別回答状況

区 分		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	不明	総数
全体	依頼数	305	312	375	293	301	414	—	2,000
	回答数	78	102	145	160	190	215	11	901
	%	25.6	32.7	38.7	54.6	63.1	51.9	—	45.1
男性	依頼数	161	163	195	150	151	180	—	1,000
	回答数	43	43	49	71	80	83	1	370
	%	26.7	26.4	25.1	47.3	53.0	46.1	—	37.0
女性	依頼数	144	149	180	143	150	234	—	1,000
	回答数	35	59	96	89	110	131	1	521
	%	24.3	39.6	53.3	62.2	73.3	56.0	—	52.1
その他	回答数								0
不明	回答数						1	9	10

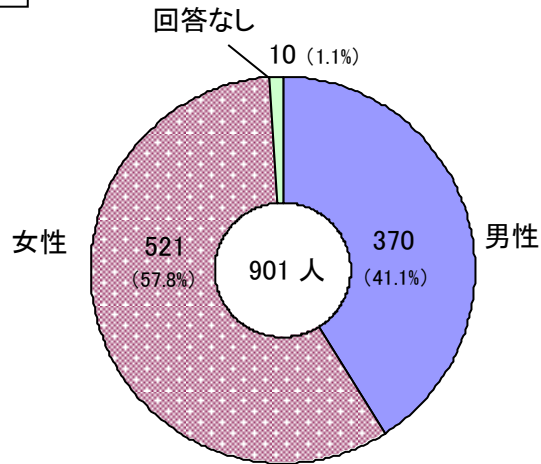
男女年代別回答状況



回答者のプロフィール

F 1 性別

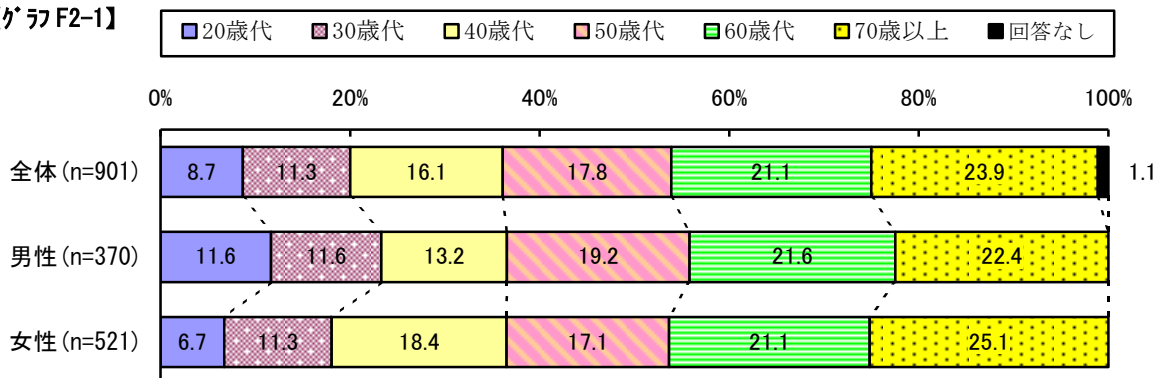
【グラフF1-1】



※性別については、「その他」の回答がなかったため、以下、男女別での集計のみ記載。

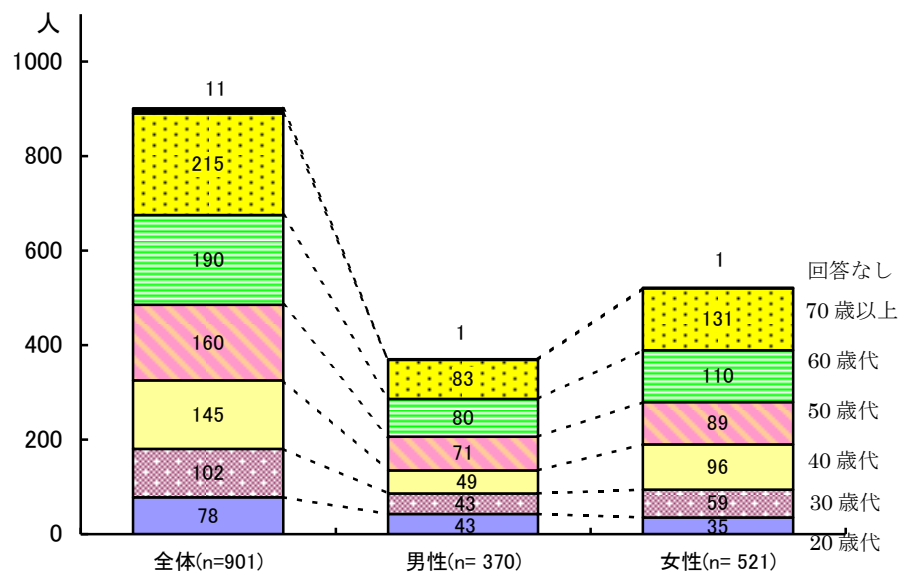
F 2 年齢 (割合)

【グラフF2-1】



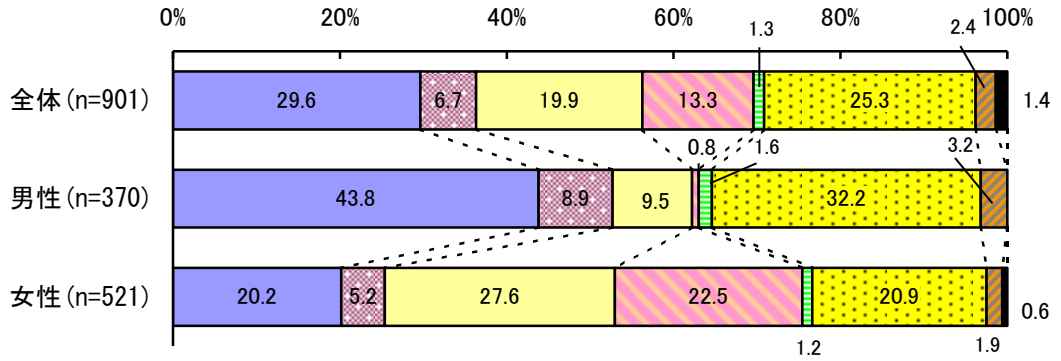
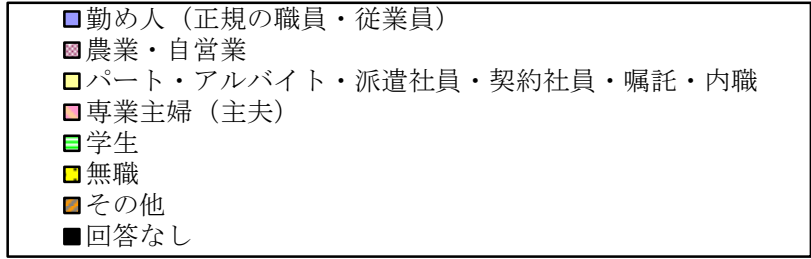
F 2 年齢 (人数)

【グラフF2-2】

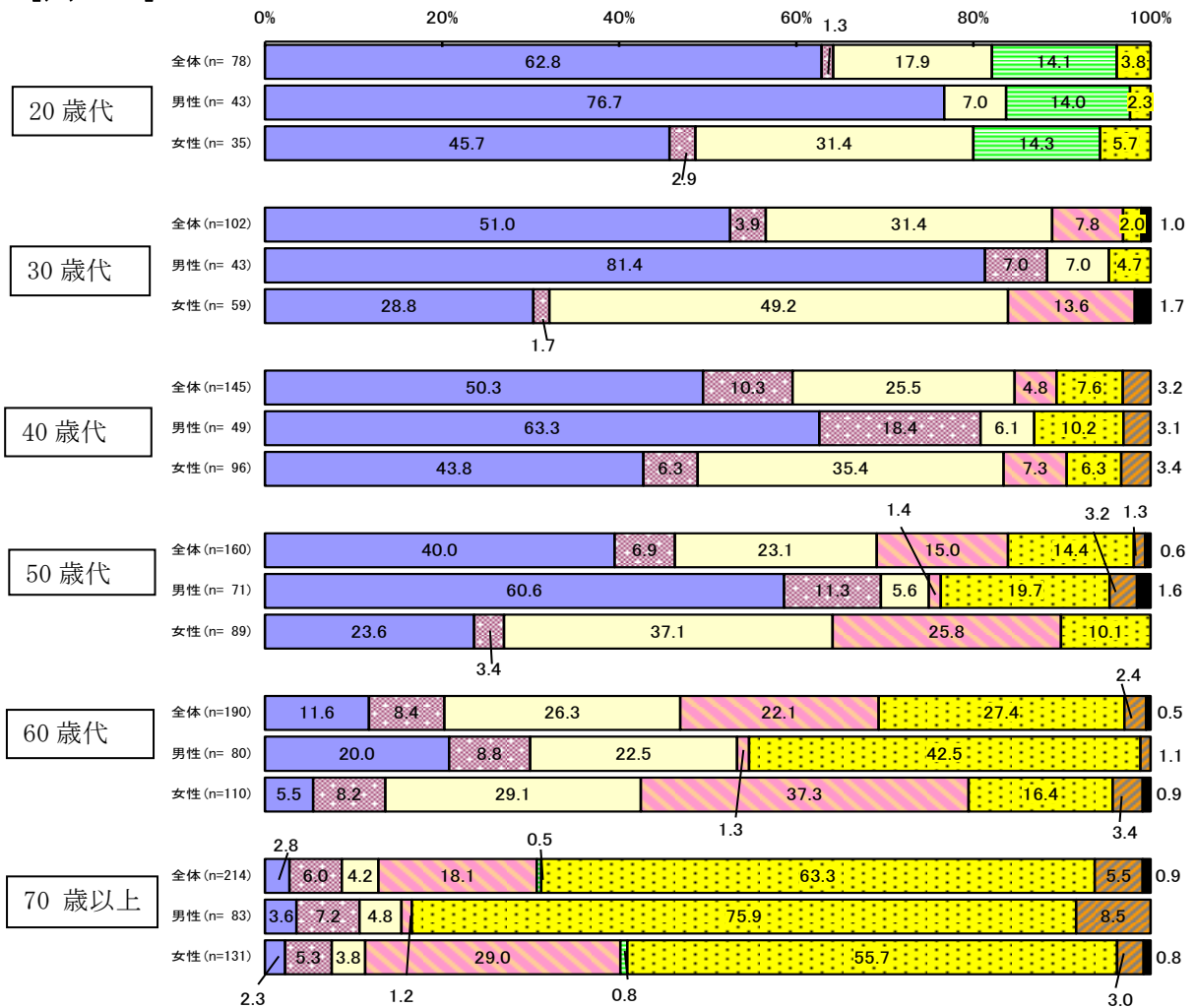


F 3 職業

【グラフF3-1】

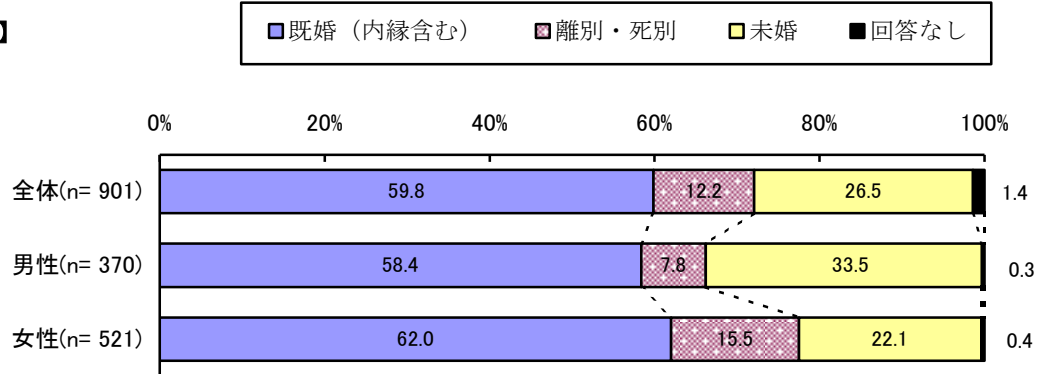


【グラフF3-2】

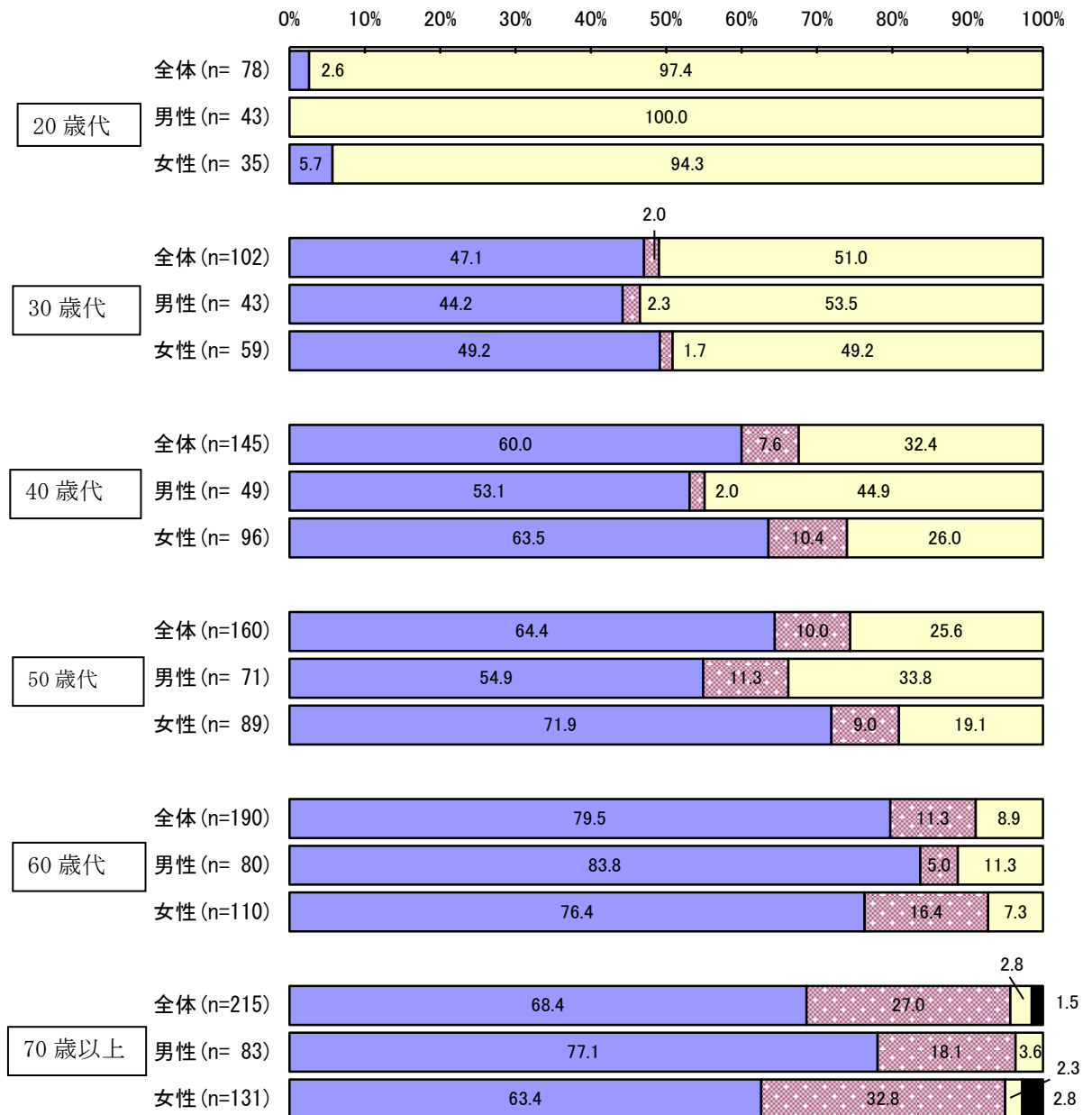


F 4 結婚の経験状況

【グラフF4-1】

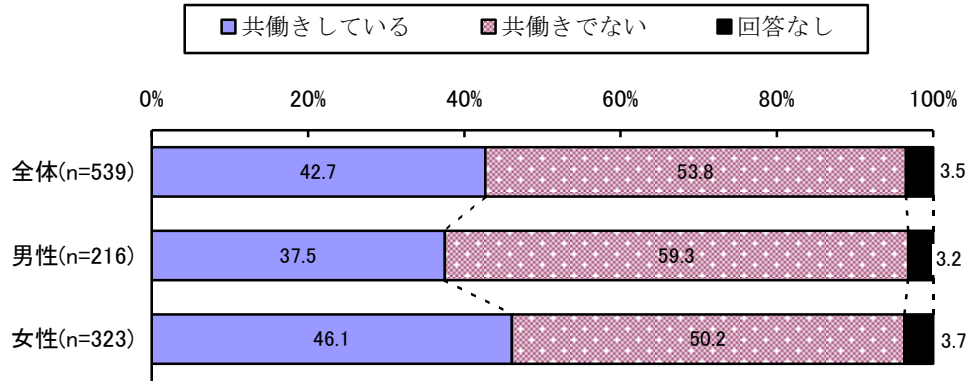


【グラフF4-2】

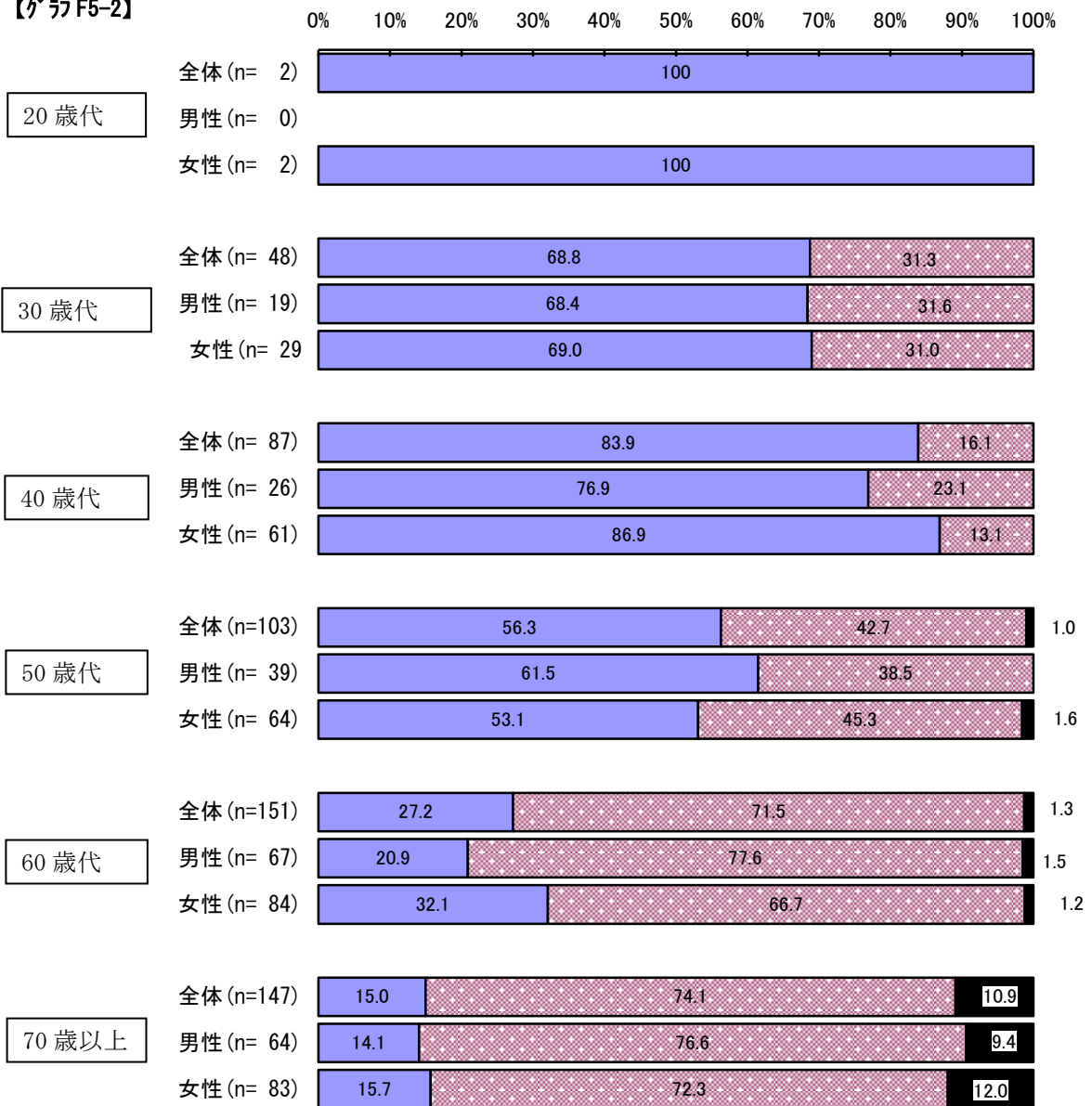


F 5 共働きの状況（既婚者のみ回答）

【グラフF5-1】

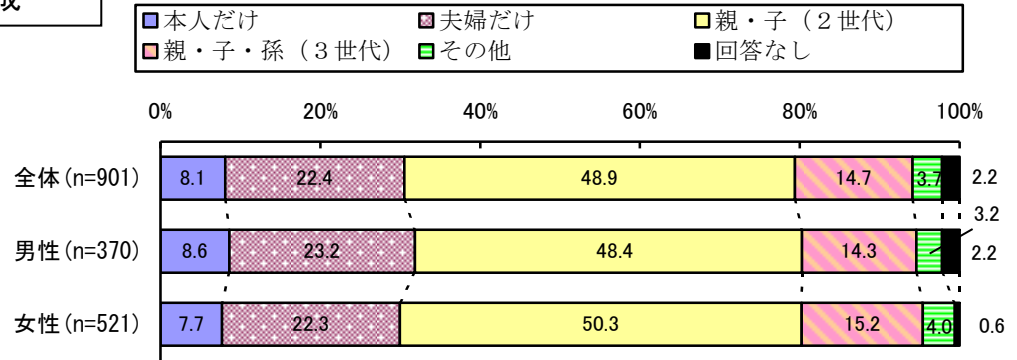


【グラフF5-2】

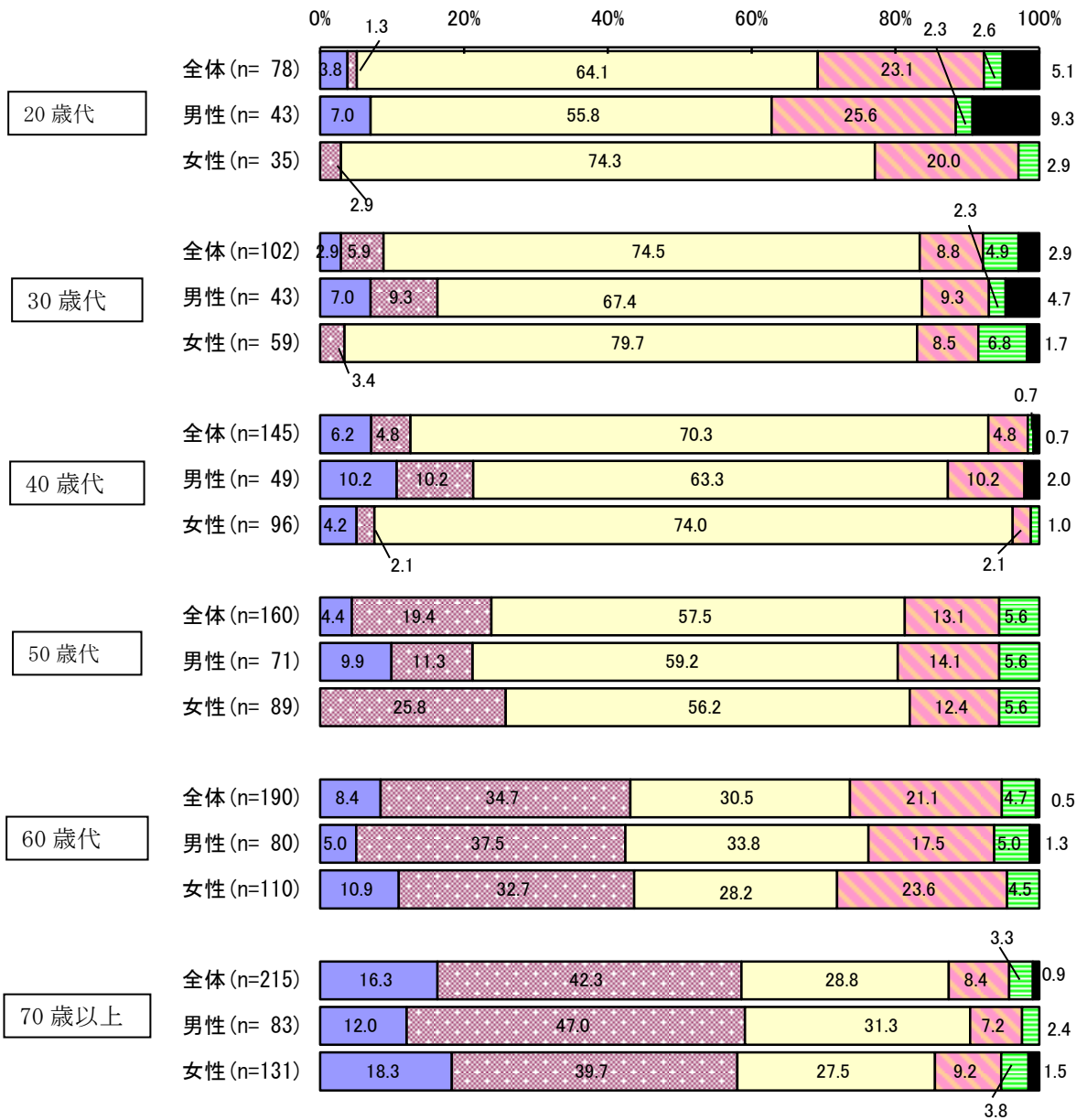


F 6 家族構成

【グラフF6-1】

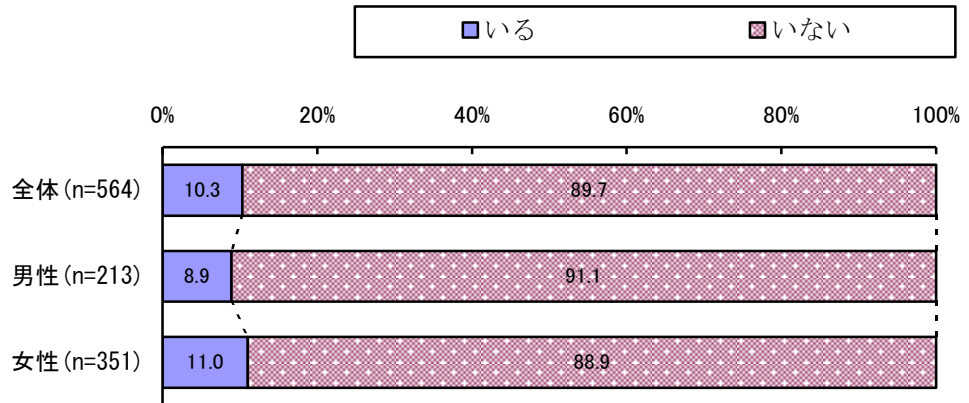


【グラフF6-2】

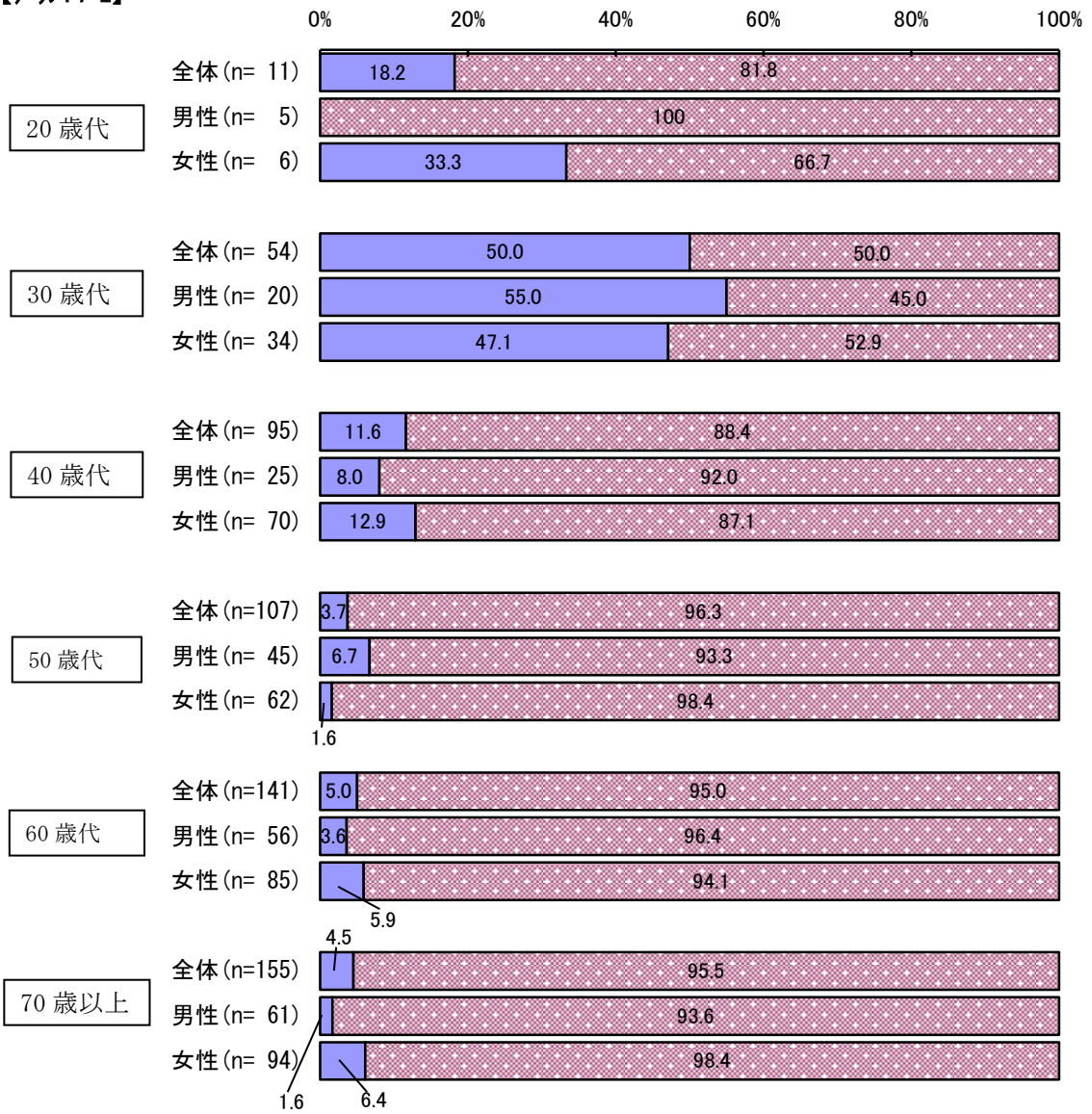


F 7 小学校入学前の子どもの有無（子どもがいる人のみ回答）

【グラフF7-1】



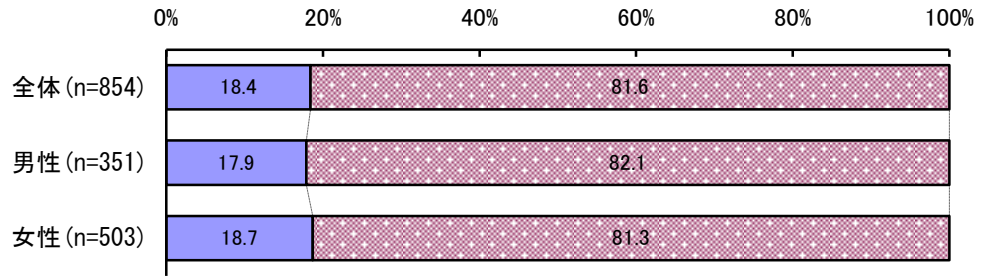
【グラフF7-2】



F 8 介護を必要とする人の有無

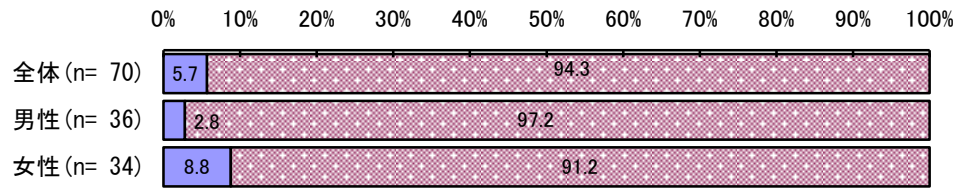
■ いる ■ いない

【グラフF8-1】

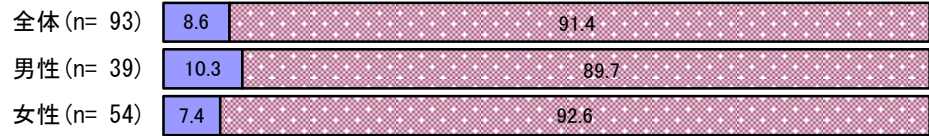


【グラフ8-2】

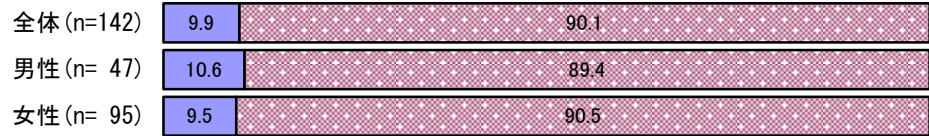
20 歳代



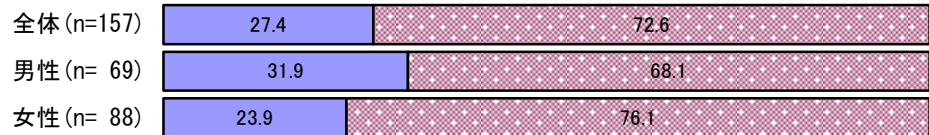
30 歳代



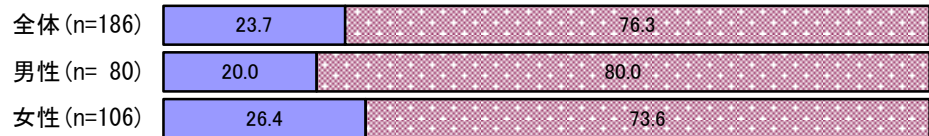
40 歳代



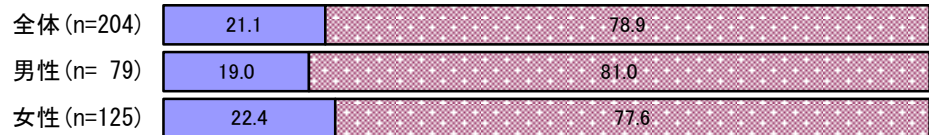
50 歳代



60 歳代



70 歳以上



調査結果の概要

男女共同参画に関する市民アンケート調査結果の概要

1 男女平等意識（問1～問4）

『家庭の中で』『職場の中で』『学校の中で』『地域社会の中で』『政治の中で』『慣習・しきたり』のそれぞれの項目で、男女平等について尋ねたところ、「平等になっている」と答えた人が最も多いのは、全体では『家庭の中で』、次いで『学校の中で』、『職場の中で』となっている。男女別では、男性で最も多いのは『家庭の中で』、次いで『職場の中で』、『学校の中で』となっており、女性で最も多いのは『家庭の中で』、次いで『学校の中で』、『職場の中で』となっている。男女でとらえ方の違いが若干表れている。

反面、「平等になっている」が最も少ないのは、『政治の中で』で、次いで『慣習・しきたり』となっている。全体的に、男性に比べ女性の方が、「平等になっている」と答えた人が少なく、厳しい見方をしている。

また、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、尋ねたところ、「同感する」と答えた人は、男性が約1割となっている。年代別では、70歳以上の男性が少し高めではあるが、今回調査より、すべての年代で2割以下となっている。「同感する」理由で最も多いのは「夫と妻の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいくから」が最も多く、固定的な性別役割分担意識の解消に向けた兆しが見えつつある。

さらに、これからの子どもの望ましい育て方をたずねたところ、全体、男女ともに最も多いのは「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」で、次いで「女の子も経済的に自立できるよう、男の子も家事ができるよう育てる」となっている。一方、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は1割を切っており、『男は仕事、女は家庭』という役割分担を守るよう育てる」も、割合では1%程度になっている。

また、本調査項目の経年的傾向として、「平等になっている」についての回答は、総じて横ばい、又は、微増であるが、「男性が優位である」の回答は、減少の傾向が強いことから男女平等意識について、遅々たるものの一定の改善がみられているものと思われる。

2 ワーク・ライフ・バランス（問5～問10）

『男性は働き、女性は家庭を守り家事・育児・介護に専念するのがよい』について「(どちらかといえば) そう思わない」が全体で5割以上であった。しかし、全体の2割は「(どちらかといえば) そう思う」と答えている。年代・男女別でみると、女性より男性、若年層より高齢層に「(どちらかといえば) そう思う」が高い割合となっている。

『男女どちらも、仕事と家庭の両立ができるのがよい』については全体で「(どちらかといえば) そう思う」が8割以上となっている。

また、『女性も働いた方がよいが、子どもが小さいうちは家庭にいる方がよい』について、「(どちらかといえば) そう思う」と答えた人は約7割と前回調査（平成26年度）より1割程度下げている。

また、『家事・育児・介護をきちんとするなら、女性が働いてもよい』について、全体では「(どちらかといえば) そう思う」が5割以上となっている。男女・年代別ではすべての世代の男性の4割以上が「(どちらかといえば) そう思う」と答えていること

から、家事・育児・介護は女性の役割と思っている男性は年齢に関係なく 10 人に 4 人以上いることがわかる。

しかし、『共働きの場合、家事・育児・介護は男女で行うのがよい』は、全体では「(どちらかといえば) そう思う」が約 9 割と高い割合となっている。

また、『共働きに限らず、家事・育児・介護は男女で行うのがよい』は、全体では「(どちらかといえば) そう思う」が 8 割となっている。女性の役割ではあるが、共働きかどうかは関係なく男性の家事・育児・介護への参画を認めている人が多い結果となっている。

望ましい生活は、全体で「仕事と家庭とプライベートを調和」が 4 割となっている。年代別ではすべての世代において「仕事と家庭とプライベートを調和」が最も高い割合となっており、「仕事を優先」は 60 歳代男性で 1 割、他の世代も非常に低い割合である。

経年的考察では、「仕事」、「家庭」など 1 つもしくは 2 つの項目を調和させたいとの回答が多くあったが、今回の調査では、すべての年代で「仕事と家庭とプライベートを調和」が最も多くなっており、何かを犠牲にして何かを得るのではなく、どちらともを求めることがスタンダードになりつつあることを感じさせる結果となった。

しかし、現実の生活は、全体では「仕事を優先」と「仕事と家庭とプライベートを調和」が 1 割強と拮抗した結果になっている。男女別では、男性は「仕事を優先」、女性は「家庭を優先」が多く、理想とは違う結果となっている。

ワーク・ライフ・バランスを進めるために必要なことについては、「男女がともに家事・育児・介護へ参加するよう促進する」と答えた人が最も多く 4 割弱、次いで「働き方、仕事の進め方を見直す」、「労働時間の短縮や休日の増加を推進する」となっている。

3 セクシュアル・ハラスメント (問 11・問 12)

セクシュアル・ハラスメントを、「自分自身が受けたことがある」と答えた人は男性 4.8%、女性 14.4%で圧倒的に女性が多く、女性の 7 人に 1 人がセクハラを受けている。また、「見たり聞いたりしたことがある」人は、男性 28.4%、女性 25.5%となっている。

『自分自身が受けたことがある』と答えた人にたずねたところ、その内容については、「性的な冗談や冷やかしなどを言われた」が最も多く、前回調査で 1 位であった「肩や尻や髪など体に触れられた」など身体的なセクハラは減少しており、セクハラは絶対に許されないという社会的な認知が進んでいる面もうかがえる。

4 ドメスティック・バイオレンス (DV) (問 13~問 18)

ドメスティック・バイオレンス (夫婦・恋人間の暴力) を「自分自身が受けたことがある」と答えた人は男性 2.2%、女性 9.4%で女性が多く、女性の約 1 割が暴力を受けている。一方、「自分自身がしたことがある」と答えた人は男性で 2.2%、女性で 0.6%となっている。また、「見たり聞いたりしたことがある」人は、男性 18.6%、女性 22.5%となっている。

『自分自身が受けたことがある』と答えた人にその内容についてたずねたところ、「『だれのおかげで生活できるんだ』とか『食わしてやっている』とか『かいしょうなし』な

どと言われた」が最も多く、次に「ものを投げられたり、無視されたりした」となっている。前回調査（平成 26 年度）と比較すると、身体的な暴力より経済的なDVやモラハラが上位となっており、DVの行為は、身体的なものだけではなく範囲が広範であることの認知が高まっていると考えられる。

職業別、未既婚別、共働き別、家族構成別、就学前の子どもの有無別等によるDVにおける有意な差異は認められない。これは、一般的にDVは、年齢、収入、職業、家族構成などにかかわらず存在することが報告されており、本調査からもその様子的一端がうかがえたものと思われる。

『自分自身が受けたことがある』と答えた人に、だれかに相談したかどうかをたずねたところ、「相談した」と答えた男性は0%であるが、女性は34.7%と約3割は相談をしている。年代別では、「相談した」と答えた人は40歳代以上の女性は実績があるが、20～30歳代はだれにも相談していない。

次に、『(暴力を受けたことを)相談した』と答えた人に、相談したところはどこかをたずねたところ、「親族」「友人・知人」と答えた人が大多数で、「医師・カウンセラー」「弁護士」「市の相談窓口」「警察」は少数となっている。『どこへも相談しなかった』と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女とも「自分さえ我慢すれば家庭はこわれなかった」と最も多く、次に女性では「世間体や人に知られるのが恥ずかしかった」「自分にも悪いところがあると思った」の順となっている。

『配偶者や恋人からの暴力をなくすための支援や対策』についてたずねたところ、全体では「加害者への罰則の強化」、「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発」が多く、「被害者への弁護士、警察、裁判所などによる法的援助」が順に続いている。

5 倉敷市の男女共同参画施策（問19・問20）

項目別に、倉敷市の男女共同参画施策の実現状況をたずねたところ、「(ほぼ)実現している」と答えた人が最も多いのは、全体、男女ともに『自由に地域の行事に参加したり、趣味を楽しむゆとりがあること』となっており、次いで『男女にこだわらないで、自由に職業を選べるようにすること』となっている。一方、「(あまり)実現していない」と答えた人が最も多いのは、全体、男女ともに『育児休業や介護休業を男女どちらでもとりやすくすること』となっており、次いで『男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること』となっている。どの項目も、「(あまり)実現していない」が「(ほぼ)実現している」より多くなっている。

また、倉敷市が取り組むべき施策についてたずねたところ、最も多いのは、全体、男女ともに「高齢者や障がい者のための施設や在宅介護サービスの充実を図る」となっており、次いで全体、男性は「男女平等意識を育てるための学校教育を充実させる」、女性は、「育児の支援を行うための制度や保育施設を充実させる」となっている。男性3位は「企業等に対し、男女平等の雇用環境の充実を働きかける」、女性3位は「企業等に対し、『ワーク・ライフ・バランス』や働き方改革を働きかける」とそれぞれ企業への働きかけを望む声が上位となった。

6 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）※における男女共同参画（問 21～問 23）

性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）またはLGBTという言葉の意味を知っているかたずねたところ、ほぼ7割が「知っている」と回答した。特に若い世代で認知率が高く、年代が上になるにつれ、認知率が下がっている。

一方、倉敷市が性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）に対する取組を行っていることを「知らない」と回答した比率は全世代で高くなっている。

人権を守るために必要な取り組みは、「学校教育現場での取り組み」が最も高く、次いで「相談窓口の設置」、「公的施設や窓口での不便解消」、「広報紙、ホームページ、講演会等での啓発活動」と続いた。

7 男性における男女共同参画（問 24～問 25）

男性のジェンダーにより「責任」や「つらさ」を感じたことがあるかたずねたところ、約4割の男性が「ある」と回答した。どういったときにつらさを感じるかとの問いには「家族を養うのは男性の責任だと言われる」という回答が最も多かった。

※ 「性的少数者」、「セクシュアル・マイノリティ」、「LGBT」
レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、
トランスジェンダー（性同一性障害など心と体の性が一致しない人）などの総称。

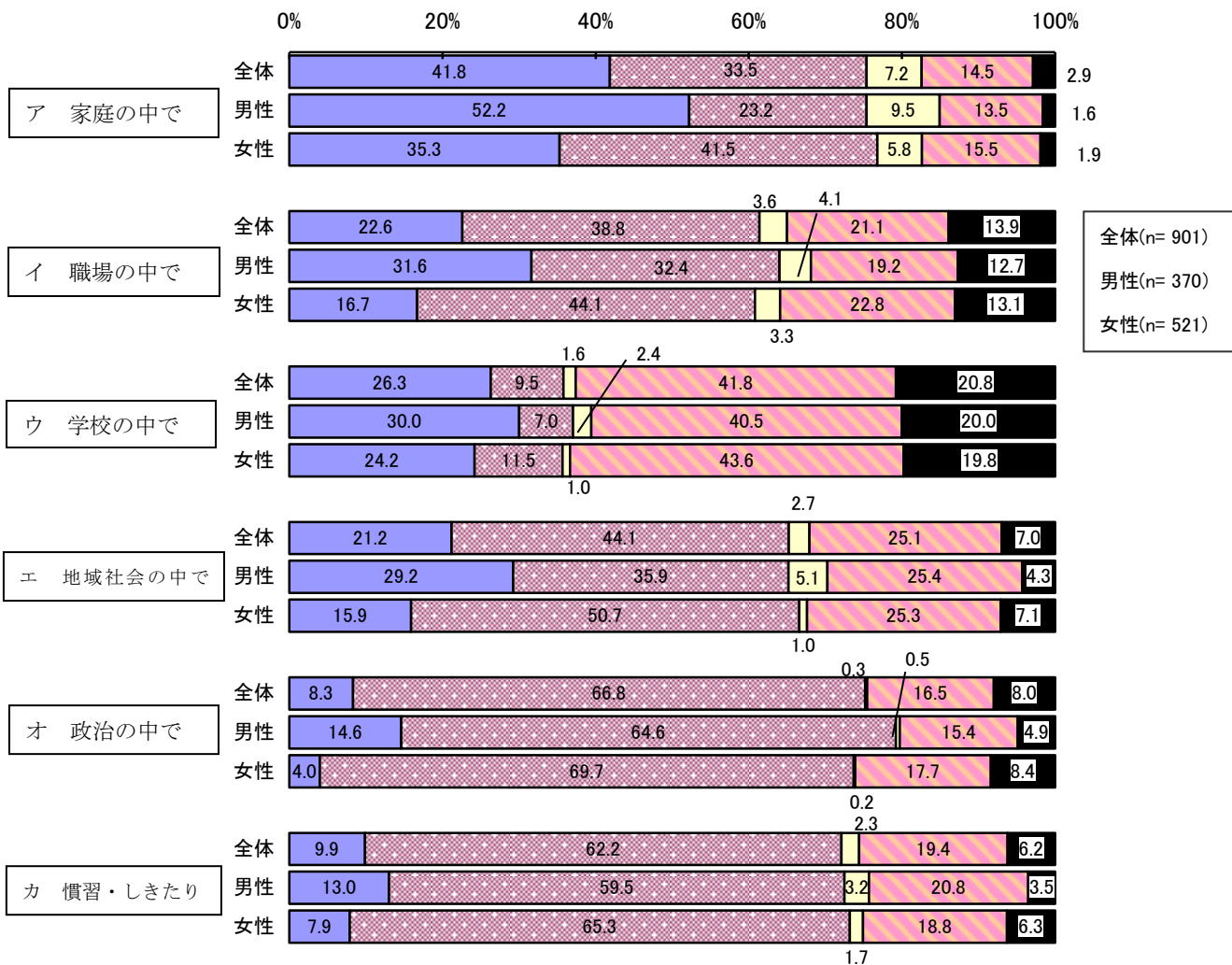
調査結果の分析

<男女平等意識についておたずねします。>

問1 ア～カの項目について、男女は平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

項目別【グラフ1-1】

■ 平等になっている ■ 男性が優位である □ 女性が優位である ■ わからない ■ 回答なし



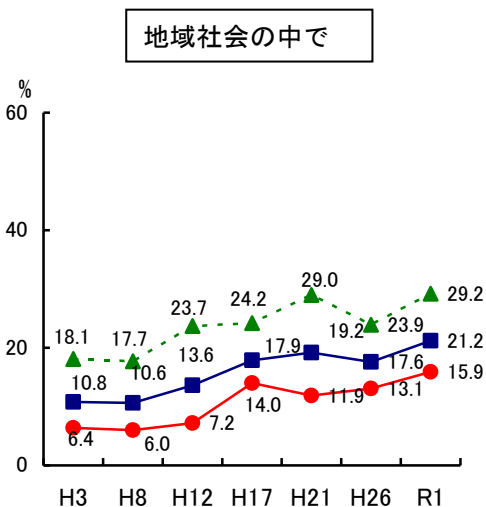
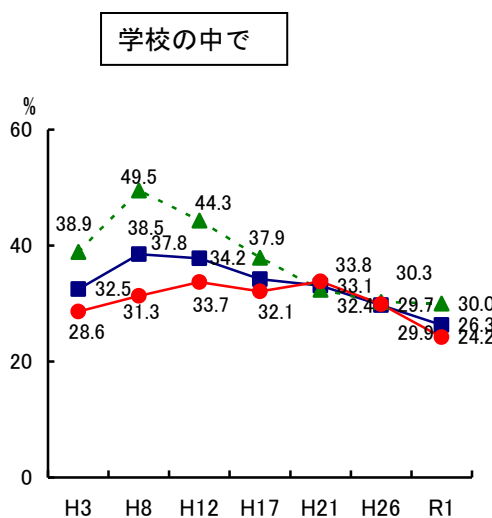
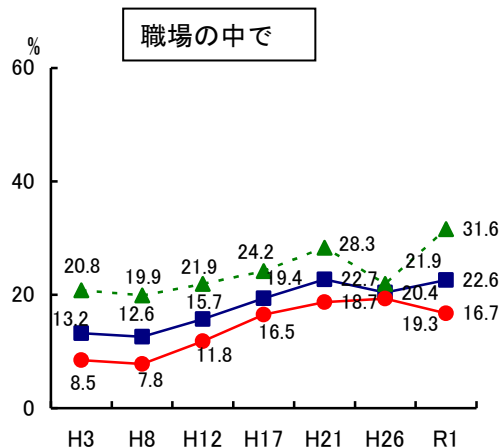
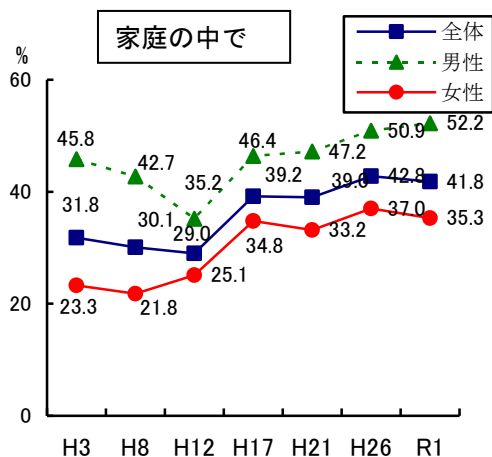
= 「平等になっている」が最も多いのは『家庭の中で』, 「男性が優位である」が最も多いのは『政治の中で』 =

項目別で「平等になっている」と回答した人が、全体で最も多いのは『家庭の中で』41.8%, 次いで『学校の中で』26.3%, 『職場の中で』22.6%, 『地域社会の中で』21.2%となっている。「男性が優位である」が最も多いのは『政治の中で』66.8%, 次いで『慣習・しきたり』62.2%となっている。「女性が優位である」はどの項目も少ない。

男女別では、男性で「平等になっている」と回答した人が最も多いのは『家庭の中で』52.2%, 次いで『職場の中で』31.6%, 『学校の中で』30.0%となっている。女性で「平等になっている」と回答した人が最も多いのは『家庭の中で』35.3%, 次いで『学校の中で』24.2%, 『職場の中で』16.7%となっている。「男性が優位である」が最も多いのは、男女とも『政治の中で』で男性64.6%, 女性69.7%, 次いで『慣習・しきたり』男性59.5%, 女性65.3%となっている。「女性が優位である」は、男女ともどの項目も少ない。

「平等になっている」と答えた人の推移【グラフ1-2】

平成 3 年度	全体 (n= 957)	男性 (n=360)	女性 (n=597)
平成 8 年度	全体 (n= 997)	男性 (n=396)	女性 (n=601)
平成 12 年度	全体 (n= 566)	男性 (n=219)	女性 (n=347)
平成 17 年度	全体 (n= 884)	男性 (n=328)	女性 (n=554)
平成 21 年度	全体 (n=1039)	男性 (n=437)	女性 (n=596)
平成 26 年度	全体 (n= 923)	男性 (n=393)	女性 (n=519)
令和元年度	全体 (n= 901)	男性 (n=370)	女性 (n=521)

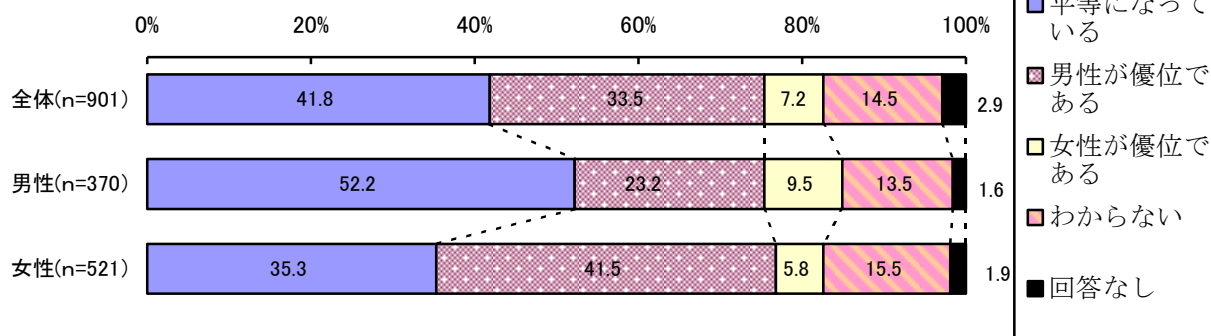


「平等になっている」と答えた人の推移を、5年ごとに行ったアンケート結果で見ると、『職場の中で』と『地域社会の中で』は、平成26年に比べ、緩やかに上昇しているが、他の項目においては下がっている。特に『学校の中で』は平成8年をピークに年々下がっている。

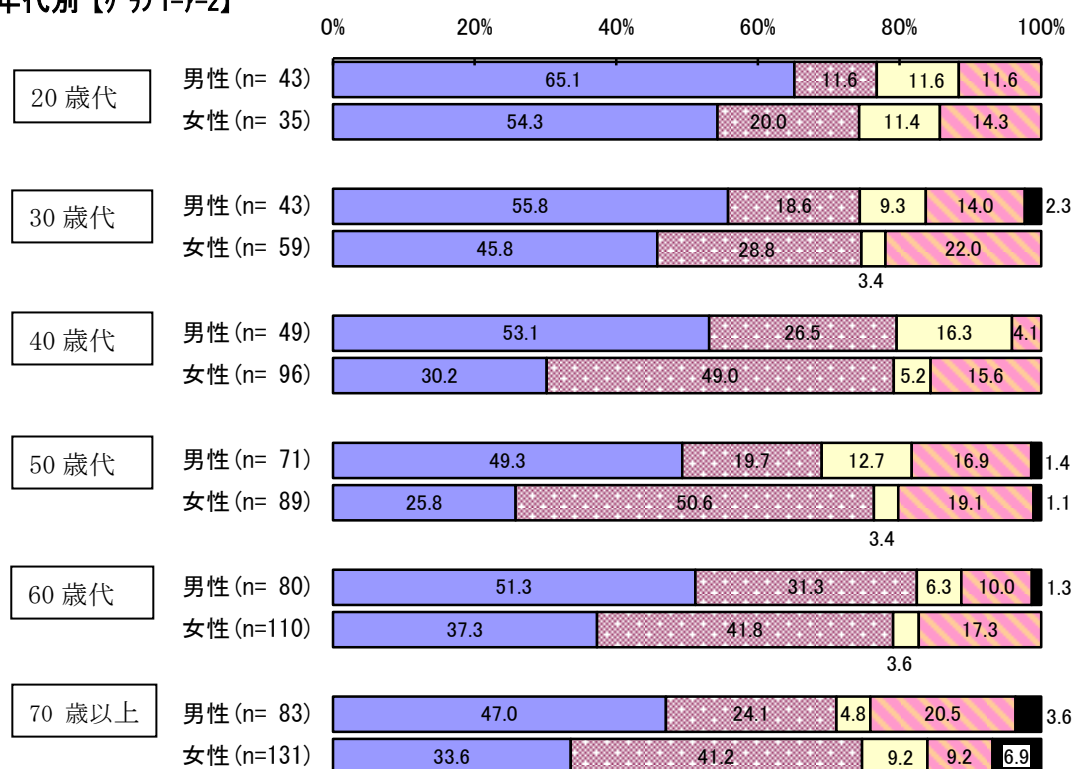
また、『職場の中で』は、平成26年に比べ、男性が9.7ポイント上昇しているのに対して、女性は2.6ポイント下がっている。

ア 家庭の中で

全体・男女別【グラフ1-7-1】



年代別【グラフ1-7-2】



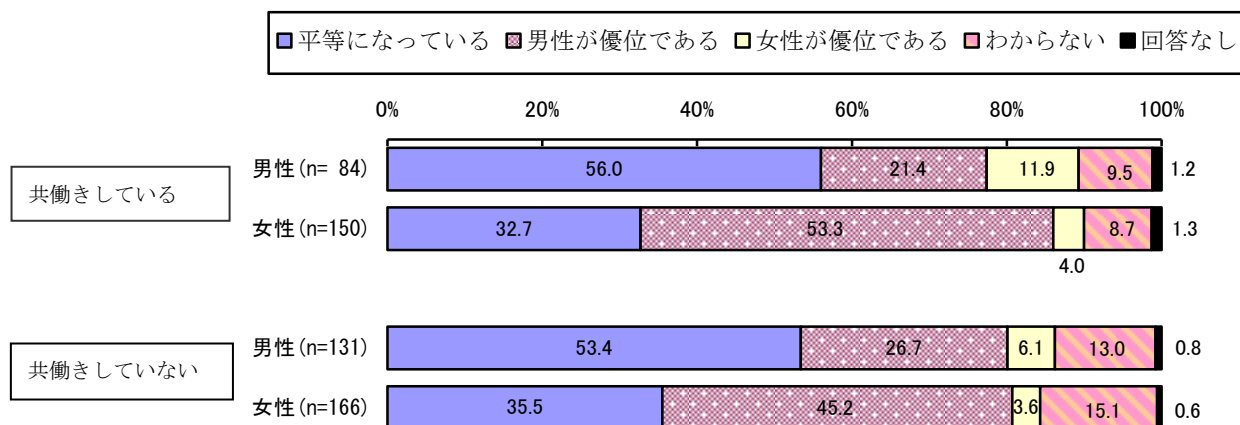
『家庭の中で』は、男性は「平等になっている」が多く、女性は「男性が優位である」が多い＝

全体では、「平等になっている」41.8%と最も多く、次いで、「男性が優位である」33.5%となっている。「女性が優位である」は7.2%と低い数値になっている。

男女別では、男性は「平等になっている」52.2%が最も多く、次いで「男性が優位である」23.2%となっている。女性は「男性が優位である」41.5%が最も多く、次いで「平等になっている」35.3%となっている。男女ともに「女性が優位である」は少なく、男性9.5%、女性5.8%になっている。

年代別では、「平等になっている」が、男性はどの年代も4割を超えており、特に20歳代は65.1%となっている。女性は、40歳代と50歳代で「男性が優位である」が約5割となっているほか「平等になっている」も約3割となっている。

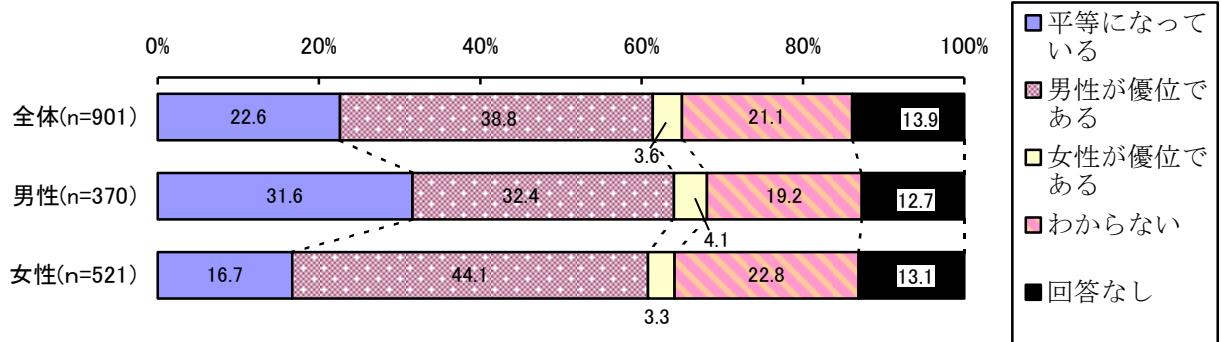
共働き別【グラフ1-7-3】



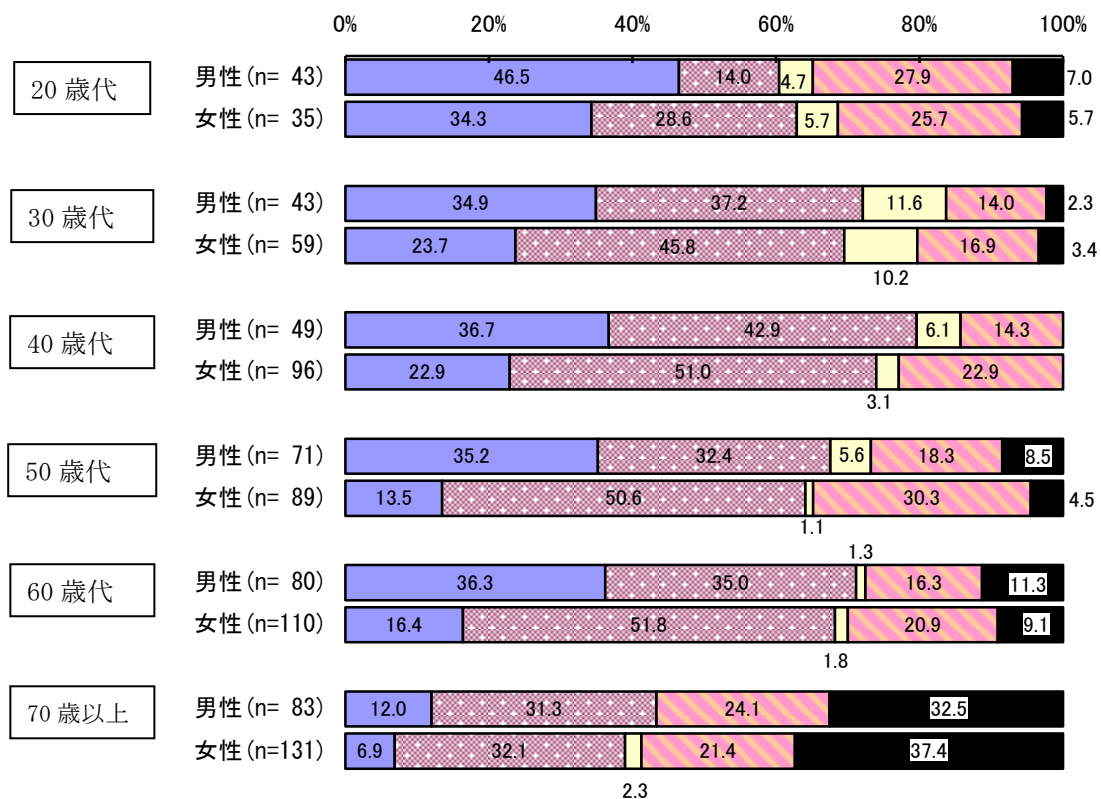
共働き別で見ると、女性では共働きしている人の方が、共働きしていない人に比べ「男性が優位である」と回答した人が多くなっている。男性では共働きしている、していないにかかわらず「平等になっている」が5割を超えている。

イ 職場の中で

全体・男女別【グラフ1-1-1】



年代別【グラフ1-1-2】



＝『職場の中で』は「男性が優位である」＝

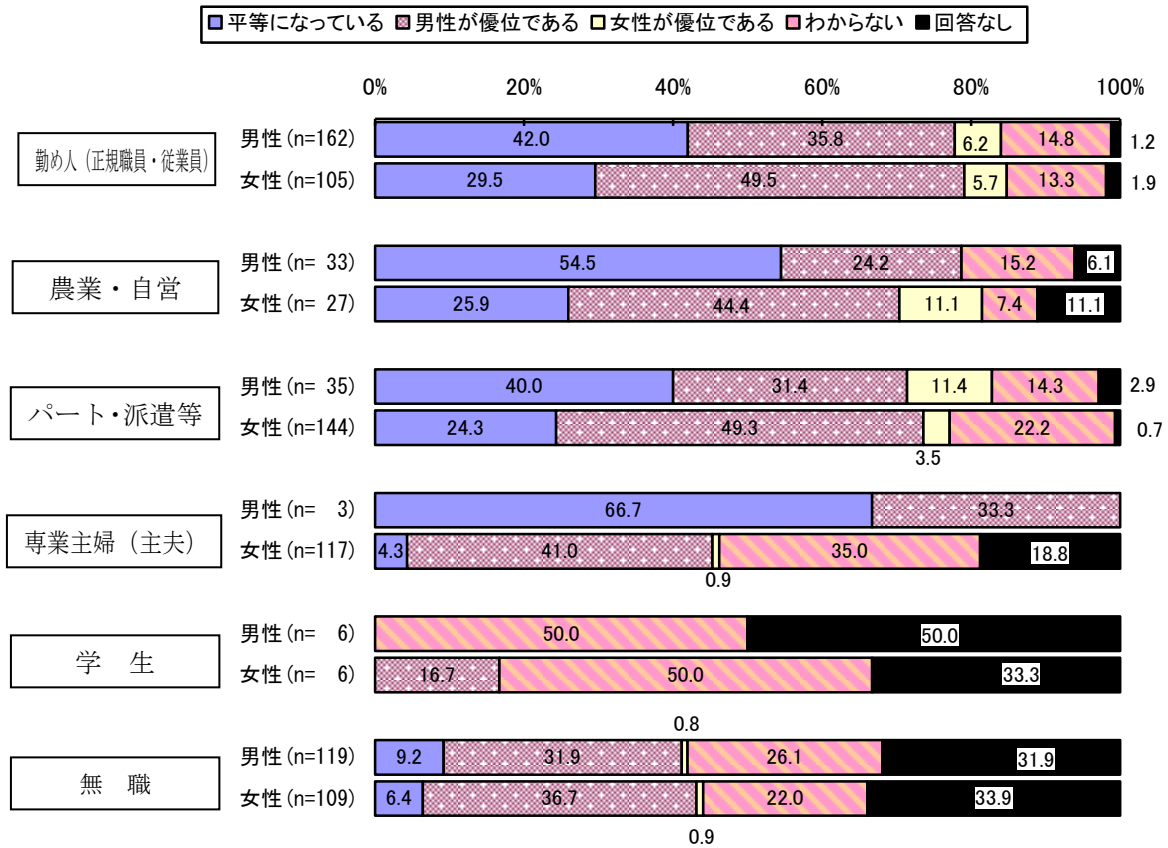
全体では、「男性が優位である」が38.8%と最も多く、次いで、「平等になっている」22.6%となっており、「女性が優位である」は3.6%と低い数値になっている。

男女別では、男女ともに「男性が優位である」が最も多く、男性32.4%、女性44.1%、次いで男性は「平等になっている」が31.6%、女性は「わからない」が22.8%となっている。「女性が優位である」は男性4.1%、女性3.3%で、低い数値になっている。

年代別では、男性をみると、60歳代までの年代は「平等になっている」が3割を超えており、20歳代では46.5%が「平等になっている」と回答している。

女性は、20歳代を除くすべての年代において「男性が優位」が最も多く、40～60歳代は5割を超えている。

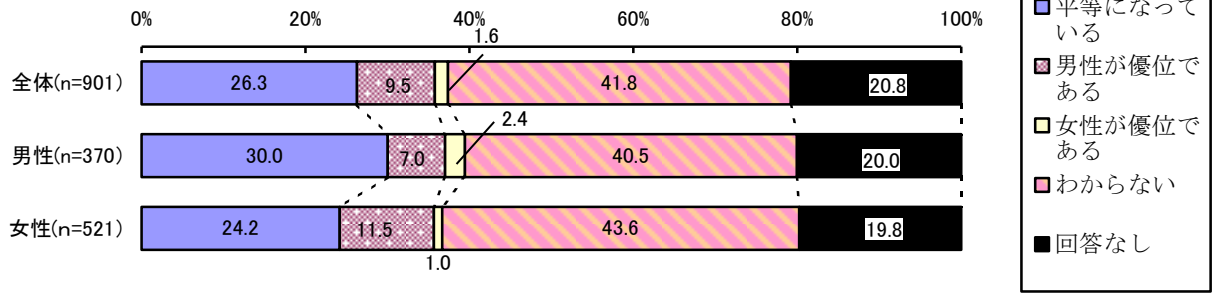
職業男女別【グラフ1-4-3】



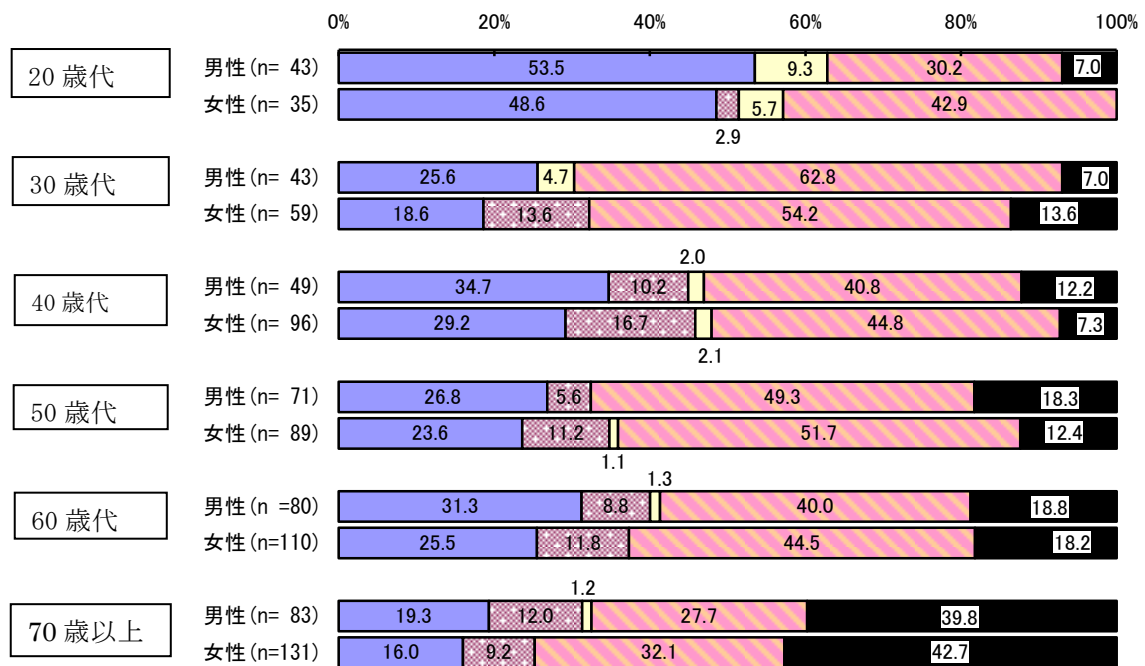
職業別をみると学生と無職以外の層は、男性は「平等になっている」が最も多く、女性は「男性が優位である」が最も多くなっている。

ウ 学校の中で

全体・男女別【グラフ1-ウ-1】



年代別【グラフ1-ウ-2】



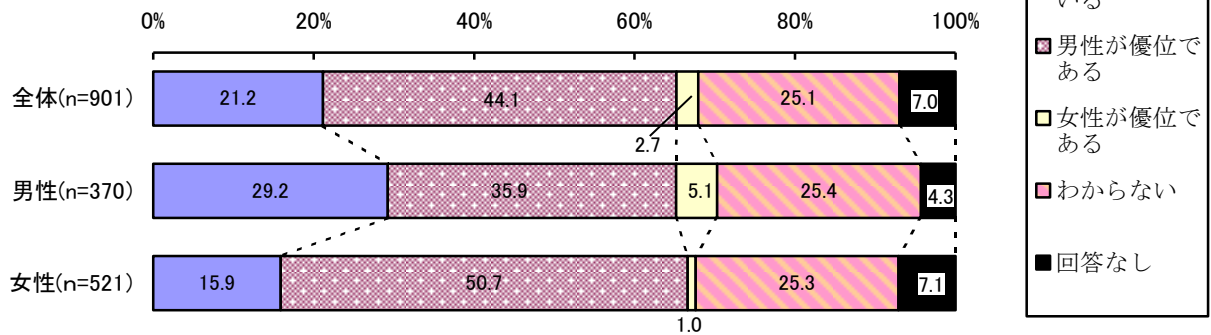
＝『学校の中で』で「平等になっている」3割以下＝

全体では、男女ともに「わからない」と回答した人が最も多くなっている。「平等になっている」と回答した人は、全体 26.3%，男性 30.0%，女性 24.2%となっている。「男性が優位である」と答えた人は、全体 9.5%，男性 7.0%，女性 11.5%となっており、「女性が優位である」は全体、男女ともに低い数値となっている。

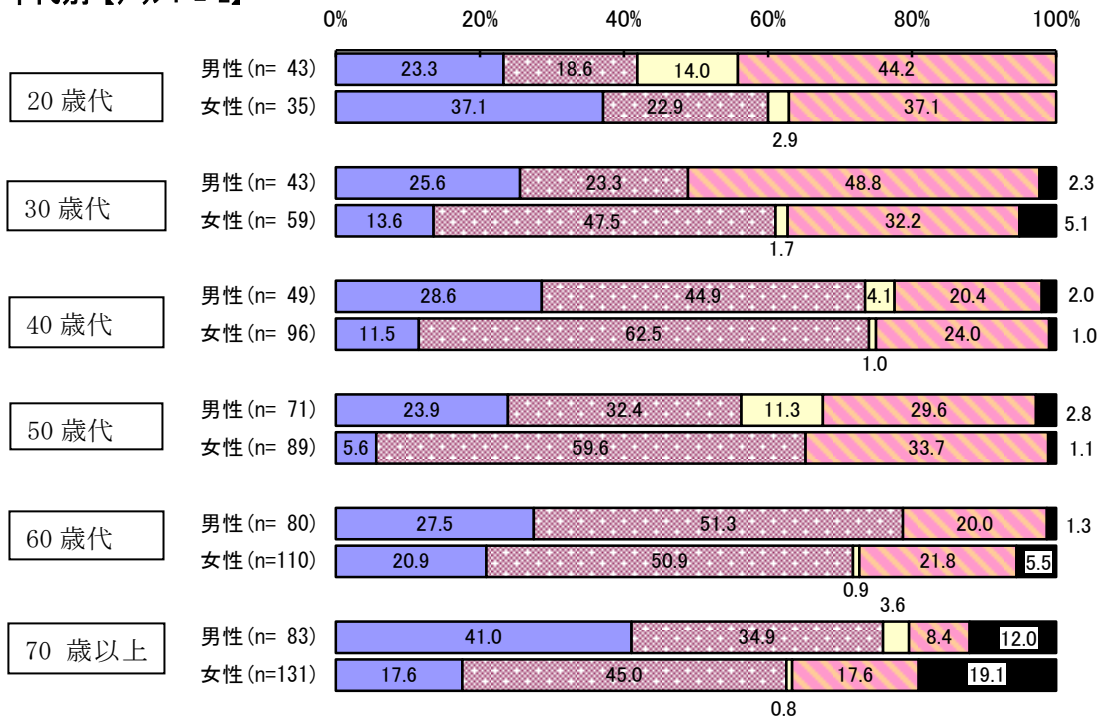
年代別では、「平等になっている」と答えた人は、男性は 20 歳代 53.5%が最も多く、次いで 40 歳代 34.7%，60 歳代 31.3%となっている。女性は 20 歳代 48.6%が最も多く、次いで 40 歳代 29.2%，60 歳代 25.5%となっている。男女ともに若い年代で「平等になっている」と回答した人が多い。「男性が優位である」と回答した人は、40 歳代女性が 16.7%で最も多く、30 歳代以上の年代で約 1 割だが、20 歳代、30 歳代男性では 0%となっている。「女性が優位である」と回答した人は、20 歳代男性が 9.3%であるが、男女とも 20 歳代以外は非常に少なく、30 歳代女性、50 歳代男性、60 歳代、70 歳代以上女性は 0%となっている。

エ 地域社会の中で

全体・男女別【グラフ1-1-1】



年代別【グラフ1-1-2】



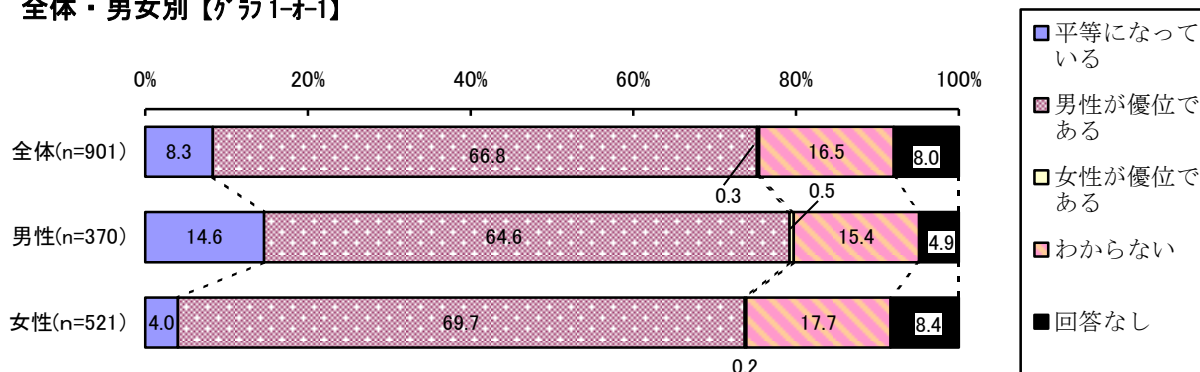
＝『地域社会の中で』は「男性が優位である」＝

全体、男女ともに、「男性が優位である」が最も多く、全体 44.1%、男性 35.9%、女性 50.7%となっている。次いで「わからない」となっており、「平等になっている」は、全体 21.2%、男性 29.2%、女性 15.9%となっている。「女性が優位である」は低い数値となっている。

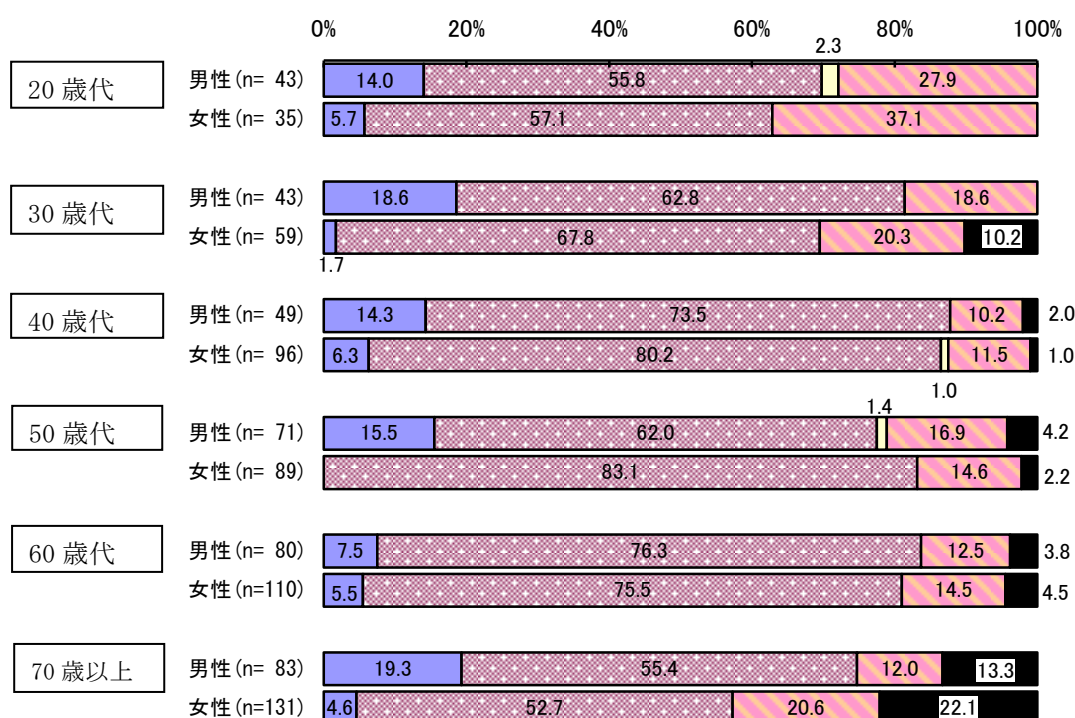
年代別では、男性をみると、70歳以上男性は「平等になっている」が最も多く 41.0%となっており、「男性が優位である」34.9%を上回っている。30歳代以上女性は「男性が優位である」の比率が高く、40歳代では 62.5%になっている。男女ともにどの年代も「女性が優位である」は低い数値になっているが、20・50歳男性は1割を超えている。

オ 政治の中で

全体・男女別【グラフ1-オ-1】



年代別【グラフ1-オ-2】



＝『政治の中で』は「男性が優位である」＝

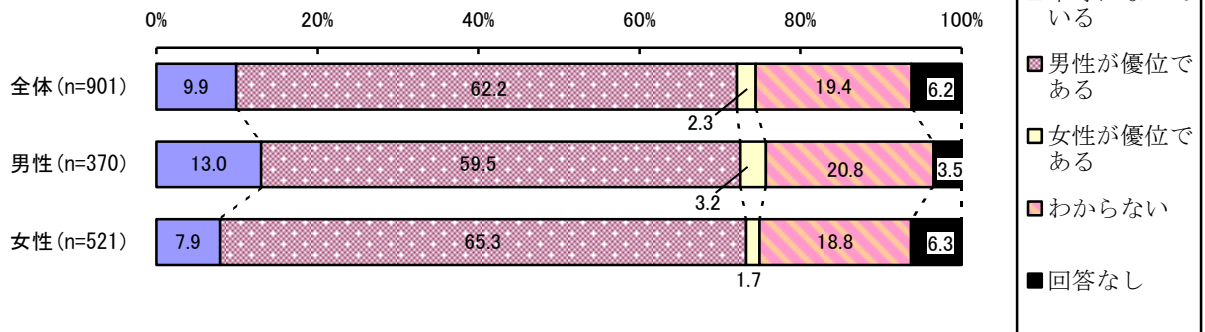
全体、男女ともに「男性が優位である」と答えた人が最も多く、全体 66.8%、男性 64.6%、女性 69.7%となっている。「平等になっている」は、全体 8.3%、男性 14.6%、女性 4.0%となっている。「女性が優位である」は、全体、男女ともに非常に低い数値となっている。

年代別では、男女ともにすべての年代で「男性が優位」が最も多く、男性は 60 歳代 76.3%、40 歳代 73.5%、30 歳代 62.8%の順となっており、女性は 50 歳代 83.1%、40 歳代 80.2%、60 歳代 75.5%、30 歳代 67.8%の順になっている。「平等になっている」については、すべての年代で男性の割合が高くなっている。「女性が優位である」は、どの年代も非常に低い数値であり、20 歳代男性及び 50 歳代男性をのぞいて 0%となっている。

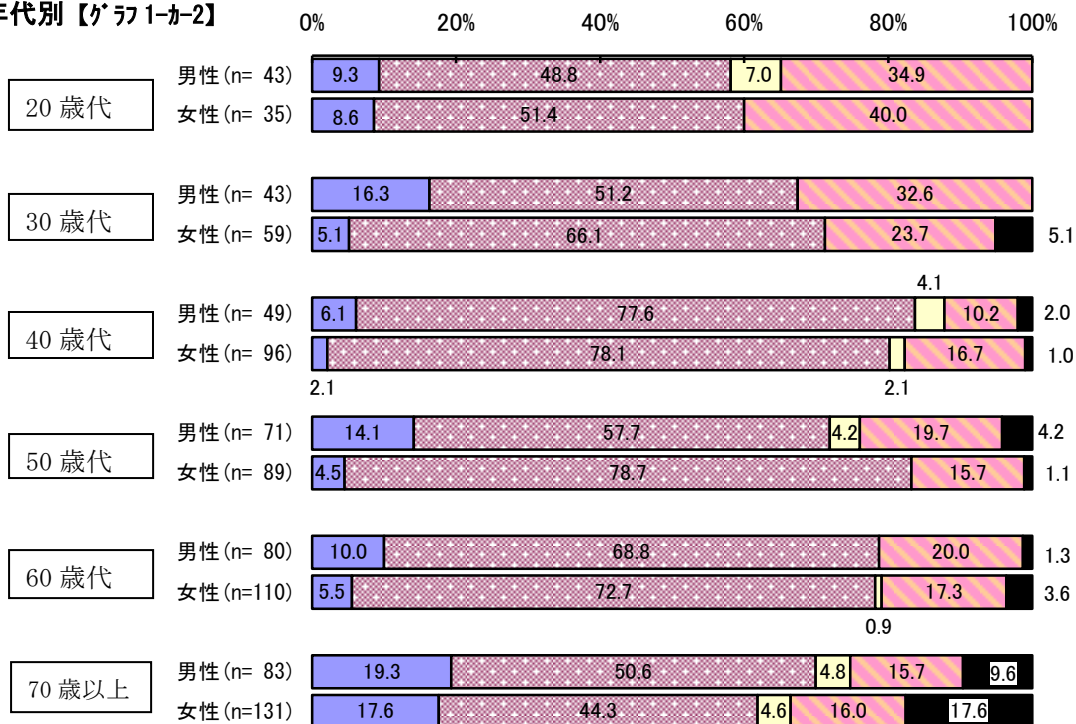
全体としては非常に低い数字であるが平成 26 年比較（男性が優位である：全体 76.9%）で 10.1 ポイント改善しており、改善幅の大きい項目である。

力 慣習・しきたり

全体・男女別【グラフ1-カ1】



年代別【グラフ1-カ2】



＝『慣習・しきたり』は「男性が優位である」＝

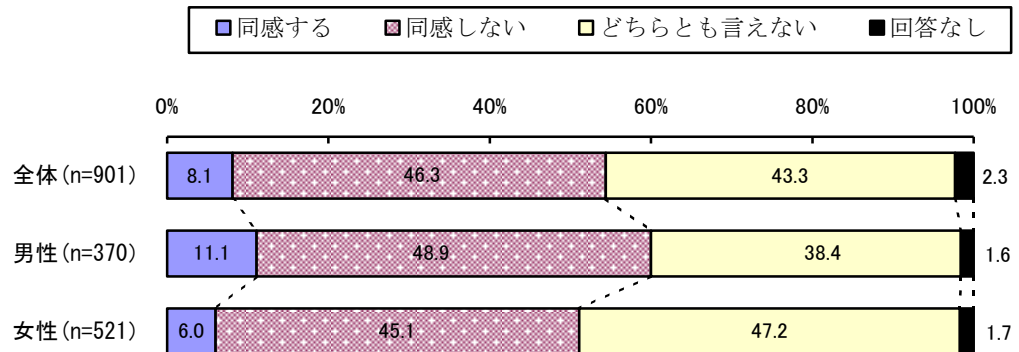
全体, 男女ともに, 「男性が優位である」と答えた人が最も多く, 全体 62.2%, 男性 59.5%, 女性 65.3%となっている。次いで「わからない」が全体 19.4%, 男性 20.8%, 女性 18.8%, 「平等になっている」は全体 9.9%, 男性 13.0%, 女性 7.9%となっている。「女性が優位である」は全体, 男女ともに低い数値になっている。

年代別では, 男女ともどの年代も「男性が優位である」が最も多く, 男性は, 40 歳代 77.6%, 60 歳代 68.8%, 50 歳代 57.7%の順になっており, 女性は 50 歳代 78.7%, 40 歳代 78.1%, 60 歳代 72.7%の順になっている。「平等になっている」は, 男性 70 歳以上 19.3%が最も多く, 次いで 70 歳以上女性 17.6%となっている。「女性が優位である」は, 男女ともどの年代も低い数値になっており, 多くの年代, 性別で 0%になっている。

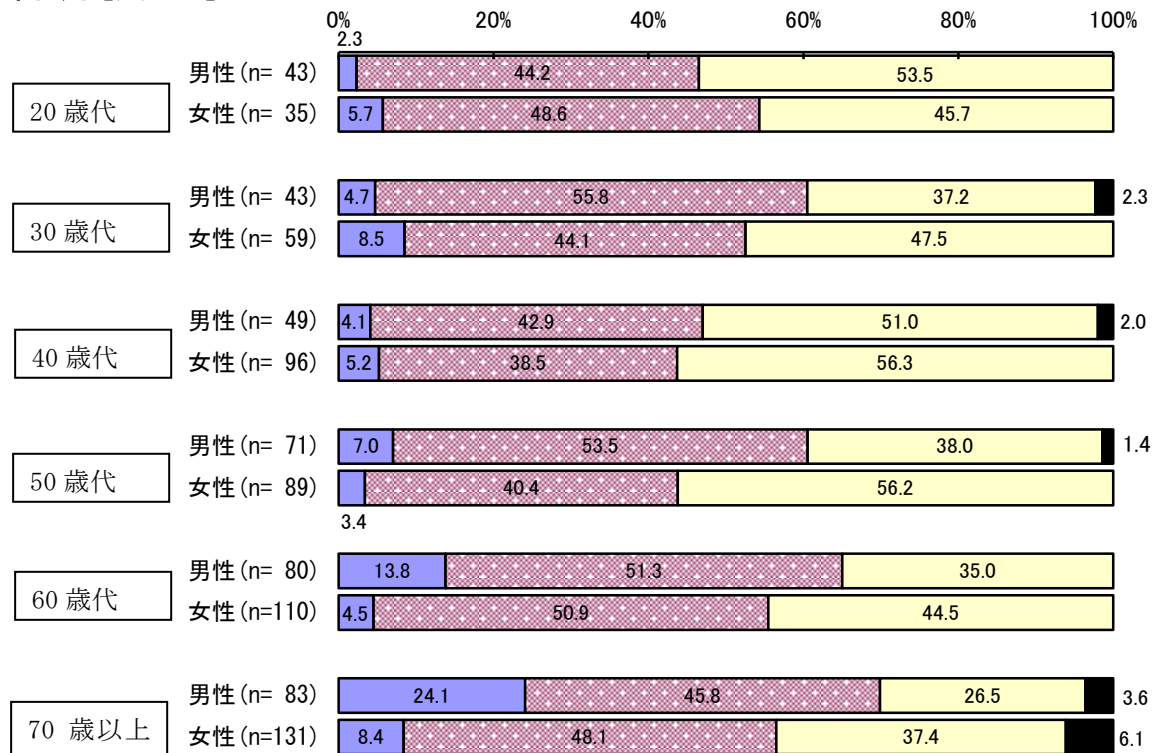
全体としては非常に低い数字であるが『政治の中で』と同様に平成 26 年比較 (男性が優位である: 全体 69.7%) で 7.5 ポイント改善しており, 改善幅の大きい項目である。

問2 「男は仕事，女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ2-1】



年代別【グラフ2-2】



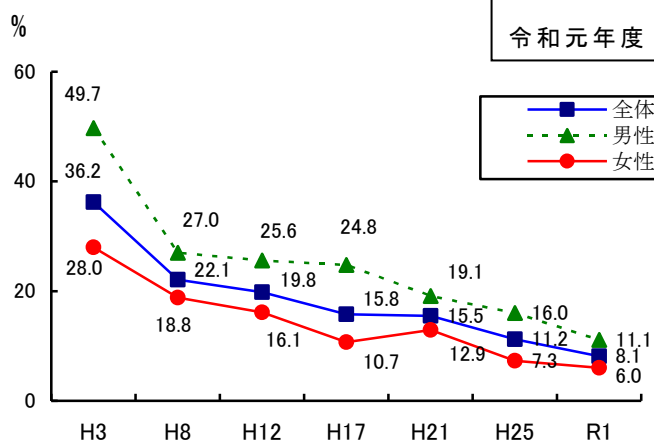
＝根強く残る「男は仕事，女は家庭」に同意する意識のなか，同意しない層も拡大＝

全体，男性は，「同意しない」と答えた人が最も多く，全体 46.3%，男性 48.9%，女性 45.1%となっており，次いで「どちらとも言えない」が全体 43.3%，男性 38.4%，女性 47.2%となっている。「同意する」は全体 8.1%，男性 11.1%，女性 6.0%と少なめではあるが，男性の場合 1 割程度の人固定的性別役割分担意識を持っている。

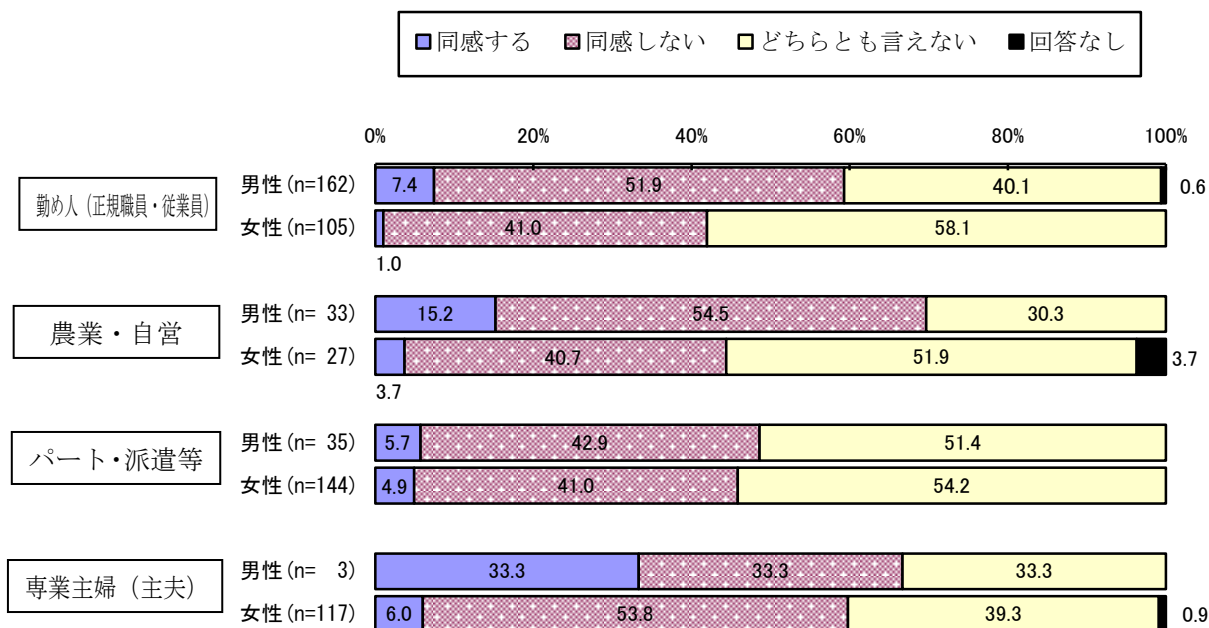
年代別では，「同意する」は，男性の場合，70 歳以上のみが 24.1%と 2 割を越えており，年齢層が上がるほど，固定的性別役割分担意識を持っている人の割合が高くなる傾向にある。

「同感する」と答えた人の推移【グラフ2-3】

平成 3 年度 全体 (n= 957)	男性 (n=360)	女性 (n=597)
平成 8 年度 全体 (n= 997)	男性 (n=396)	女性 (n=601)
平成 12 年度 全体 (n= 566)	男性 (n=219)	女性 (n=347)
平成 17 年度 全体 (n= 884)	男性 (n=328)	女性 (n=554)
平成 21 年度 全体 (n=1039)	男性 (n=437)	女性 (n=596)
平成 26 年度 全体 (n= 923)	男性 (n=393)	女性 (n=519)
令和元年度 全体 (n= 901)	男性 (n=370)	女性 (n=521)



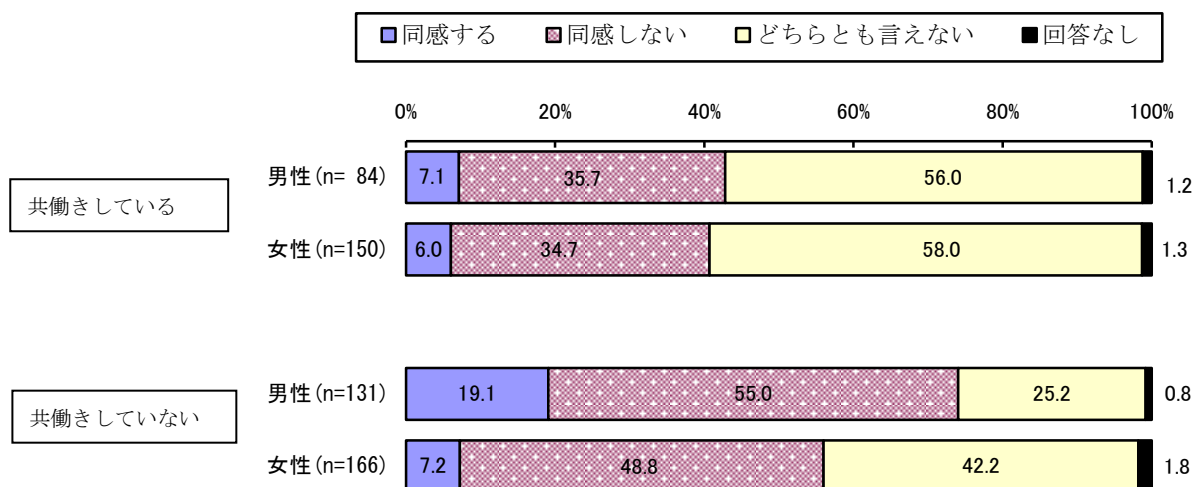
職業別（4職業）【グラフ2-4】



5年ごとのアンケート結果で「同感する」と答えた人の推移をみると、平成26年度の数値に比べ、全体、男女とも下がってきている。平成3年度に比べると、全体28.1ポイント、男性38.6ポイント、女性22.0ポイント下がっている。また、「同感しない」の割合も平成26年度の数値（全体37.1%）と比較すると9.2ポイント改善している。

職業別では、「同感する」と答えた人が最も多いのは、男性では、専業主夫33.3%、次いで農業・自営業で15.2%となっている。女性では、専業主婦6.0%、次いでパート・派遣等4.9%となっている。

共働き別【グラフ2-5】

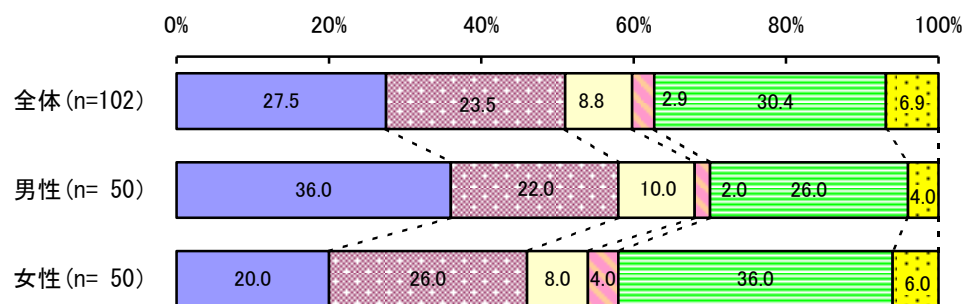


共働き別で「同感する」と答えた人は、男女とも共働きしている人より共働きしていない人の方が多い傾向にある。男性では、共働きしている人7.1%に対し、共働きしていない人19.1%、女性では、共働きしている人6.0%に対し、共働きしていない人7.2%となっている。

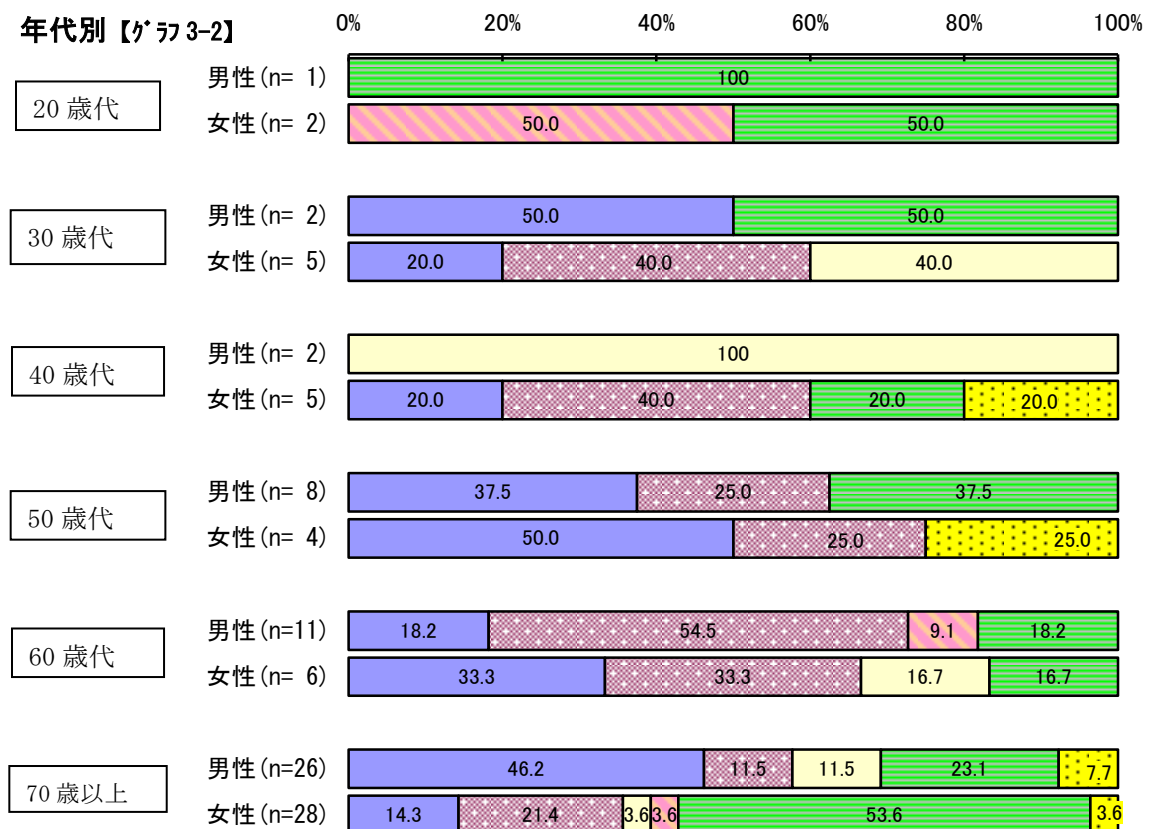
問3 問2で「同感する」と答えた方におたずねします。同感する理由であなたの考えに最も近いものを、次の中から1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ3-1】

- 男性は仕事、女性は家事・育児・介護に向いているから
- 家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから
- 妻が働きに出ると、家事・育児・介護に差し支えるから
- 女性は仕事を持って、不利な状況におかれるから
- 夫と妻の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいくから
- その他



年代別【グラフ3-2】



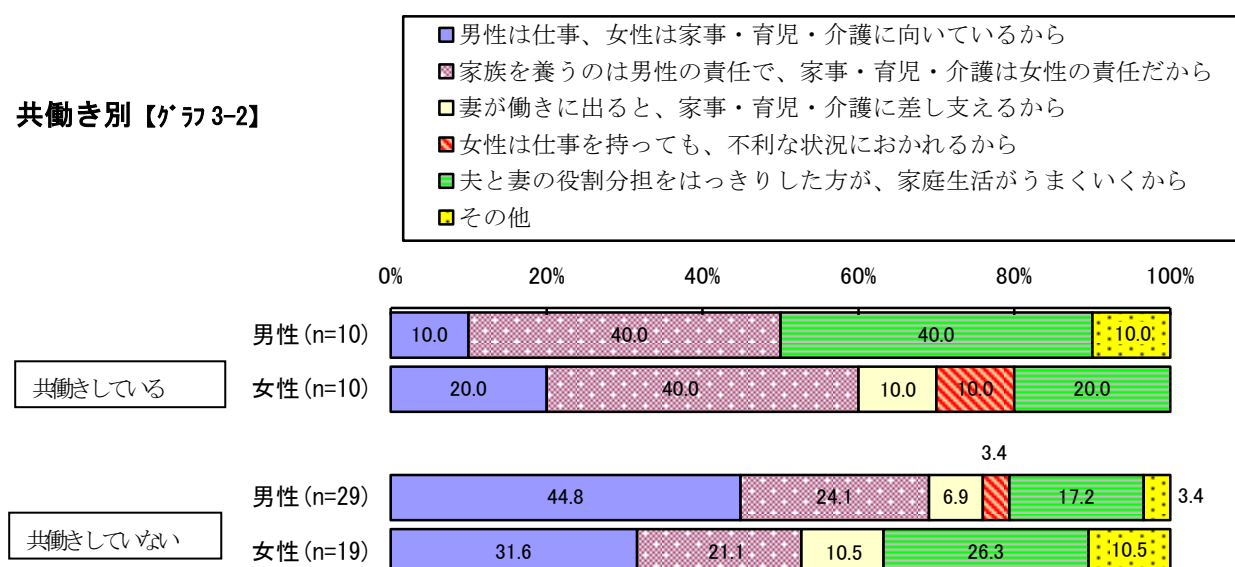
全体・男女別順位【表3-1】

「男は仕事，女は家庭」に同感する理由	全体（順位）	男性（順位）	女性（順位）
1 男は仕事，女は家事・育児・介護に向いているから	2	1	3
2 家族を養うのは男性の責任で，家事・育児・介護は女性の責任だから	3	3	2
3 妻が働きに出ると，家事・育児・介護に差し支えるから	4	4	4
4 女性は仕事を持っても，不利な状況におかれるから	6	5	6
5 夫と妻の役割分担をはっきりした方が，家庭生活がうまくいくから	1	2	1
6 その他	5	5	5

=理由は「夫と妻の役割分担をはっきりした方が，家庭生活がうまくいくから」=

「男は仕事，女は家庭」に「同感する」と答えた人にその理由をたずねたところ，全体，女性の1位は「夫と妻の役割分担をはっきりした方が，家庭生活がうまくいくから」で，全体30.4%，女性36.0%となっている。男性の1位は「男は仕事，女は家事・育児・介護に向いているから」で，36.0%となっている。2位は，全体は「男は仕事，女は家事・育児・介護に向いているから」で27.5%となっている。女性の2位は「家族を養うのは男性の責任で，家事・育児・介護は女性の責任だから」で26.0%となっている。男性の2位は「夫と妻の役割分担をはっきりした方が，家庭生活がうまくいくから」26.0%となっている。

共働き別【グラフ3-2】

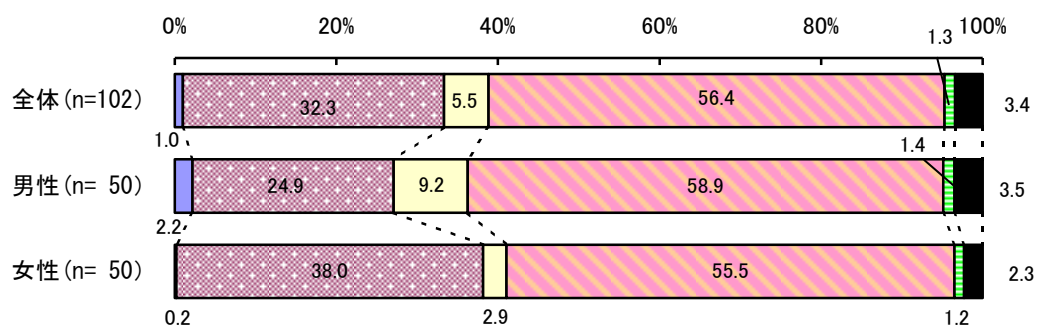


共働き別では，共働きしている人で最も多かったのは，男女とも，「家族を養うのは男性の責任で，家事・育児・介護は女性の責任だから」男性40.0%，女性40.0%，また男性は同率で「夫と妻の役割分担をはっきりした方が，家庭生活がうまくいくから」40.0%となっている。共働きしていない人で最も多かったのは，男性，女性ともに「男性は仕事，女性は家事・育児・介護に向いているから」で男性44.8%，女性31.6%となっている。

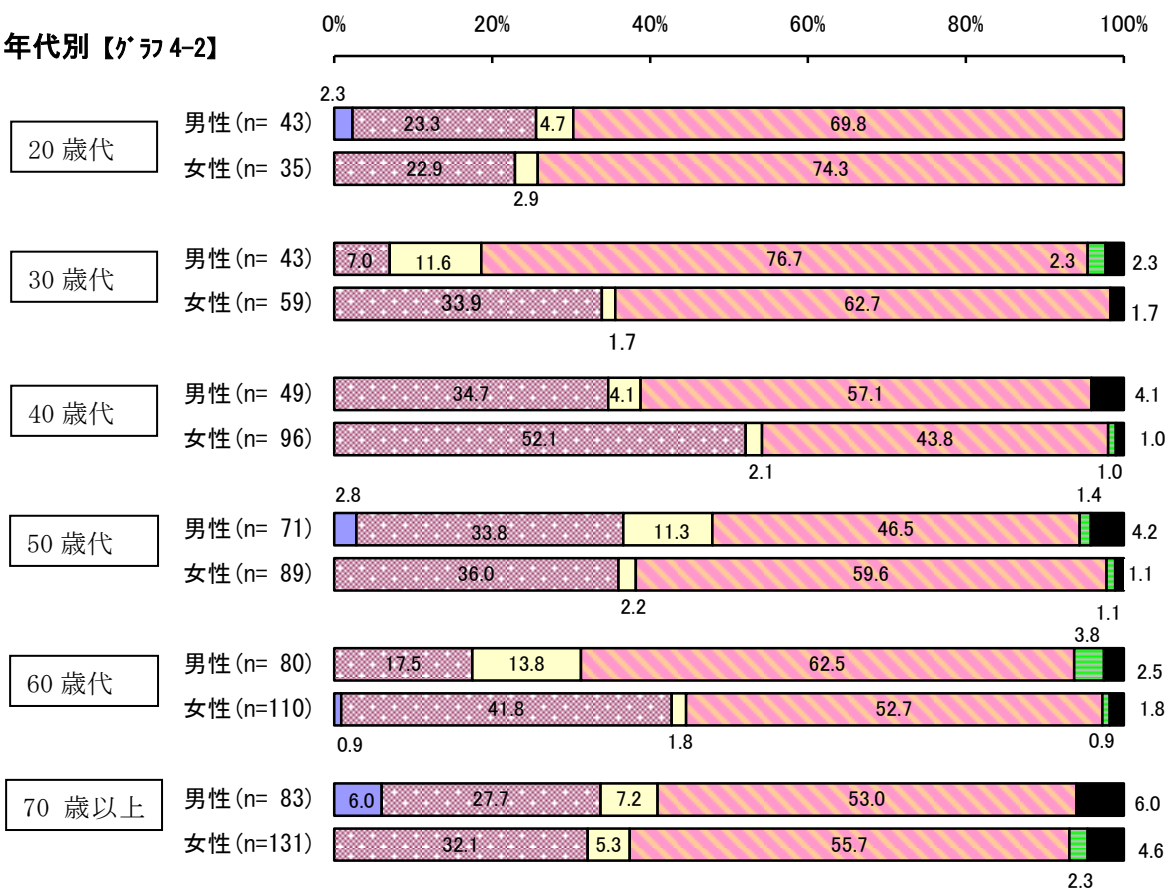
問4 これからの子どもは、どのような方針で育てるのが望ましいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ4-1】

- 「男は仕事、女は家庭」という役割分担を守るよう育てる
- 女の子も経済的に自立できるよう、男の子も家事ができるよう育てる
- 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる
- 男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる
- その他
- 回答なし



年代別【グラフ4-2】



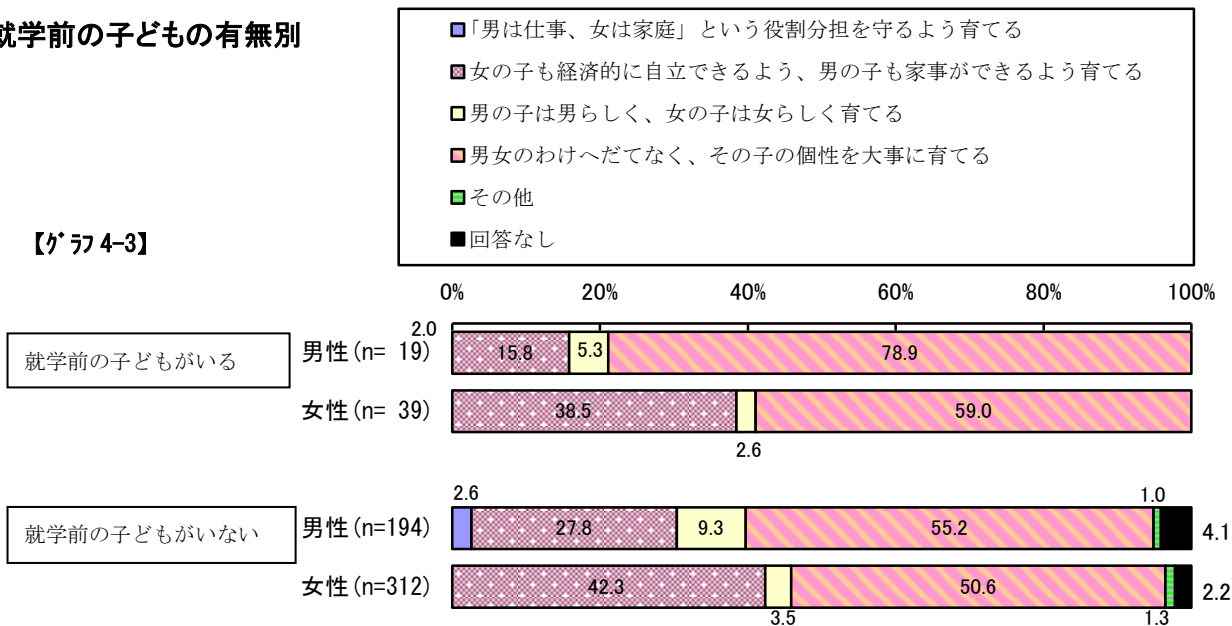
=子どもは「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」=

全体、男女ともに最も多かったのは、「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」で、全体 56.4%，男性 58.9%，女性 55.5%，次いで「女の子も経済的に自立できるよう、男の子も家事ができるよう育てる」が全体 32.3%，男性 24.9%，女性 38.0%となっている。「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は全体 5.5%，男性 9.2%，女性 2.9%となっている。「『男は仕事、女は家庭』という役割分担を守るよう育てる」は全体、男女ともに低い数値になっている。

年代別で見ると、40歳代女性をのぞいたすべての年代で「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」が最も多くなっている。

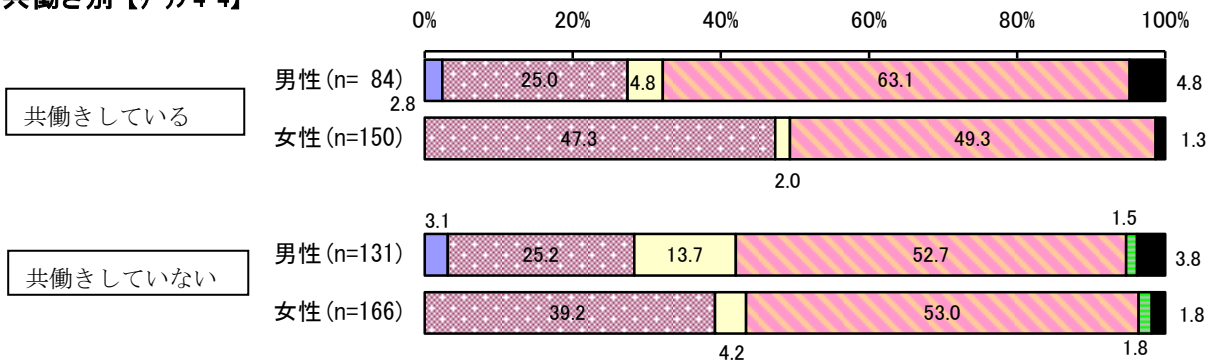
就学前の子どもの有無別

【グラフ4-3】



就学前の子どもの有無別で見ると、有無に関わらず、「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」が最も多い。

共働き別【グラフ4-4】

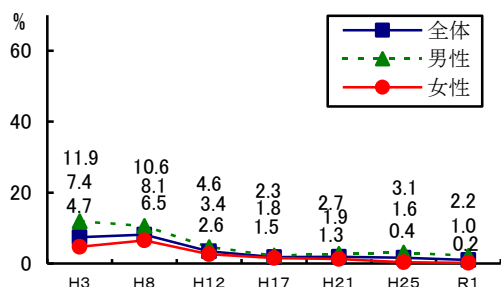


共働き別では、共働きしていない男性で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」が 13.7%となっている。

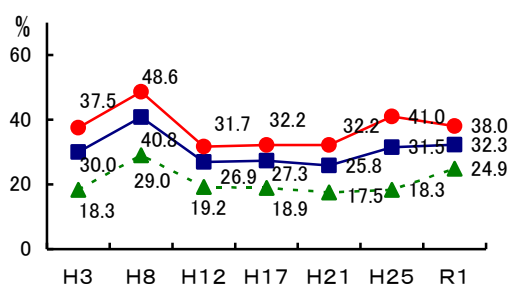
回答別の推移【グラフ4-5】

平成 3 年度	全体 (n= 957)	男性 (n=360)	女性 (n=597)
平成 8 年度	全体 (n= 997)	男性 (n=396)	女性 (n=601)
平成 12 年度	全体 (n= 566)	男性 (n=219)	女性 (n=347)
平成 17 年度	全体 (n= 884)	男性 (n=328)	女性 (n=554)
平成 21 年度	全体 (n=1039)	男性 (n=437)	女性 (n=596)
平成 26 年度	全体 (n= 923)	男性 (n=393)	女性 (n=519)
令和元年度	全体 (n= 901)	男性 (n=370)	女性 (n=521)

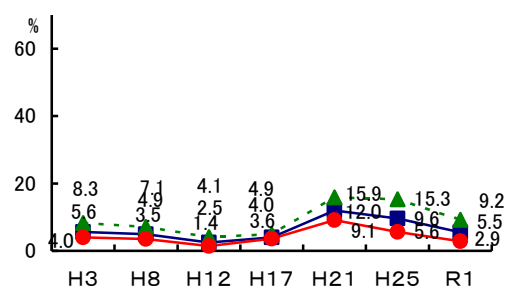
「男は仕事，女は家庭」という役割分担を守るよう育てる



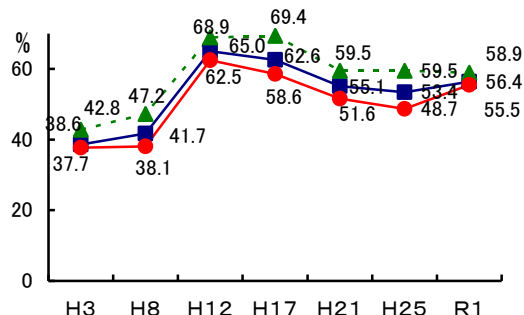
女の子も経済的に自立できるよう，男の子も家事ができるよう育てる



男の子は男らしく，女の子は女らしく育てる
(H3~17は「男の子は積極的に，女の子は控えめに育てる」)



男女のわけへだてなく，その子の個性を大事に育てる



項目別に，5年ごとに行ったアンケート結果の推移をみると，「『男は仕事，女は家庭』という役割分担を守るよう育てる」は，どの年度も低い数値ではあるが，平成26年度より下がっている。

「男の子は男らしく，女の子は女らしく育てる」は，低い数値ではあるが，平成21年度をピークに下がっている。

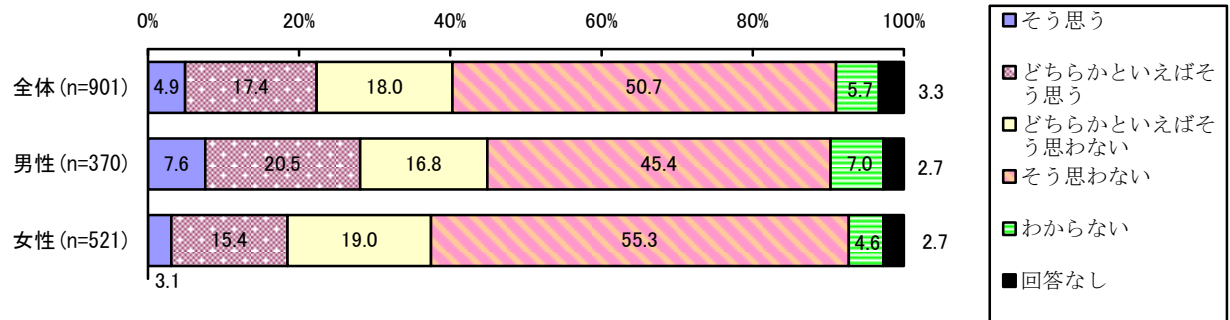
「男女のわけへだてなく，その子の個性を大事に育てる」は，5割と高い数値を保っている。

＜ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておたずねします。＞

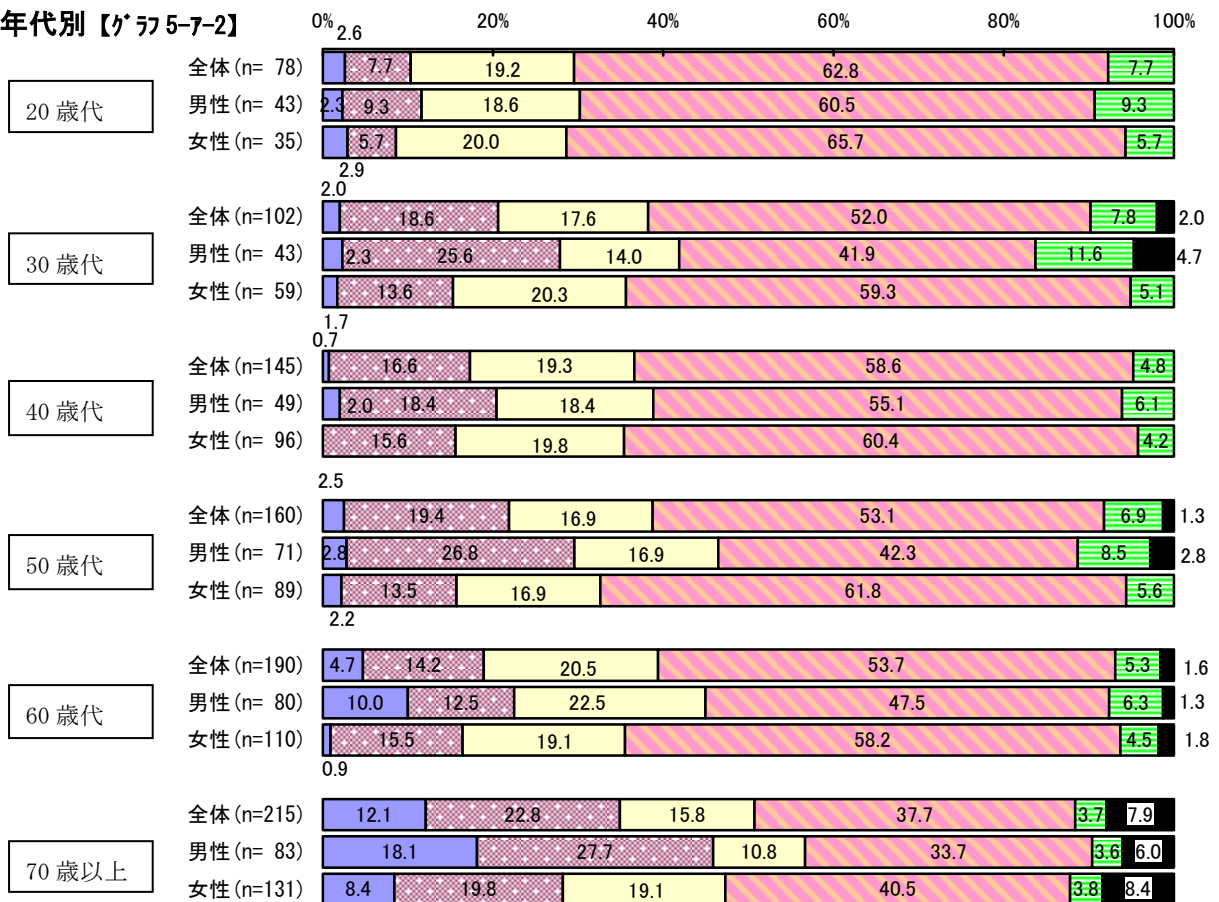
問5 ア～キの項目について、あなたはどのように思いますか。それぞれ1～5の中から1つを選んでください。

ア 男性は働き、女性は家庭を守り家事・育児・介護に専念するのがよい

全体・男女別【グラフ5-7-1】



年代別【グラフ5-7-2】

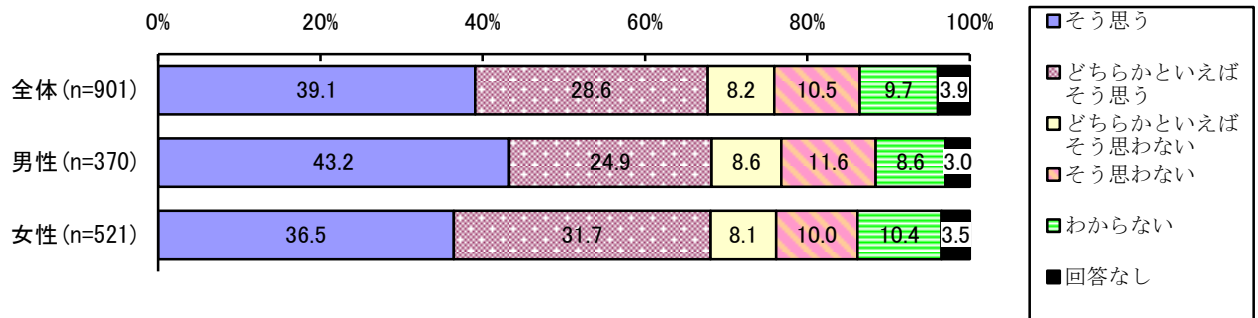


＝男性は働き、女性は家事に専念するのがよいと思う人2割、思わない人7割＝

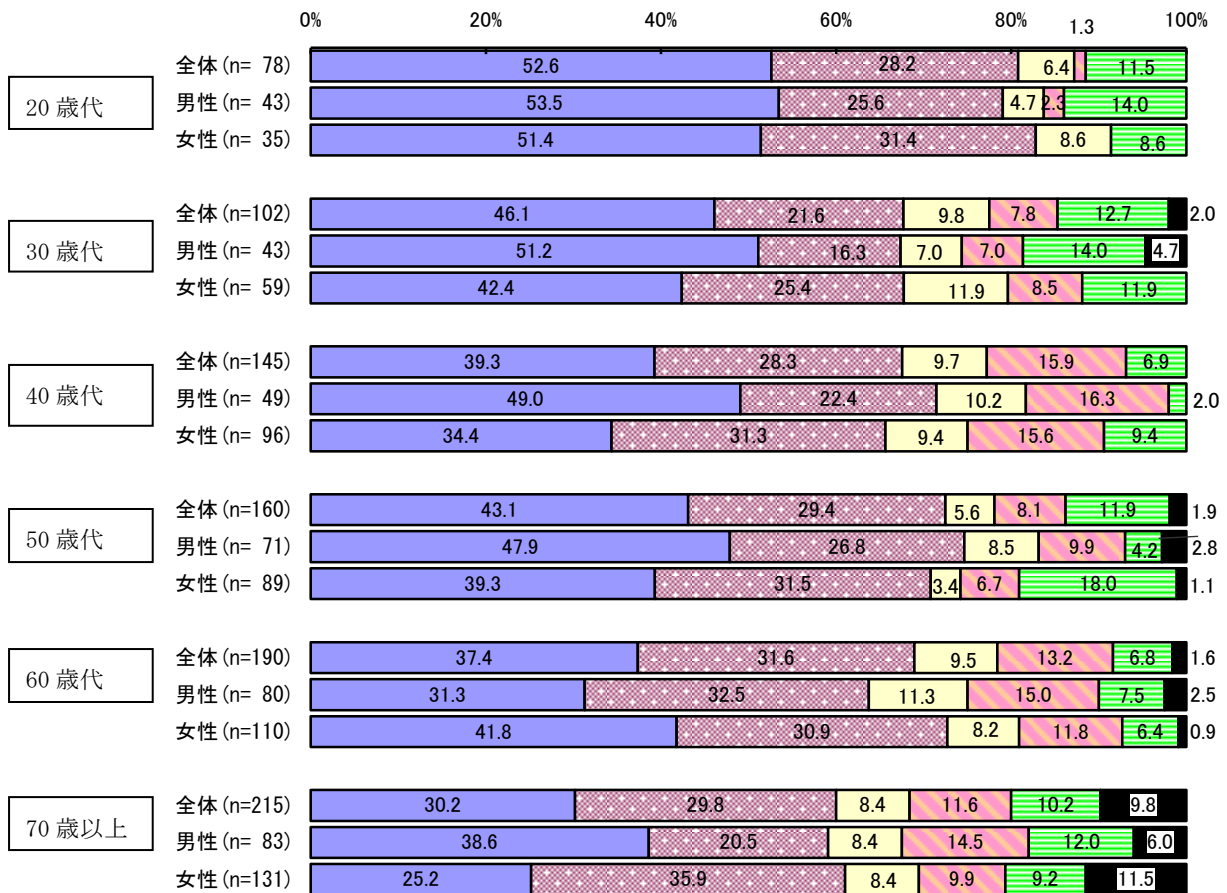
全体では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると22.3%になっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせると68.7%で半数以上となっている。男女別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると男性28.1%、女性18.5%となっており、年代別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると最も多いのは、70歳以上男性で45.8%となっている。

イ 男女のどちらが働いても、家事・育児・介護に専念してもよい

全体・男女別【グラフ5-1】



年代別【グラフ5-2】



＝男女のどちらが働いても家事・育児・介護に専念してもよいと思う人6割以上＝

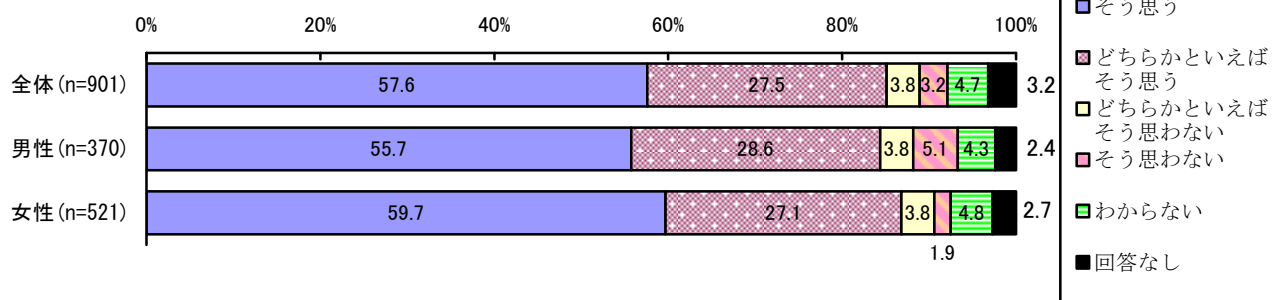
全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人を合わせると67.7%で、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせると18.7%となっている。

男女別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると男性68.1%、女性68.2%となっている。

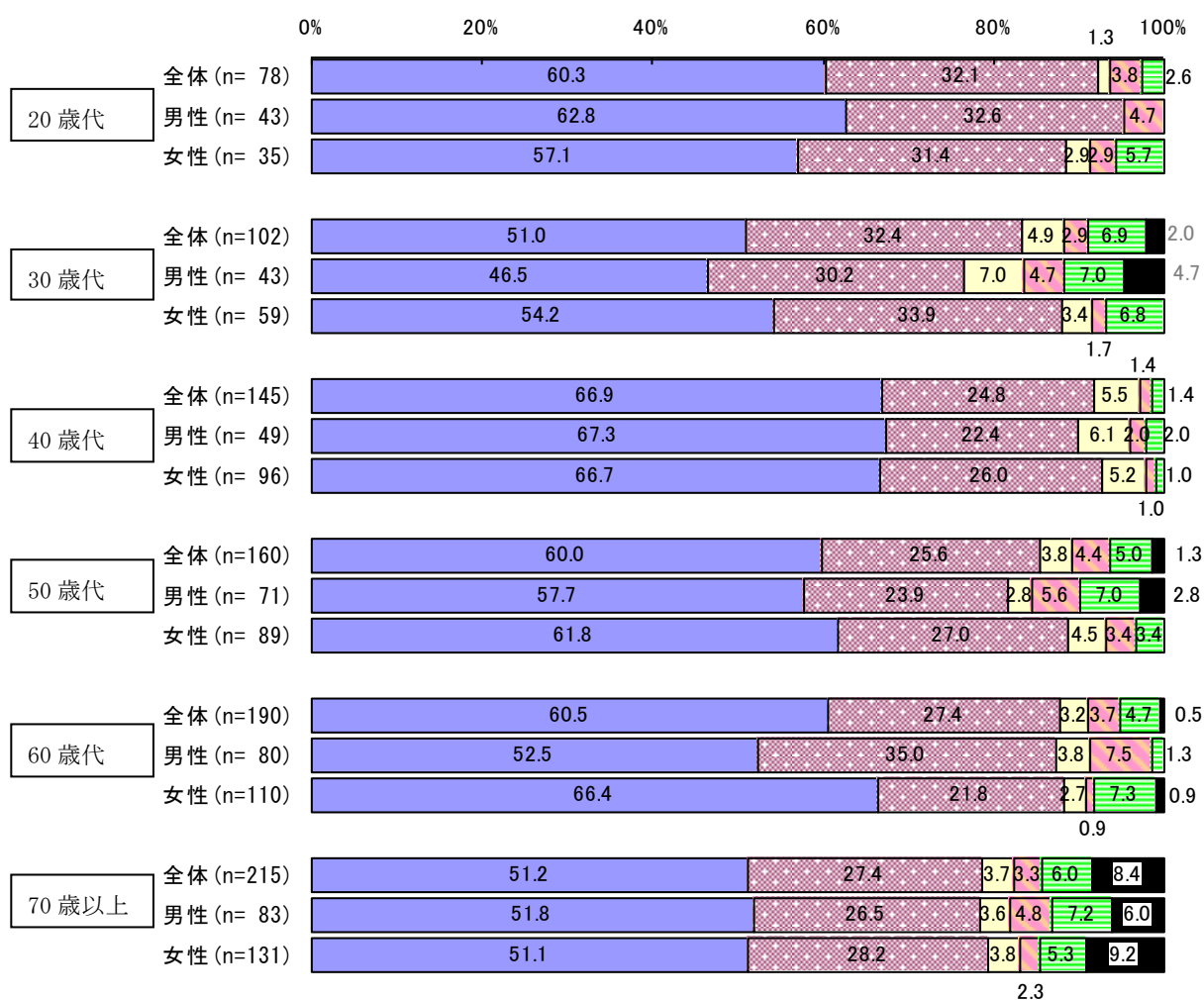
年代別では、どの年代も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた方が、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせたよりも多くなっている。

ウ 男女どちらも、仕事と家庭を両立できるのがよい

全体・男女別【グラフ5-ウ-1】



年代別【グラフ5-ウ-2】



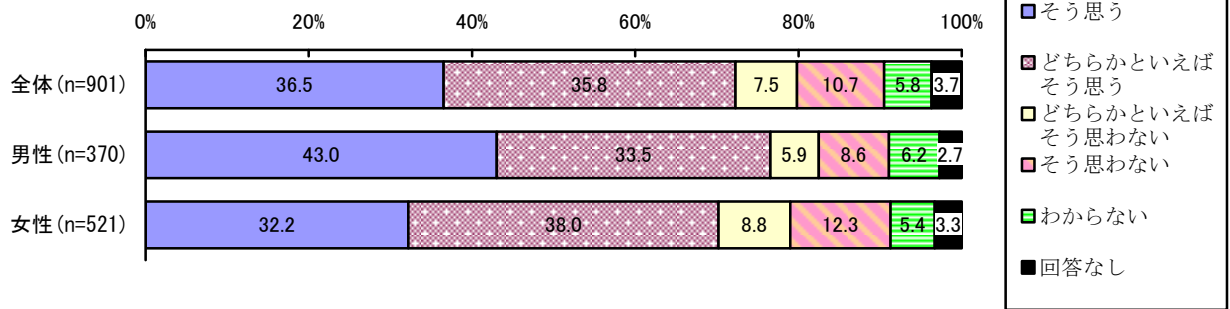
＝男女どちらも仕事と家庭を両立できるのがよいと思う人約8割強＝

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人を合わせると 85.1%となっており、男女別でも男性 84.3%、女性 86.8%となっている。

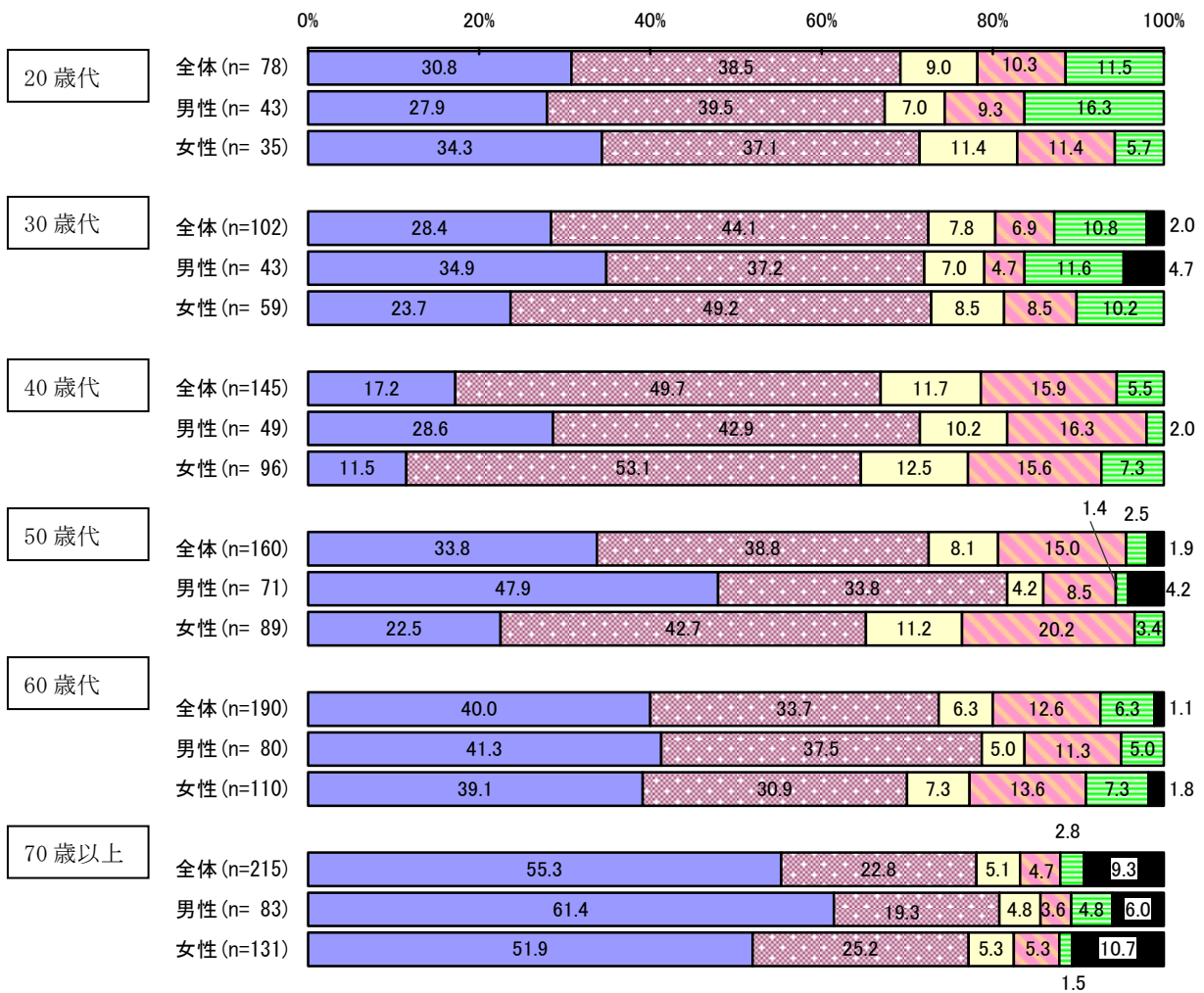
年代別では、男女ともにどの年代も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた方が、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせたよりも多くなっている。

エ 女性も働いた方がよいが、子どもが小さいうちは家庭にいる方がよい

全体・男女別【グラフ5-エ-1】



年代別【グラフ5-エ-2】



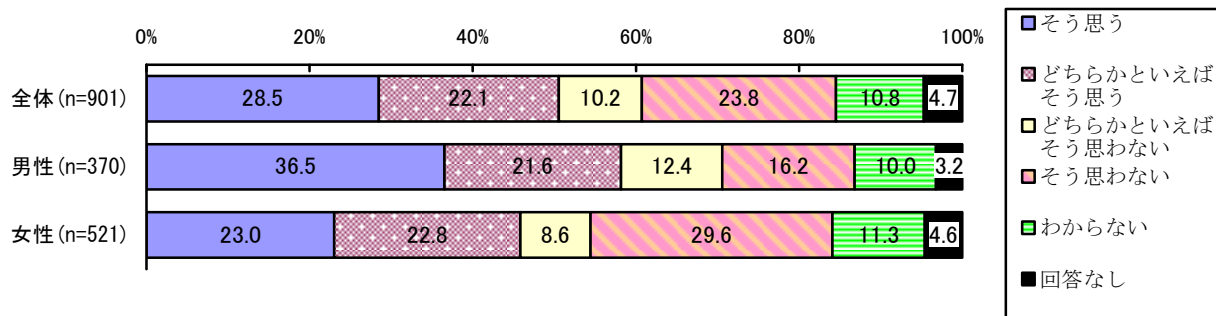
＝女性も働いた方がよいが、子どもが小さいうちは家庭にいる方がよいと思う人約7割＝

全体では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると72.3%となっており、男女別では、男性76.5%、女性70.2%となっており、男女ともに女性は子どもが小さいうちは家庭にいる方がよいと思う人が多くなっている。

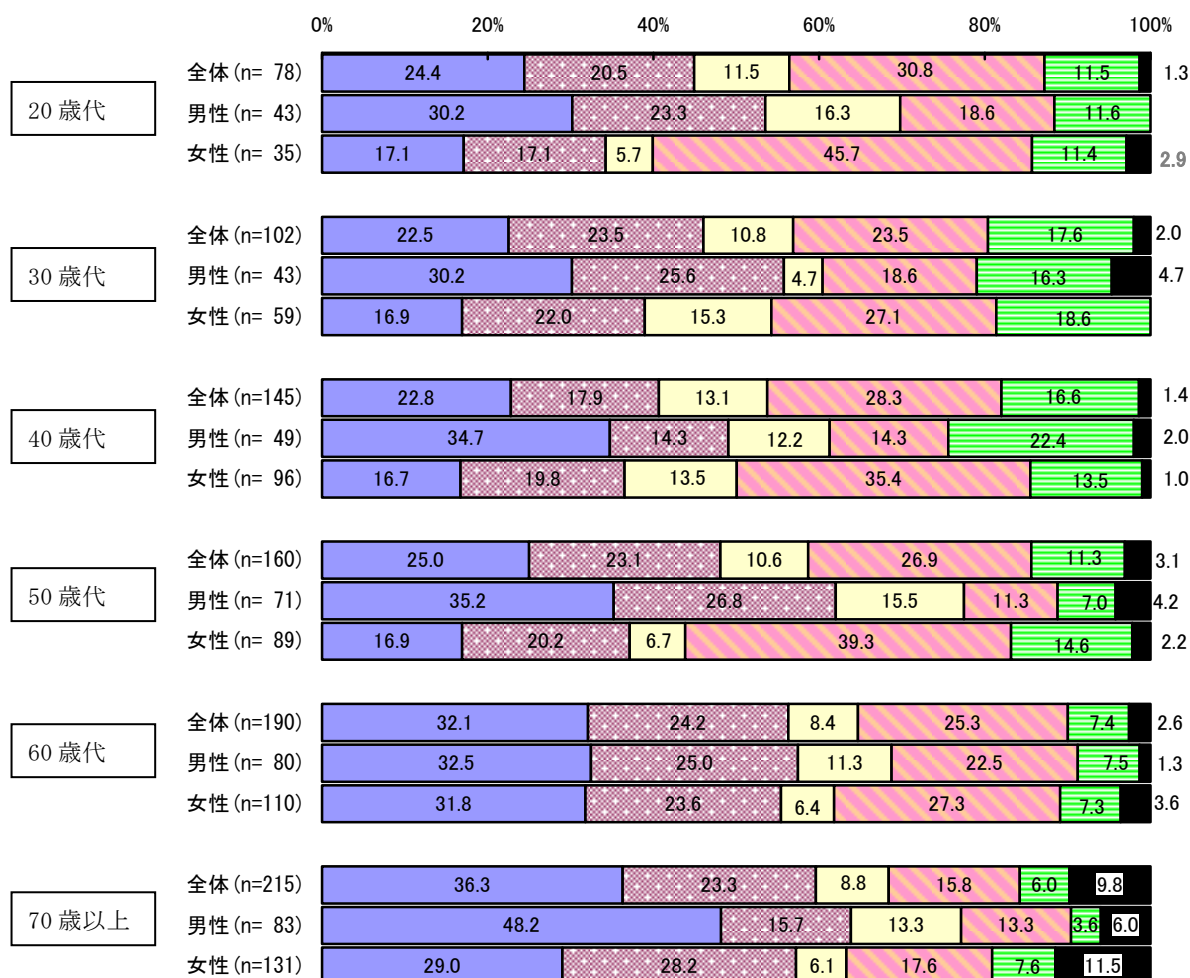
年代別では、男女ともにどの年代も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた方が、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせたよりも多くなっている。

オ 家事・育児・介護をきちんとするなら，女性が働いてもよい

全体・男女別【グラフ5-オ-1】



年代別【グラフ5-オ-2】



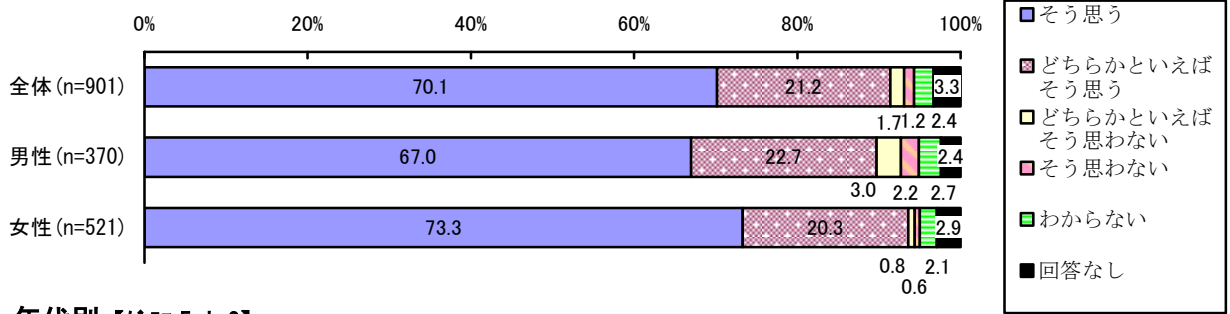
＝家事・育児・介護をきちんとするなら，女性が働いてもよいと思う人5割以上＝

全体では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると50.6%となっており，男女別では，男性58.1%，女性45.8%となっている。

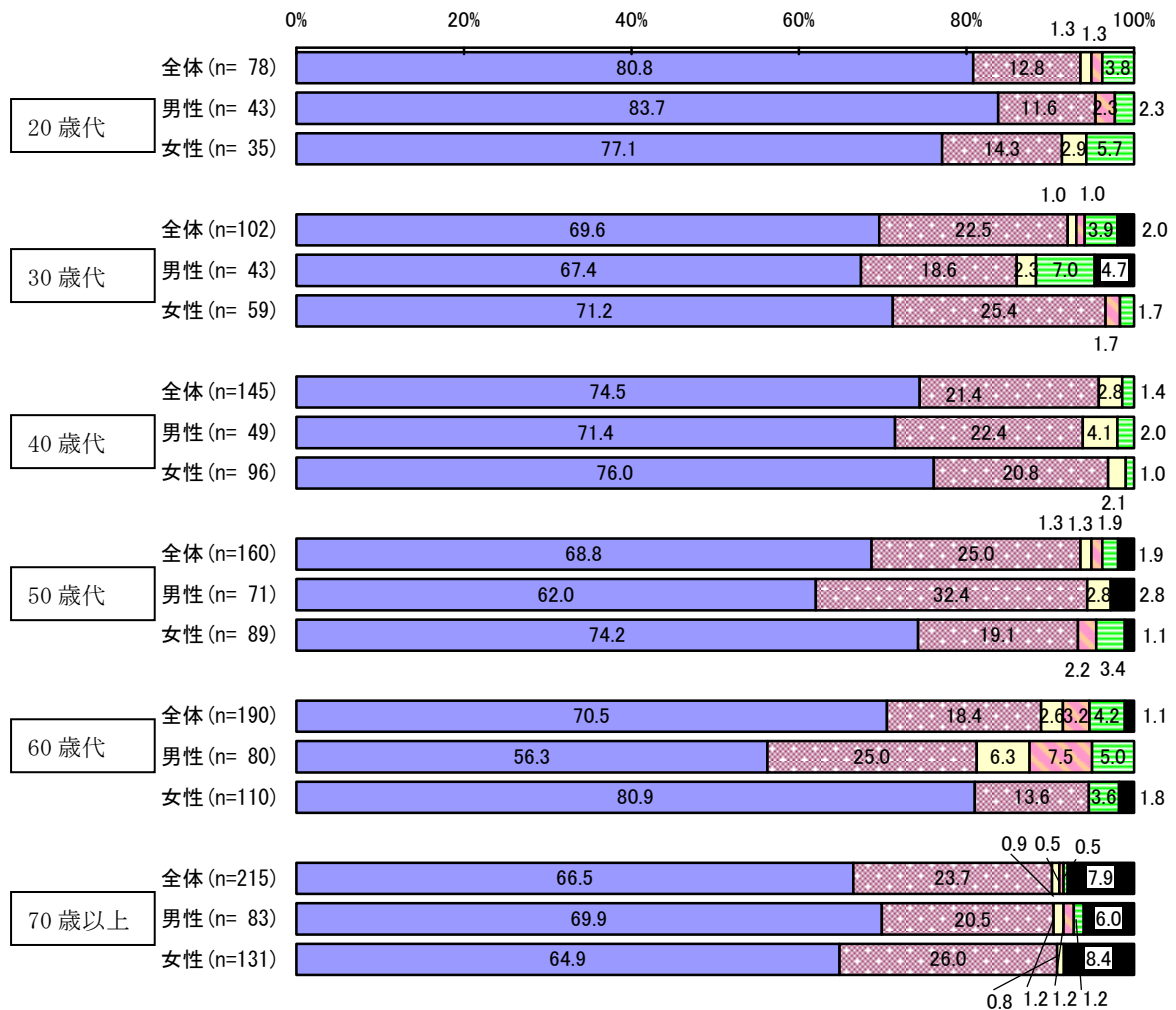
年代別では，20～50代女性は「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた方が，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせたよりも多くなっている。

カ 共働きの場合、家事・育児・介護は男女で行うのがよい

全体・男女別【グラフ5-カ-1】



年代別【グラフ5-カ-2】



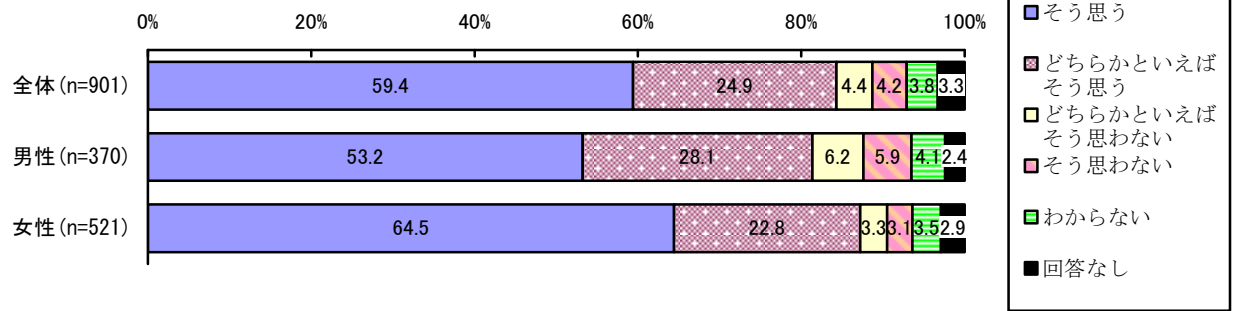
＝共働きの場合、家事・育児・介護は男女で行うのがよいと思う人9割＝

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 91.3%となっており、男女別では、男性 89.7%、女性は 93.6%となっている。

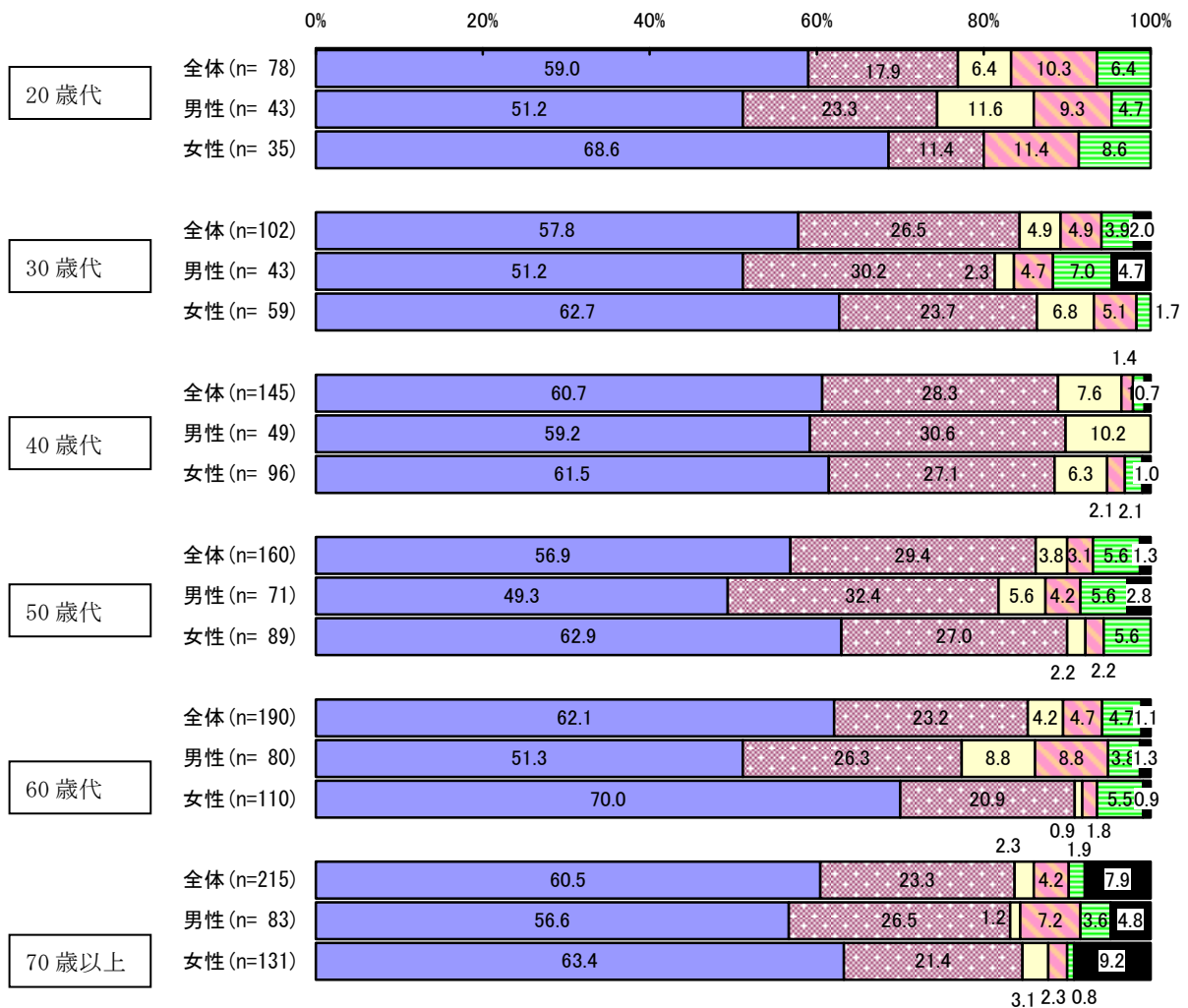
年代別では、男女ともにどの年代も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた方が、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせたよりも圧倒的に多くなっている。

キ 共働きに限らず，家事・育児・介護は男女で行うのがよい。

全体・男女別【グラフ5-キ1】



年代別【グラフ5-キ2】



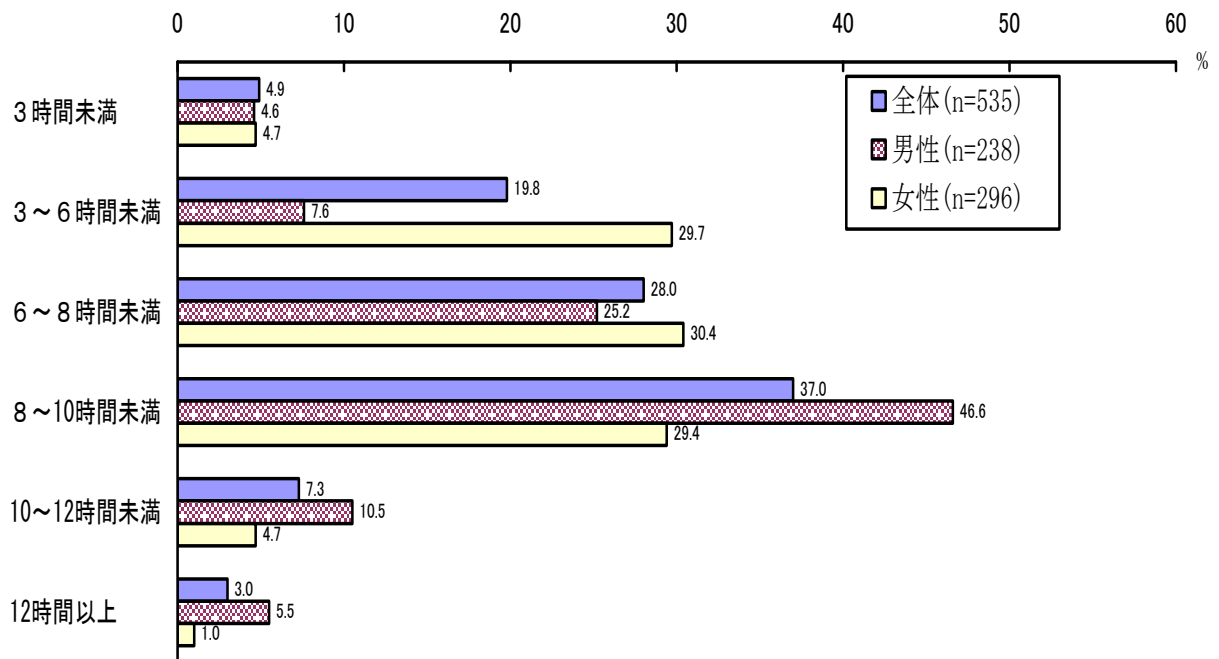
＝共働きに限らず，家事・育児・介護は男女で行うのがよいと思う人約8割＝

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 84.3%となっており，男女別では，男性 81.3%，女性が 87.3%となっている。

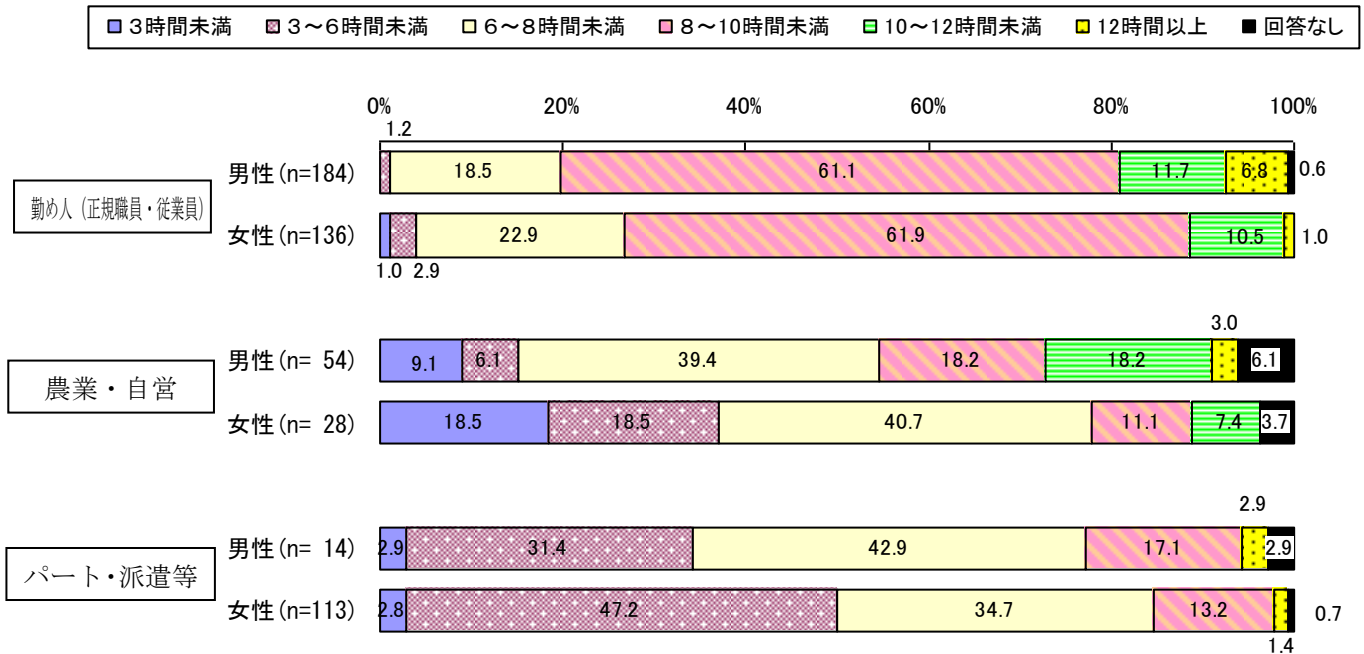
年代別では，男女ともにどの年代も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた方が，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせたよりも多くなっている。

問6 【仕事をしている方におたずねします。】あなたの一日平均の労働時間はどれくらいですか。次の中から1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ6-1】



職業別（3業種のみ比較）【グラフ6-2】



＝長時間労働の割合は下がるも依然高め＝

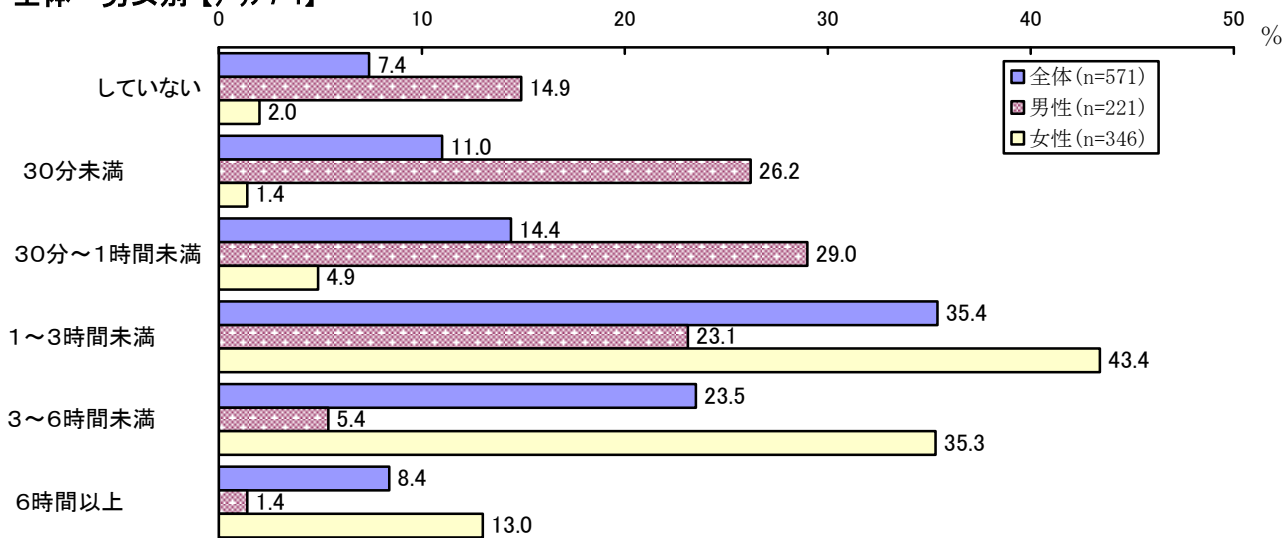
全体では、最も多いのは「8～10時間未満」37.0%、次いで「6～8時間未満」28.0%、「3～6時間未満」で19.8%となっている。

男女別では、男性が最も多いのは「8～10時間未満」46.6%、次いで「6～8時間未満」25.2%、「10～12時間未満」10.5%となっている。女性が最も多いのは「6～8時間未満」30.4%となっており、次いで「3～6時間未満」29.7%、「8～10時間未満」29.4%となっている。男性は「10～12時間未満」10.5%、「12時間以上」5.5%を合わせると16.0%となっており、男性の約6人に1人が一日10時間以上働いている。

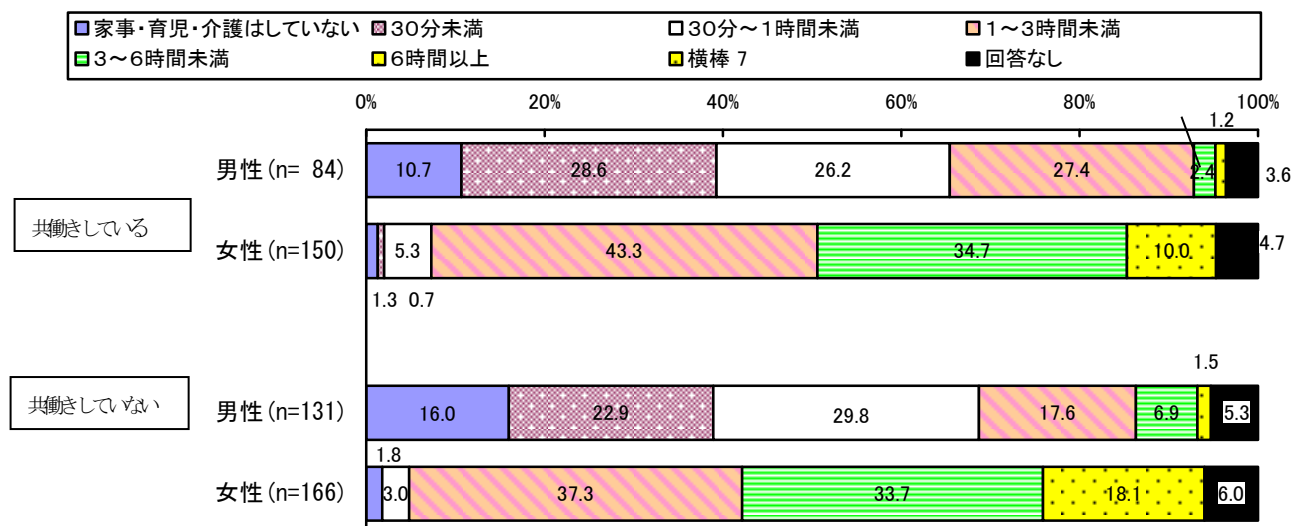
職業別（3業種のみ）では、勤め人の男性は「10～12時間未満」11.7%、と「12時間以上」6.8%を合わせると18.5%になっており、依然高い割合であるが、前回調査（平成26年25.0%）より大きく割合を下げている。

問7 【結婚している方におたずねします。】あなたが一日（平日）に家事・育児・介護に関わる時間はどれくらいですか。次の中から1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ7-1】



共働き別【グラフ7-2】



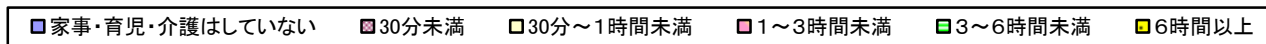
＝結婚している男性が、家事・育児・介護に関わる時間0～30分未満は約4割＝

全体では、最も多いのは「1～3時間未満」35.4%、次いで「3～6時間未満」23.5%、「30分～1時間未満」14.4%となっている。

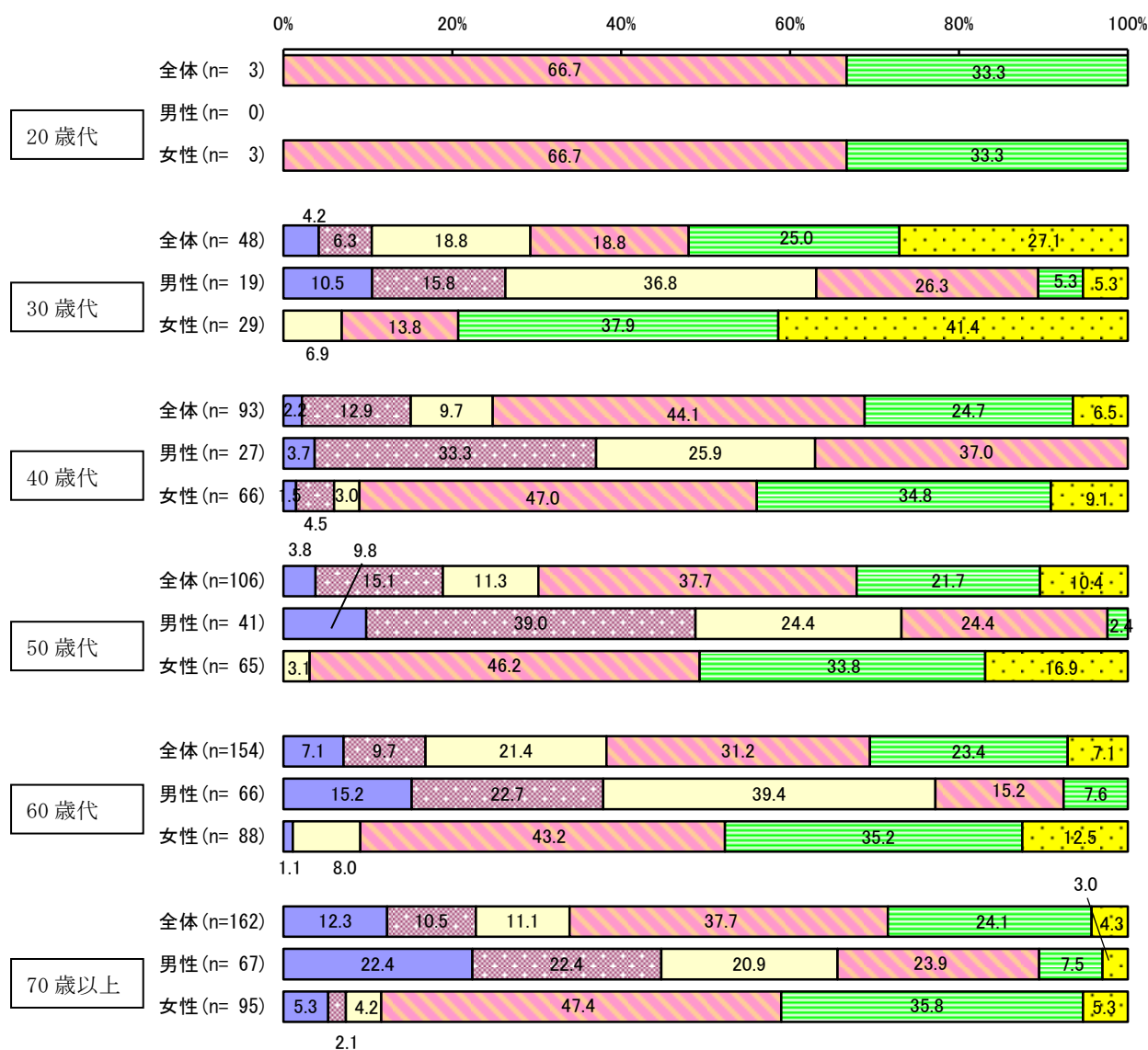
男女別では、男性が最も多いのは「30分～1時間未満」29.0%、次いで「30分未満」26.2%、「1～3時間未満」23.1%となっている。女性が最も多いのは「1～3時間未満」43.4%、次いで「3～6時間未満」35.3%、「6時間以上」13.0%となっている。男性は「家事・育児・介護はしていない」は14.9%になっており、「30分未満」を合わせると41.1%となっている。

前回調査（平成26年度）では男性で最も多いのは「30分未満」であったが、今回調査では最も多い項目の入れ替えがあった。また、6時間以上の割合が男女ともに減少するなど、家事・育児・介護に関わる時間がトータルで減少していることもうかがえる。

共働き別では、共働きしている男性は「30分未満」が28.6%と最も多く、「1～3時間未満」27.4%「30分～1時間未満」26.2%と続いた。共働きしていない男性は「30分～1時間未満」29.8%が最も多くなっている。男性の場合、「していない」と「30分未満」を合わせると共働きしている男性39.3%、共働きしていない男性38.9%となっており、共働きしているかないでの大きな差はみられなかった。女性の場合、共働きしているかないにかかわらず「1～3時間未満」が最も多く、共働きしている女性43.3%、共働きしていない女性37.3%となっている。



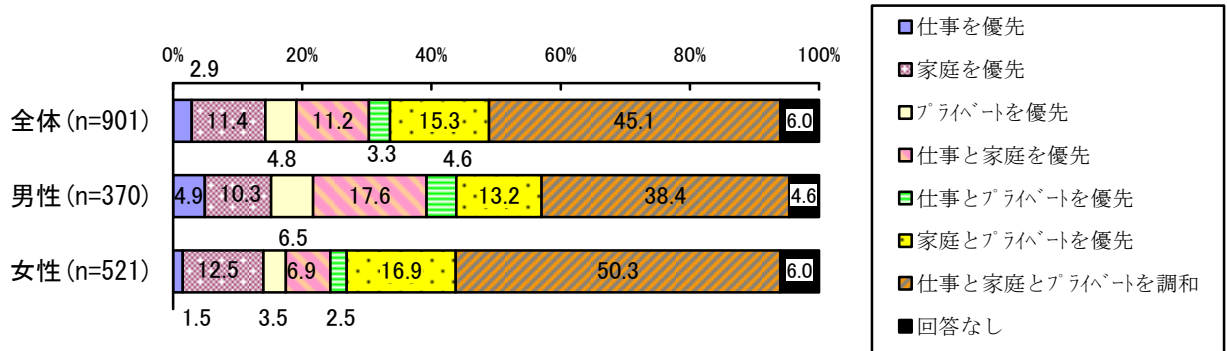
年代別【グラフ7-3】



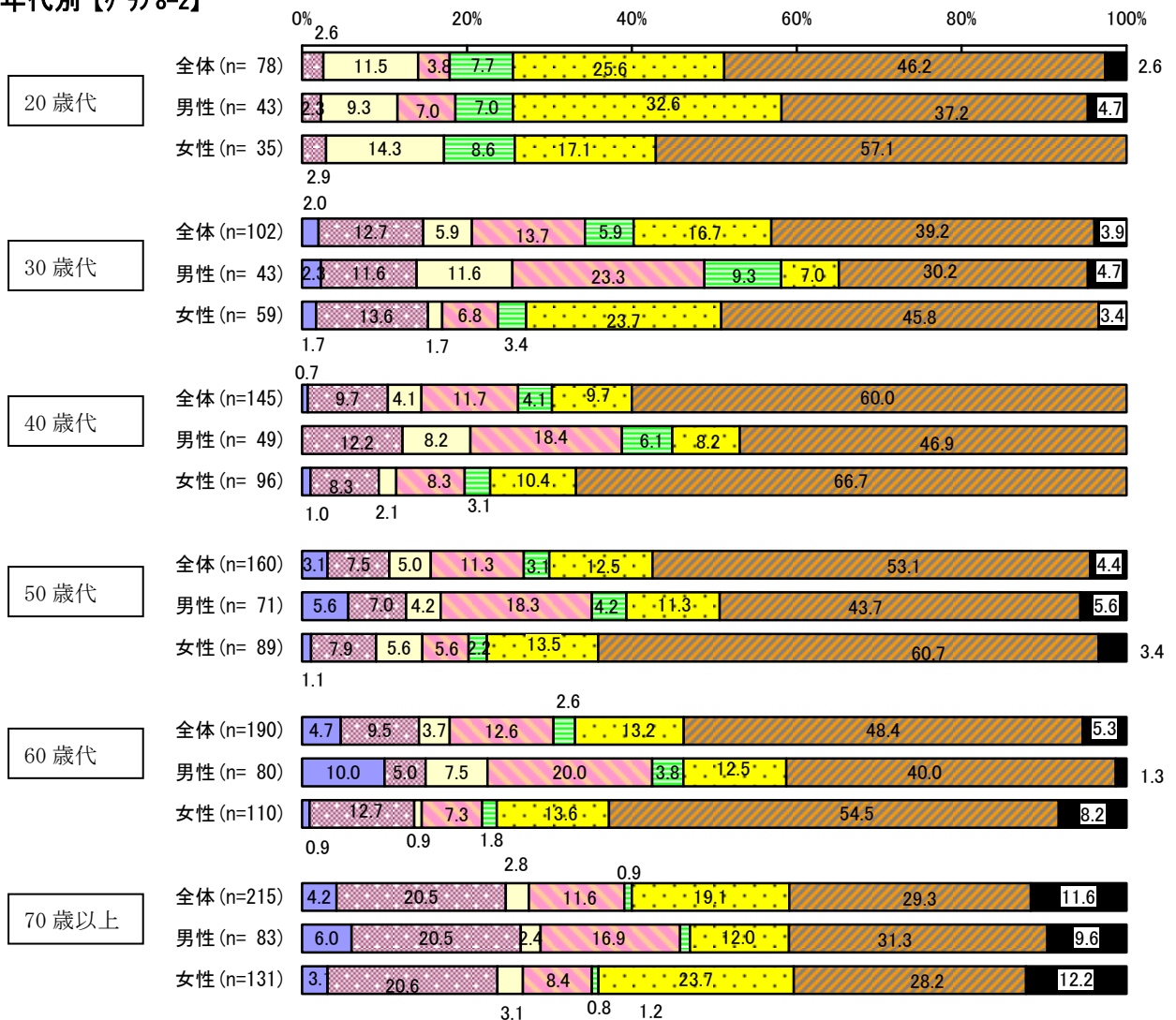
年代別では、「家事・育児・介護はしていない」が最も多いのは70歳以上男性22.4%、次いで60歳代男性15.2%となっている。

問8 仕事、家庭、プライベート（趣味・ボランティアなどの自分の時間）においてあなたが望ましいと思う生活を、次の中から1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ8-1】



年代別【グラフ8-2】



＝「仕事と家庭とプライベートを調和」が4割以上＝

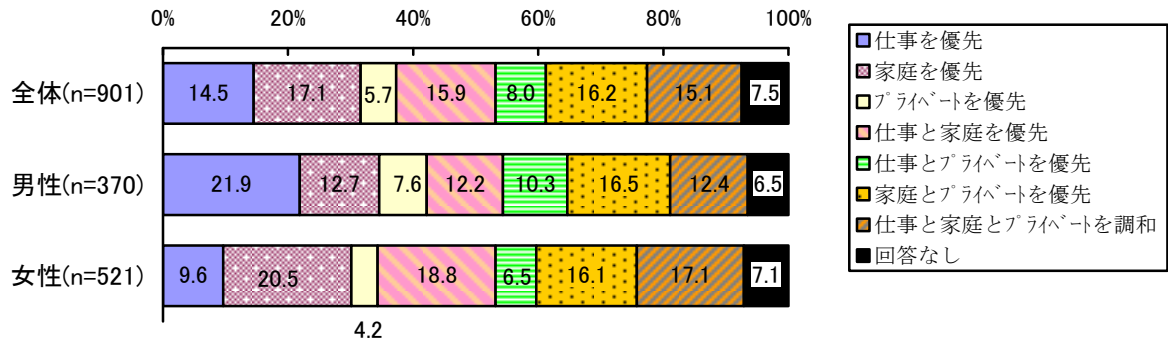
全体、男女ともに、「仕事と家庭とプライベートを調和」が最も多く、全体 45.1%、男性 38.4%、女性 50.3%となっており、次いで全体と女性で「家庭とプライベートを優先」男性が「仕事と家庭を優先」となった。

仕事を優先する部分で男女の回答に差異が見られたほか、前回調査（平成 26 年度）と比較してプライベートを優先する志向の高まりがうかがえた

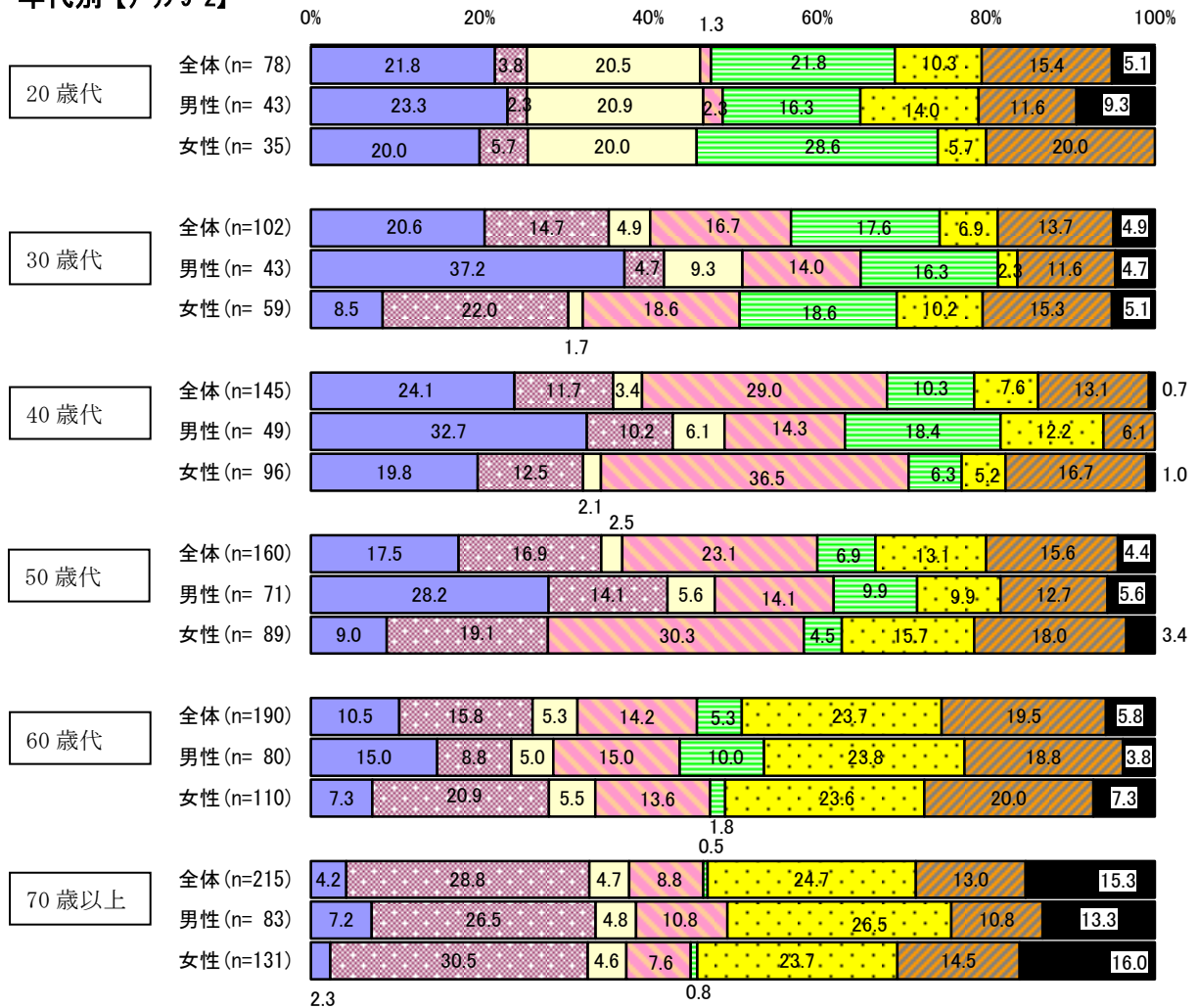
年代別では男女ともすべての年代で「仕事と家庭とプライベートを調和」が最も多くなっており、何かを犠牲にして何かを得るのではなく、どちらも求めることがスタンダードになりつつあることを感じさせる結果となった。

問9 では、あなたの現在の生活はどうでしょうか。次の中から1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ9-1】



年代別【グラフ9-2】



＝現実には、男性は「仕事を優先」、女性は「家庭を優先」＝

全体では、最も多いのは「家庭を優先」17.1%、次いで「家庭とプライベートを優先」16.2%、「仕事と家庭を優先」15.9%となっているが、数値にあまり差はない。

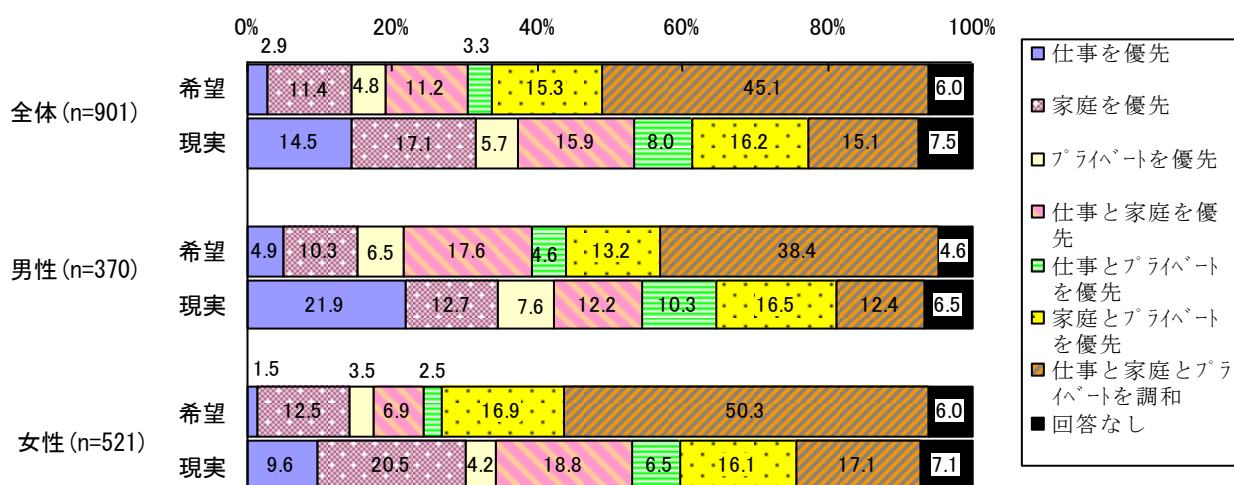
男女別では、男性が最も多いのは「仕事を優先」21.9%で5人に1人となっており、次いで「家庭とプライベートを優先」16.5%、「家庭を優先」12.7%となっている。女性が最も多いのは「家庭を優先」20.5%で5人に1人となっており、次いで「仕事と家庭を優先」18.8%、「仕事と家庭とプライベートを優先」17.1%となっている。

年代別では、男性が最も多い「仕事を優先」は、30歳代男性37.2%、40歳代男性32.7%、50歳代男性28.2%の順になっており、働き盛りといわれる壮年が多くなっている。女性が最も多い「家庭を優先」は、70歳以上女性30.5%、30歳代女性22.0%、60歳代女性20.9%の順になっている。

前回調査（平成26年度）と比較すると、仕事を優先する割合が減少しているほか、項目単独を優先するのではなく、何かと何かを併せて調和させる傾向が強まっている。

仕事，家庭，プライベート（趣味・ボランティアなどの自分の時間）の希望と現実の比較

全体・男女別【グラフ8-9-1】



＝希望は「仕事と家庭とプライベートを調和」，現実には男性「仕事を優先」，女性「家庭を優先」

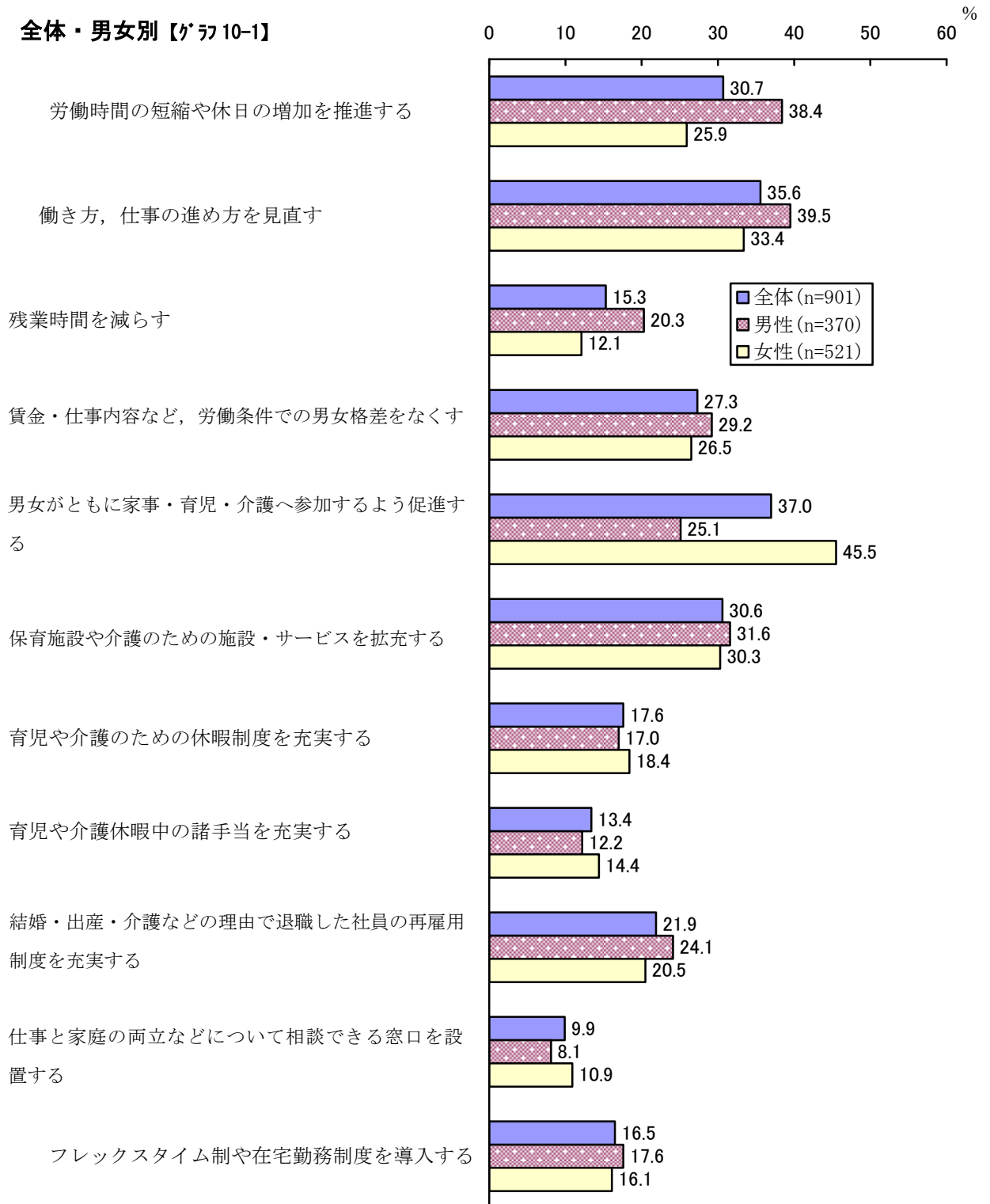
＝

問8の望ましい生活と問9の現実の生活を比較すると、望ましい生活で最も多かった「仕事と家庭とプライベートの調和」は全体では希望 45.1%に対し現実 15.1%となっており、希望と現実で差が大きく表れている。

男女別でも同様に差が大きく表れている。また、男性の「仕事を優先」は希望 4.9%に対し現実 21.9%となっており差が表れている。

問10 仕事，家庭，プライベートの調和を進めるためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。

全体・男女別【グラフ10-1】



各項目の年代・男女別集計【表 10-1】

	20代		30代		40代		50代		60代		70代以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
労働時間の短縮や休日の増加を推進する	21.2	18.3	20.5	19.7	17.1	12.0	16.8	7.0	11.2	8.2	7.5	5.4
働き方、仕事の進め方を見直す	18.6	17.2	16.1	11.5	15.7	17.1	15.8	11.9	14.3	11.9	11.6	11.5
残業時間を減らす	14.2	7.5	8.9	7.0	7.9	4.3	10.3	2.9	3.1	5.1	6.0	4.3
賃金・仕事内容など、労働条件での男女格差をなくす	8.0	9.7	8.9	11.5	10.0	10.5	9.8	10.3	14.8	10.5	12.1	10.0
男女がともに家事・育児・介護へ参加するよう促進する	3.5	12.9	4.5	15.9	10.7	15.9	8.7	19.8	11.2	19.4	13.6	19.4
保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する	5.3	8.6	8.9	7.0	11.4	12.0	14.7	13.6	16.1	13.9	11.1	12.2
育児や介護のための休暇制度を充実する	5.3	4.3	7.1	6.4	4.3	5.8	3.3	7.0	5.8	8.5	12.1	9.0
育児や介護休暇中の諸手当を充実する	8.0	5.4	3.6	7.0	6.4	5.4	3.8	8.2	5.4	4.1	2.0	4.7
結婚・出産・介護などの理由で退職した社員の再雇用制度を充実する	7.1	6.5	5.4	5.7	4.3	7.0	7.1	7.0	11.7	8.5	15.1	11.5
仕事と家庭の両立などについて相談できる窓口を設置する	1.8	1.1	3.6	1.9	3.6	1.9	3.3	2.5	1.3	4.8	5.0	10.0
フレックスタイム制や在宅勤務制度を導入する	7.1	8.6	12.5	6.4	8.6	8.1	6.5	9.9	4.9	5.1	4.0	2.2

＝「男女がともに家事・育児・介護へ参加するよう促進する」「働き方、仕事の進め方を見直す」「労働時間の短縮や休日の増加を推進する」が最多、世代により意見が分かれる＝

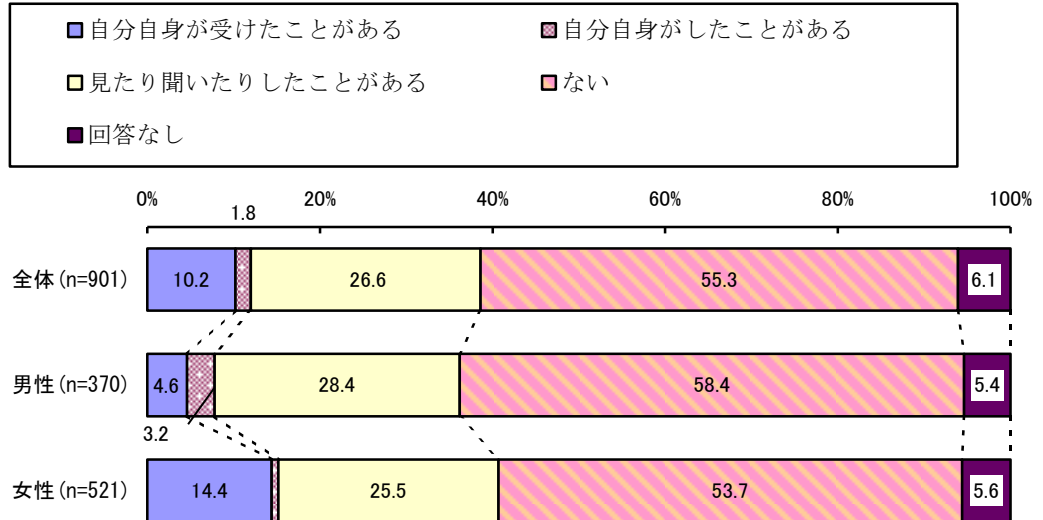
全体では、50代以上女性で「男女がともに家事・育児・介護へ参加するよう促進する」50代以下で「労働時間の短縮や休日の増加を推進する」が最も多く意見としてあがった。また、70歳以上男性で「結婚・出産・介護などの理由で退職した社員の再雇用制度を充実する」が最多となっている。

前回調査（平成26年度）で最多であった「保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する」は、60歳代男性で最多であったが、20、30歳代では望む施策としての声は、大きなものではなかった。

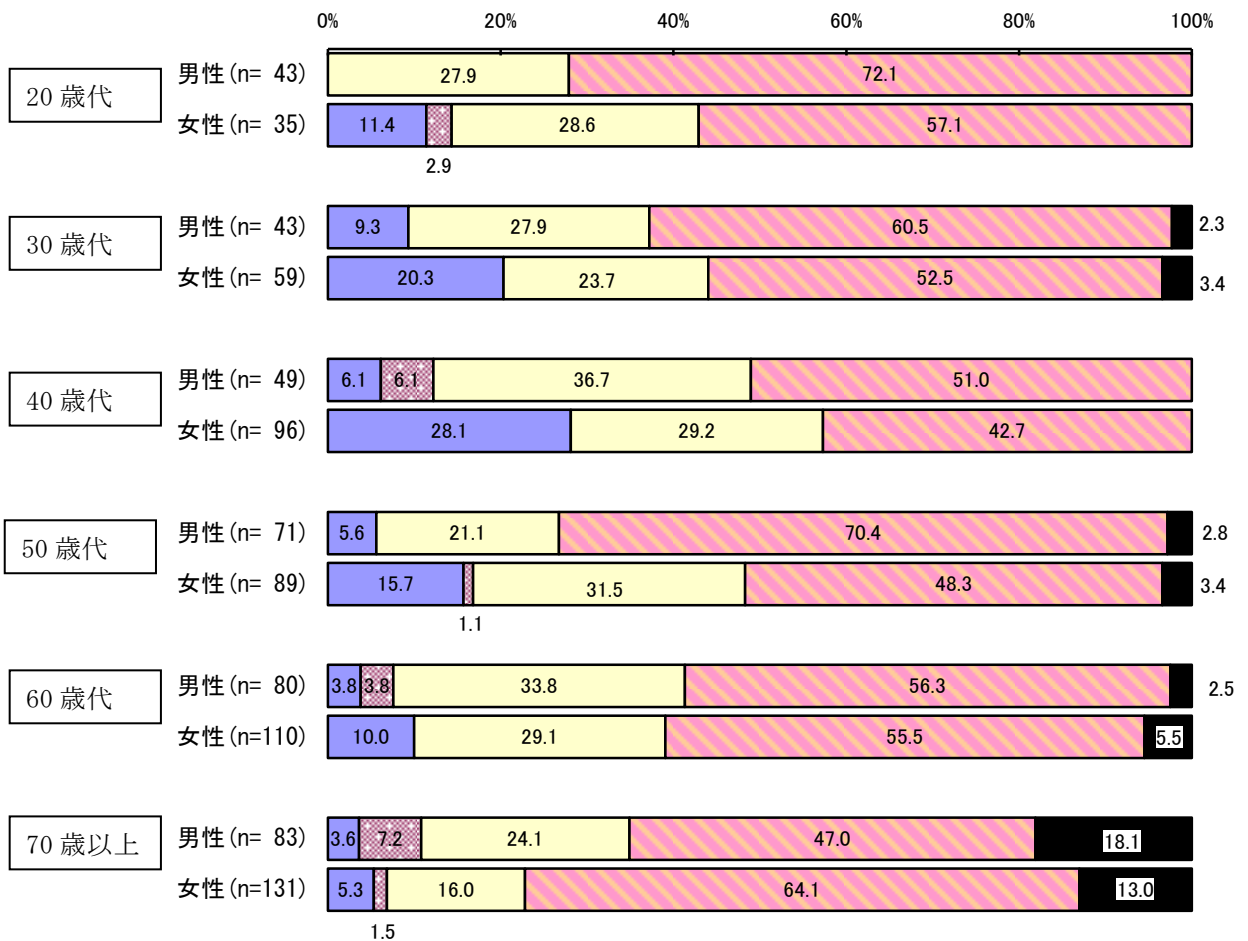
《セクシュアル・ハラスメントについておたずねします。》

問 1 1 あなたの身近なところ（職場・地域・学校）に、セクシュアル・ハラスメントがありますか。次の中から1つ選んでください。

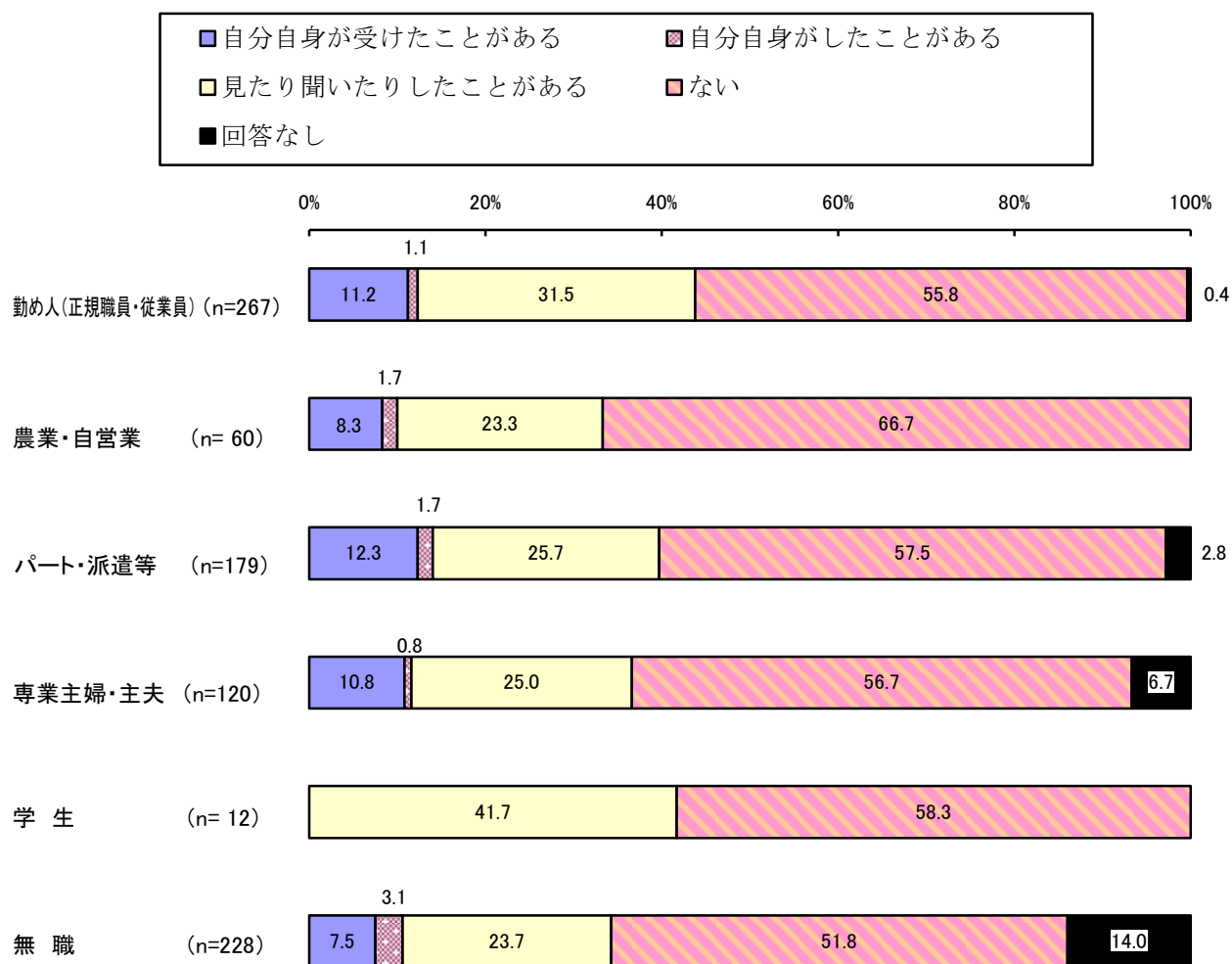
全体・男女別【グラフ11-1】



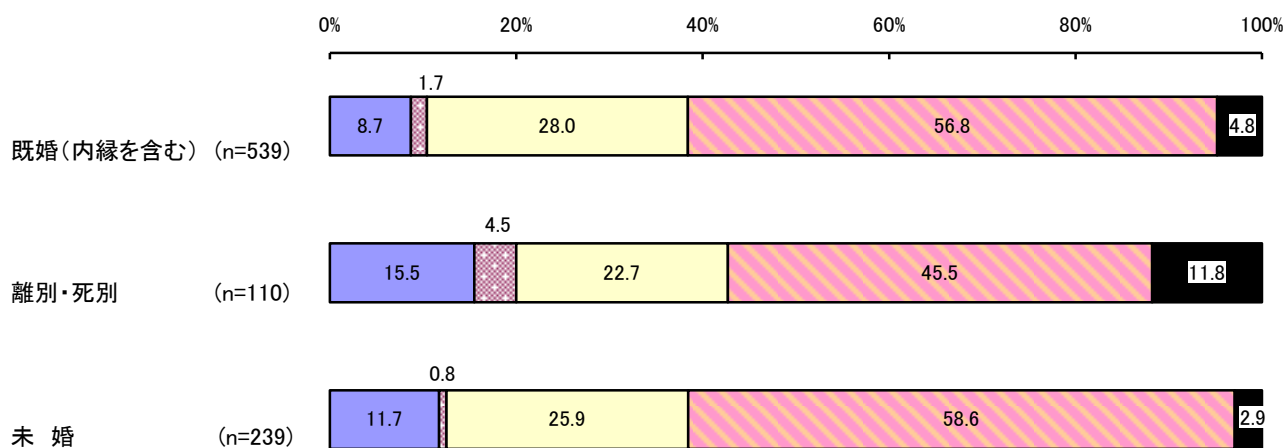
年代別【グラフ11-2】



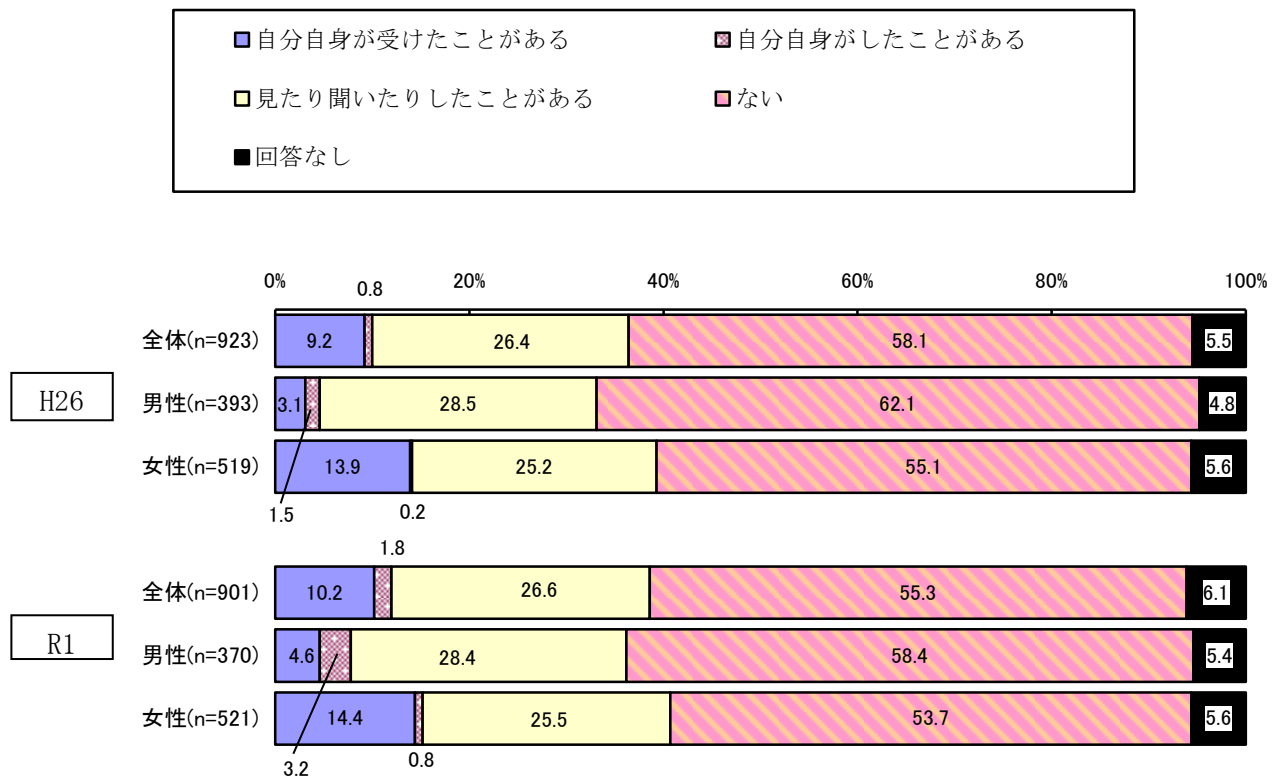
職業別【グラフ11-3】



未婚別【グラフ11-4】



平成26年度（前回）との比較【グラフ11-5】



＝ 1割の人が「セクハラを受けたことがある」 ＝

全体では、「ない」が55.3%、「見たり聞いたりしたことがある」が26.6%で、「自分自身が受けたことがある」が10.2%となっている。

男女別とも、半数以上が「ない」と答えているが、女性14.4%、男性4.6%が「自分自身が受けたことがある」と答えている。

年代別では、30～50歳代の女性で「自分自身が受けたことがある」が多くなっている。

職業別では、「自分自身が受けたことがある」と答えた人は、パート・派遣等が12.3%で最も多く、次に勤め人（正規職員・従業員）11.2%、専業主婦・主夫10.8%の順となっている。

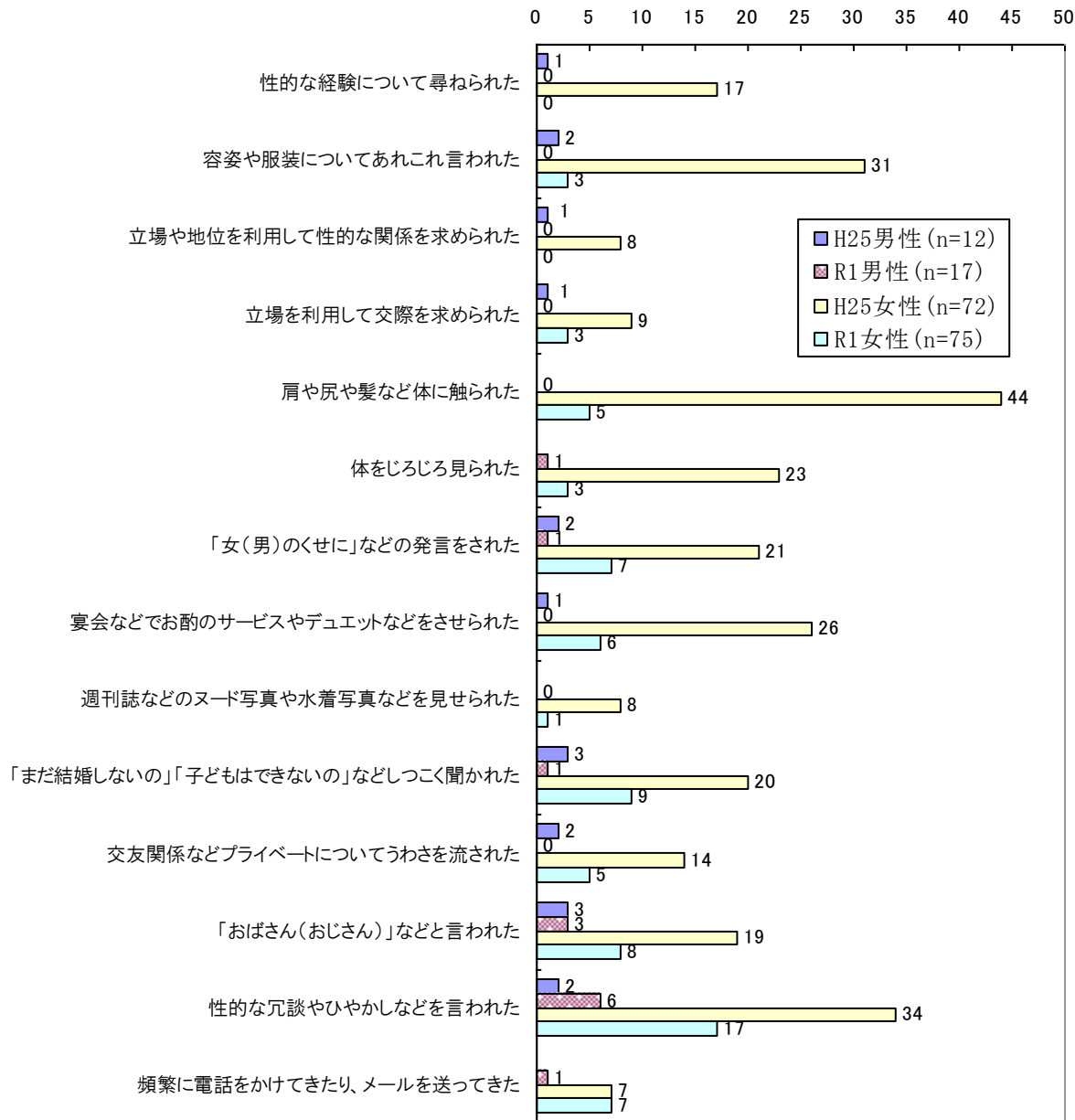
未婚婚別では、「自分自身が受けたことがある」と答えた人は、離別・死別15.5%、未婚11.7%が既婚（内縁を含む）8.7%に比べてわずかに多くなっている。

平成26年度と比較すると、全体では「自分自身が受けたことがある」が9.2%から10.2%に1.0ポイント上がっている。

問 12 「(セクハラを) 自分自身が受けたことがある」を選んだ方におたずねします。
それはどのようなものだったでしょうか。次の中から当てはまるものをすべて選
んでください。

全 体【グラフ12-1】

人



＝セクハラの内容は多岐にわたっている＝

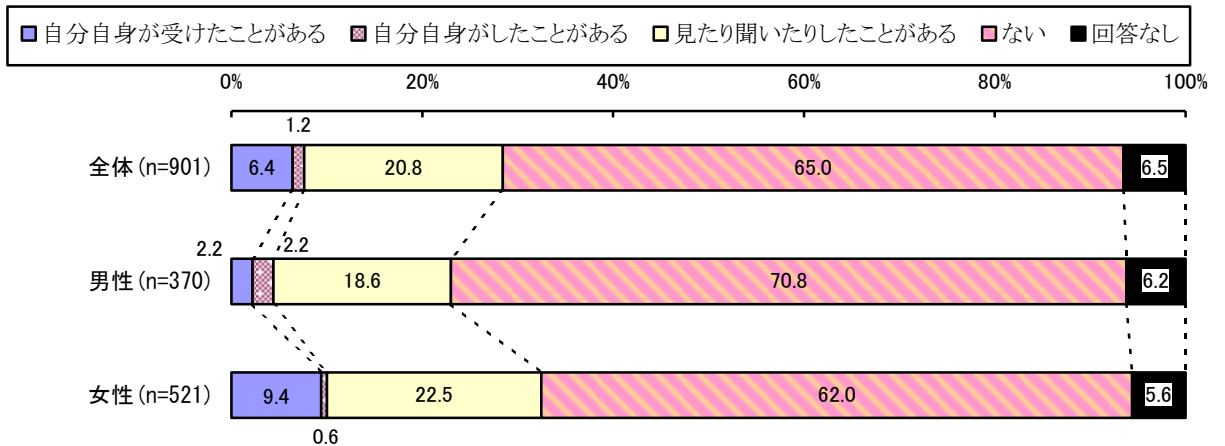
女性が圧倒的に多く、多い順に「性的な冗談やひやかしなどを言われた」17人、「『まだ結婚しないの』『子どもはできないの』などしつこく聞かれた」9人、「『おばさん(おじさん)』などと言われた」8人となっている。

また、前回調査(平成26年度)と比較すると、前回最多であった「肩や尻や髪など体に触れられた」や「容姿や服装についてあれこれ言われた」など著しく減少している項目もあるなど、社会的にセクハラは絶対許されないという認知が進んでいる面もうかがえる。

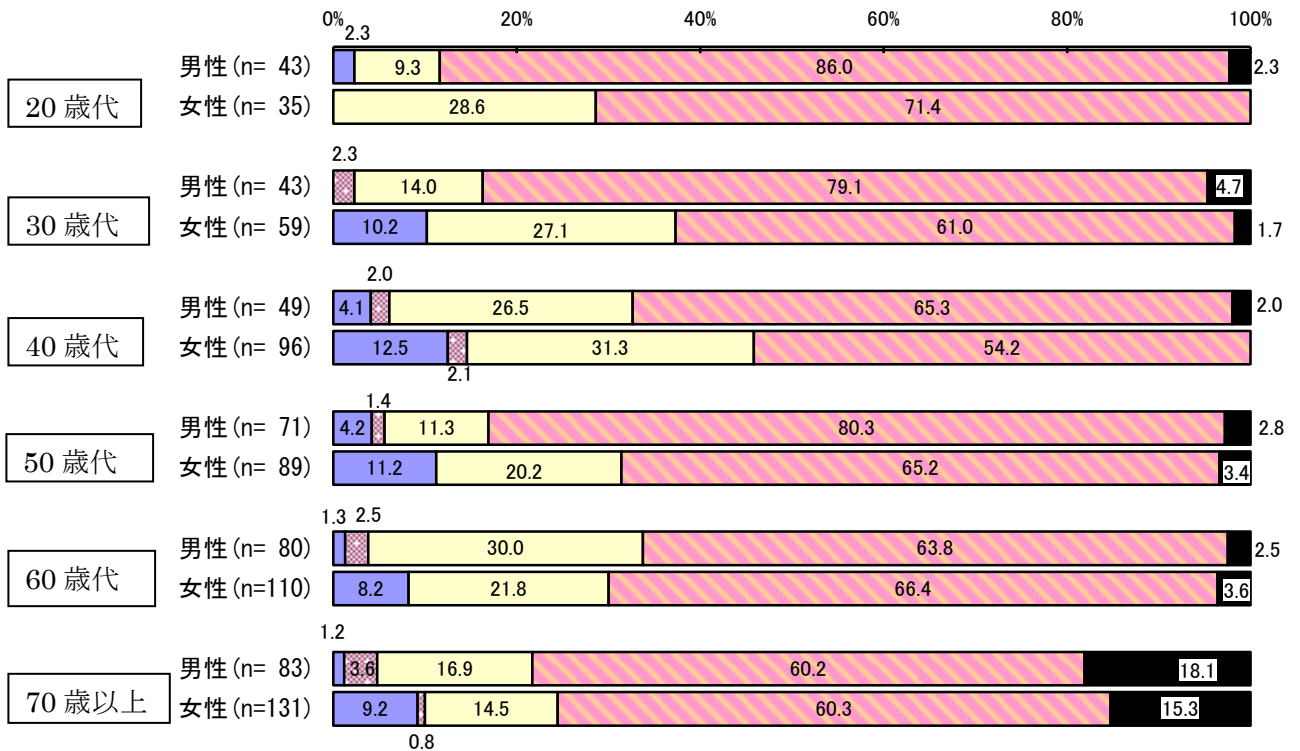
《ドメスティック・バイオレンスについておたずねします。》

問 13 最近、ドメスティック・バイオレンスが社会的な問題になっていますが、あなたの身近にこのような暴力がありますか。次の中から1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ13-1】



年代別【グラフ13-2】



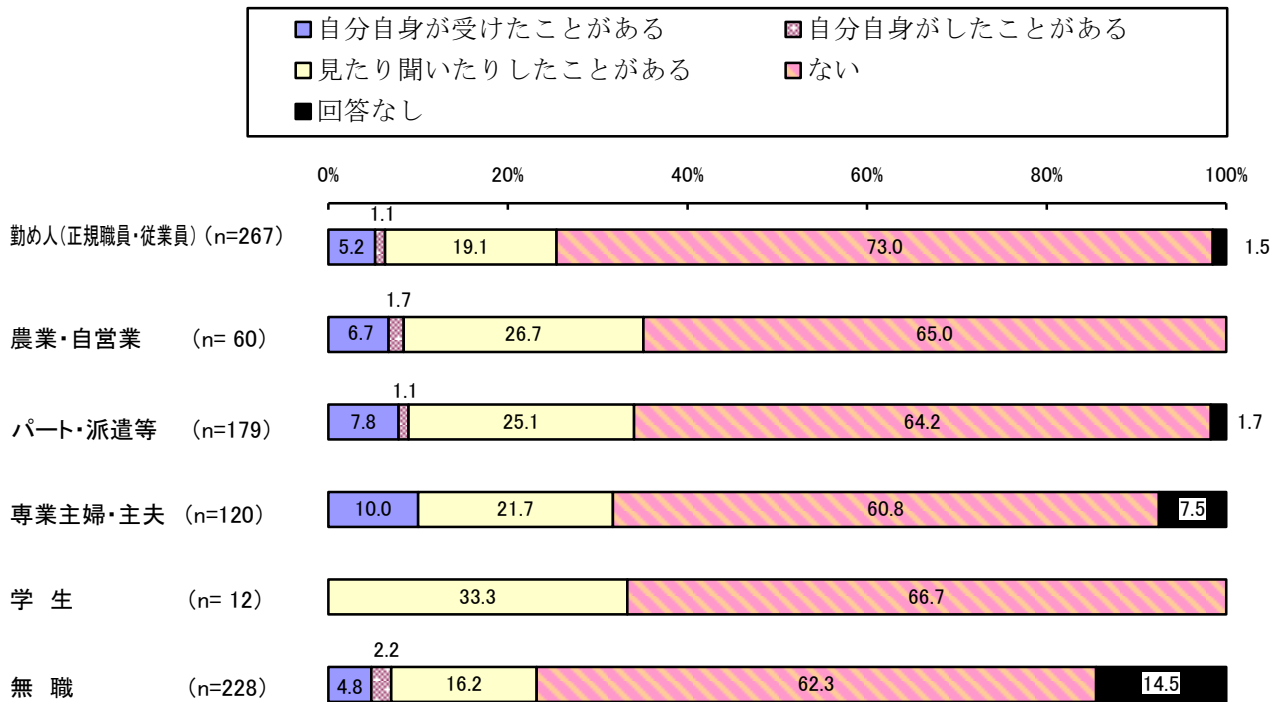
＝5人に1人は「見たり聞いたりしたことがある」＝

全体では、「ない」と答えた人が65.0%、「見たり聞いたりしたことがある」と答えた人が20.8%で、「自分自身が受けたことがある」と答えた人が6.4%となっている。

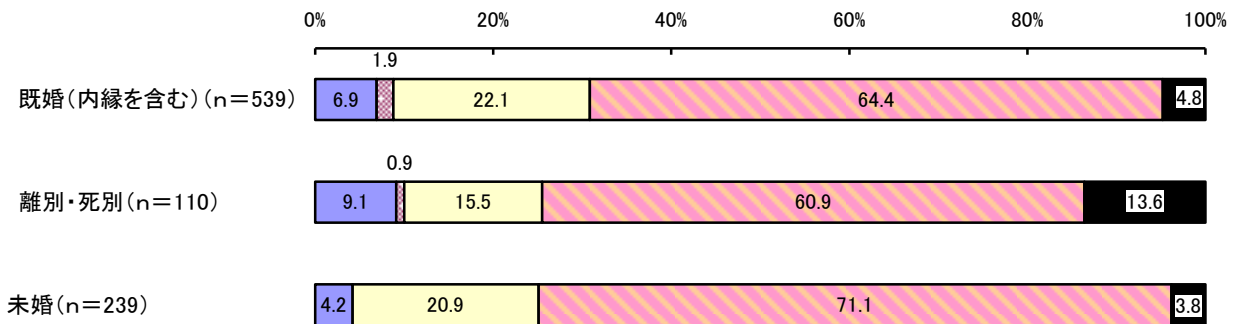
男女とも、「ない」と答えた人が半数以上だが、女性では9.4%が「自分自身が受けたことがある」と答えており、男性の2.2%が「自分自身がしたことがある」と答えている。

年代別では、女性の40歳代で「自分自身が受けたことがある」が多い傾向にあるものの、どの年代にも存在している。また、「自分自身がしたことがある」も多くの年代、性別に存在している。

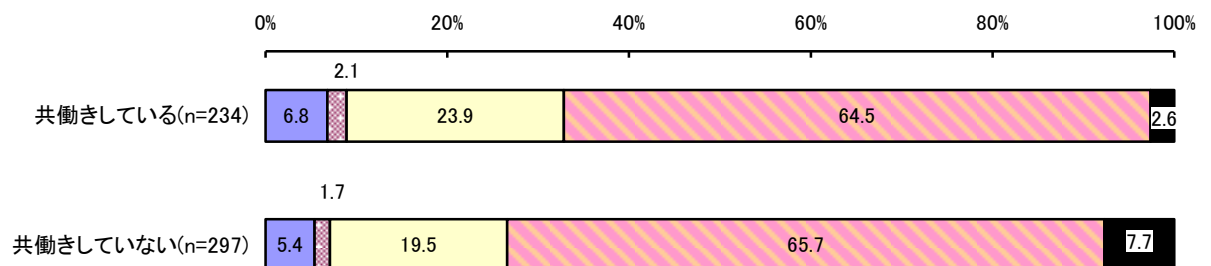
職業別【グラフ13-3】



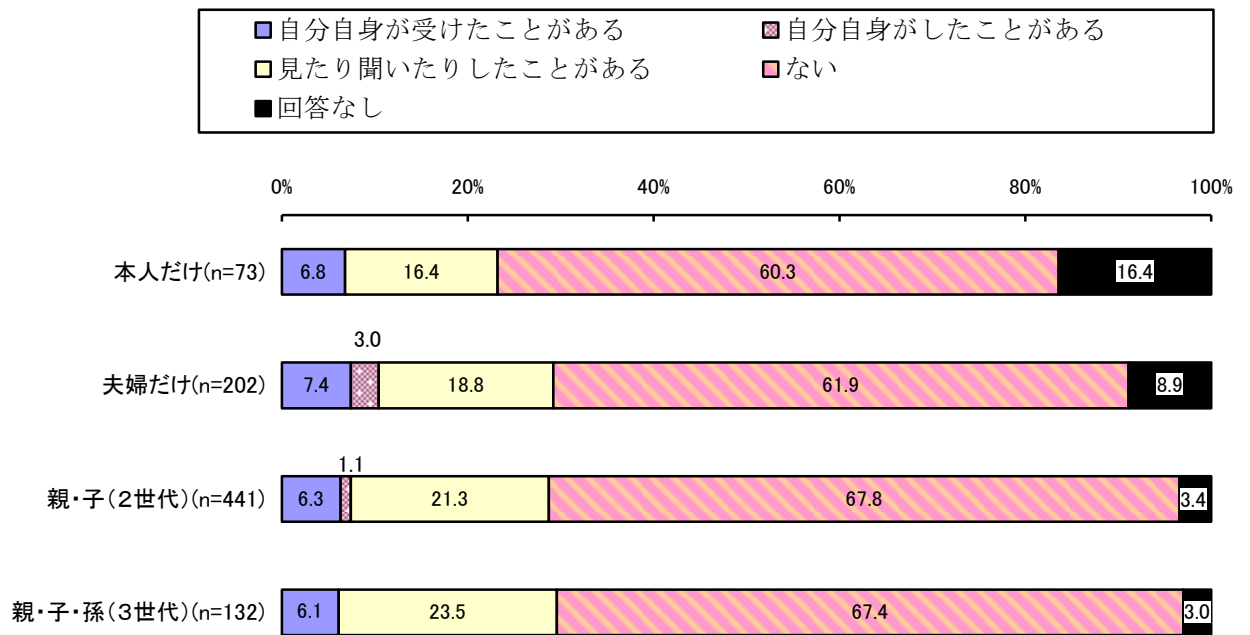
未既婚別【グラフ13-4】



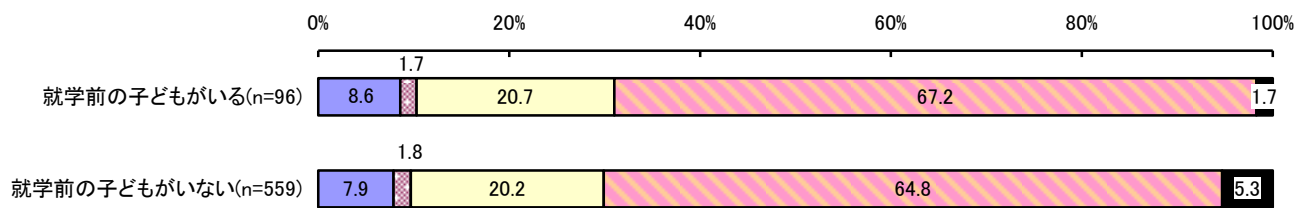
共働き別【グラフ13-5】



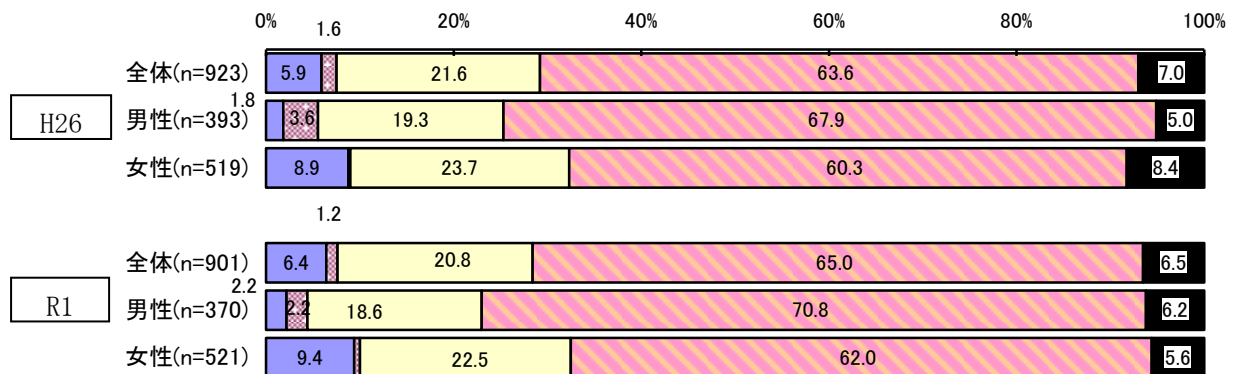
家族構成別【グラフ13-6】



就学前の子どもの有無別【グラフ13-7】



平成26年度（前回）との比較【グラフ13-8】



職業別では、「自分自身が受けたことがある」と答えた人は、専業主婦・専業主夫が 10.0%で最も多く、次にパート・派遣等 7.8%，農業・自営業 6.7%，勤め人（正規職員・従業員）5.2%，無職 4.8%となっており職業別に有意な差異はないものと思われる。

未既婚別でも、「自分自身が受けたことがある」と答えた人は、既婚（内縁を含む）6.9%，未婚 4.2%に比べ、離別・死別が 9.1%と若干多くなっている。

共働き別では、「自分自身が受けたことがある」と答えた人は、共働きしている人 6.8%で、共働きしていない人 5.4%より若干多くなっている。

家族構成別では、「自分自身が受けたことがある」と答えた人は、いずれの家族構成にも存在しており、多い順に、夫婦だけ 7.4%，本人だけ 6.8%，親・子（2世代）6.3%，親・子・孫（3世代）6.1%，となっている。

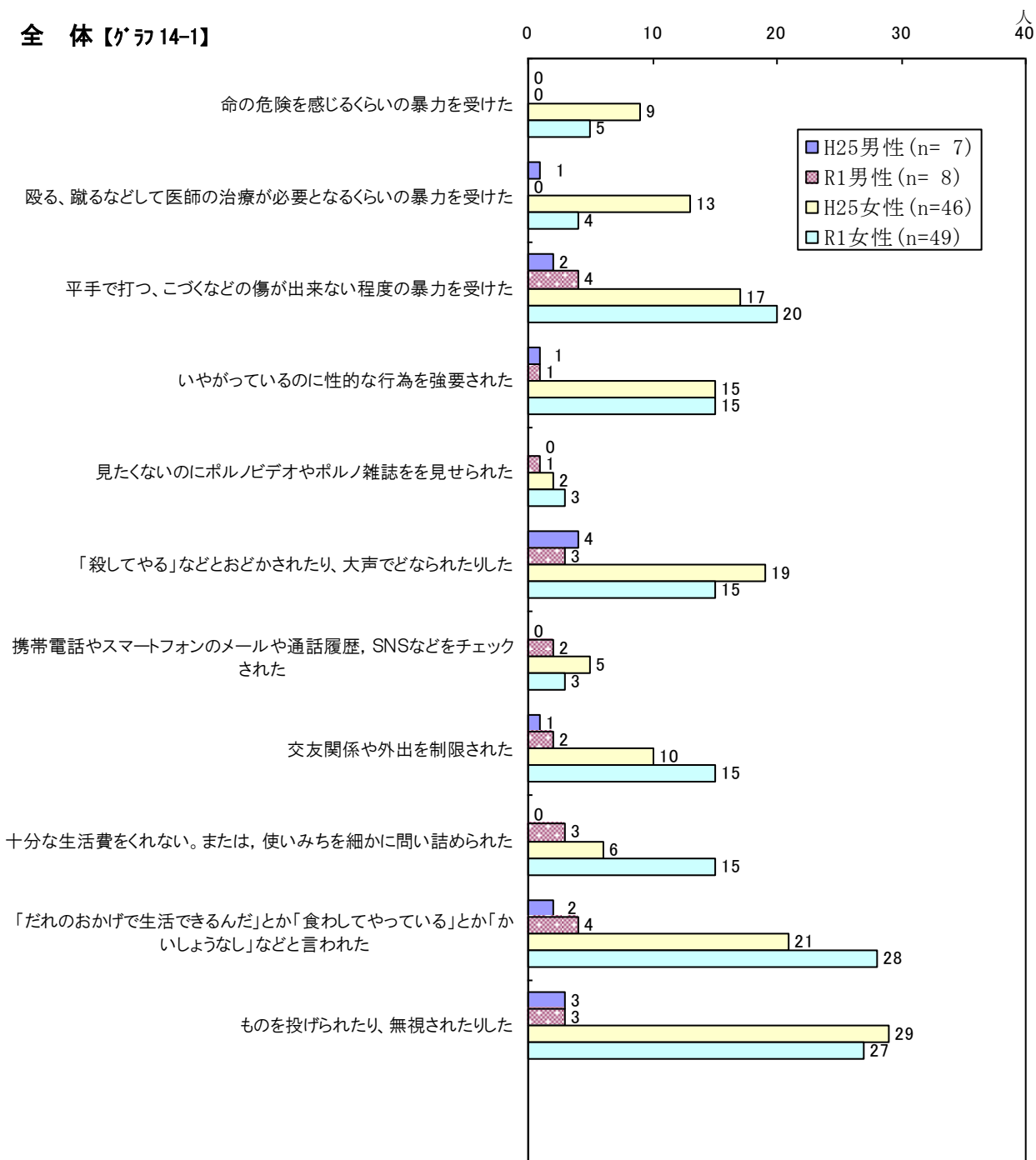
就学前の子どもの有無別では、「自分自身が受けたことがある」と答えた人は、就学前の子どもがいる人 8.6%で、いない人 7.9%より多くなっている。

一般的にDVは、年齢，収入，職業，家族構成などにかかわらず存在することが報告されており本調査からもその様子の一端がうかがえる。

平成 26 年度と比較すると、「自分自身が受けたことがある」と答えた人が全体 5.9%から 6.4%に 0.5 ポイント上がっており、特に女性は 8.9%から 9.4%に 0.5 ポイント上がっている。

問 14 「(暴力を) 自分自身が受けたことがある」と答えた方におたずねします。その内容はどのようなものだったでしょうか。当てはまるものをすべて選んでください。

全 体【グラフ14-1】

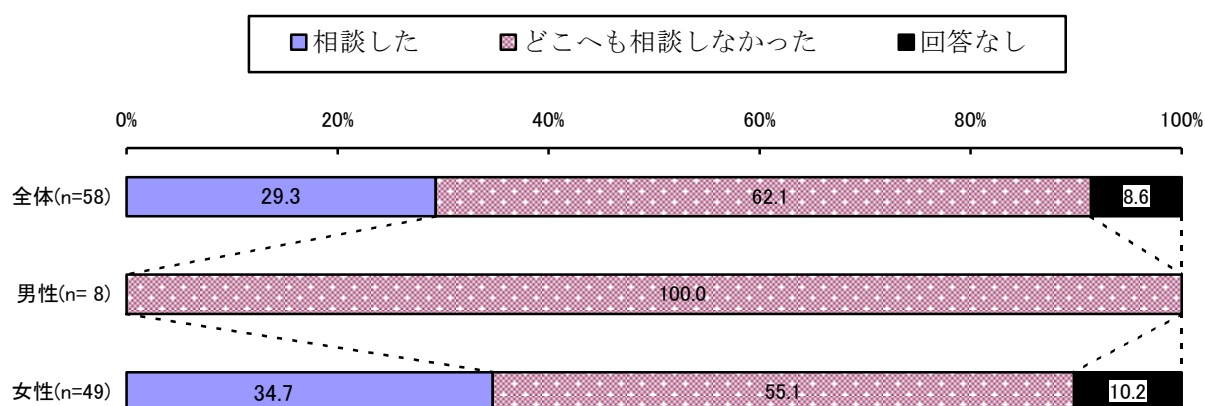


＝経済的DVやモラハラが上位に＝

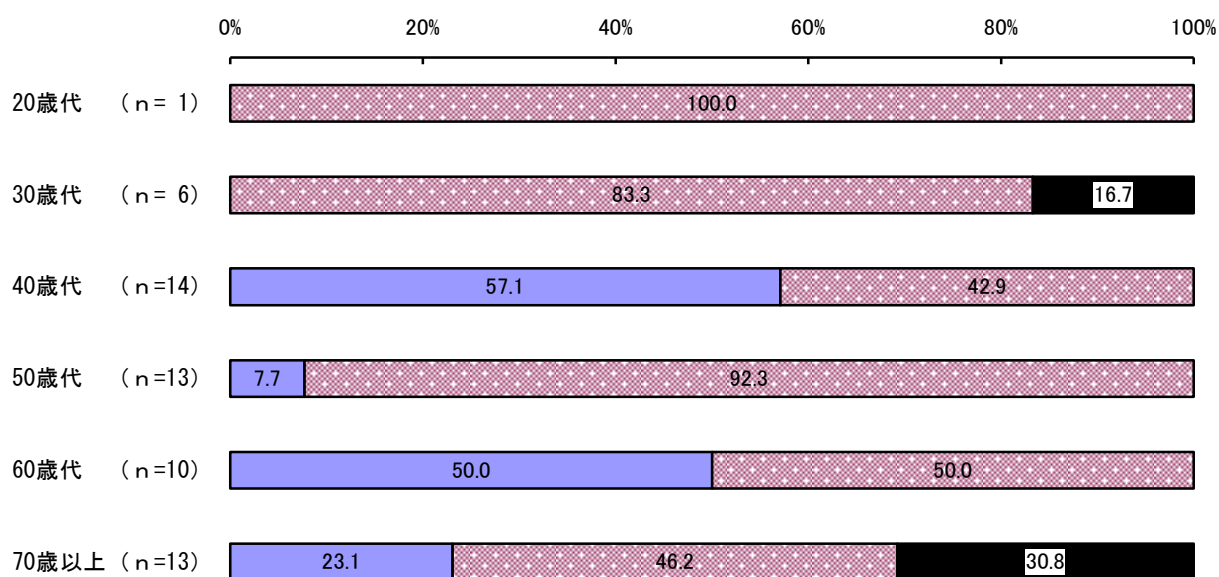
男女別では、圧倒的に女性の被害者が多く、多い順に「『だれのおかげで生活できるんだ』とか『食わしてやっている』とか『かいしょうなし』などと言われた」28人、「ものを投げられたり、無視されたりした」27人、「平手で打つ、こづくなどの傷が出来ない程度の暴力を受けた」20人となっている。前回調査（平成26年度）と比較すると、身体的な暴力より経済的なDVやモラハラが上位となっており、DVの範囲が広範であることの認知が高まっているものと考えられる。

問 15 「(暴力を) 自分自身が受けたことがある」と答えた人におたずねします。だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。当てはまるものを選んでください。

全体・男女別【グラフ15-1】



年代別【グラフ15-2】



=半数以上の人、暴力を受けても「どこへも相談しなかった」。男性はどこにも相談していない=

全体では、「相談した」と答えた人 29.3%、「どこへも相談しなかった」と答えた人 62.1%となっている。

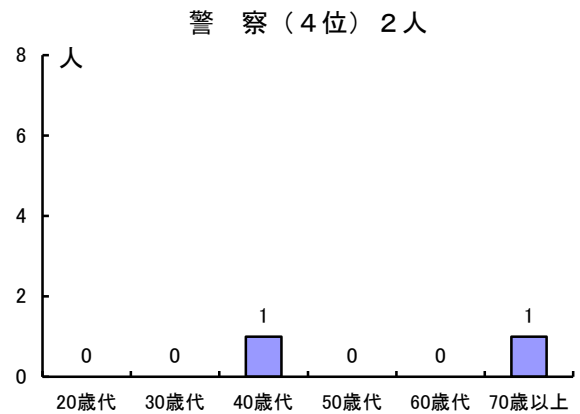
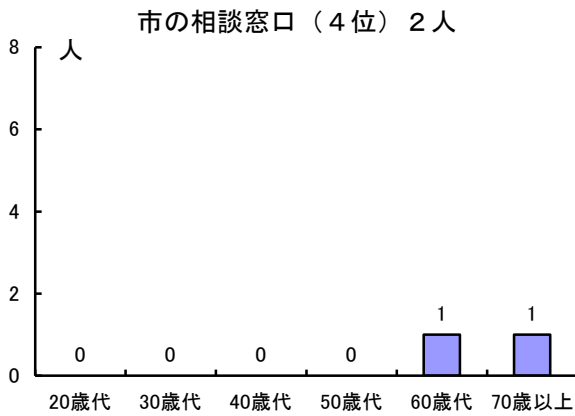
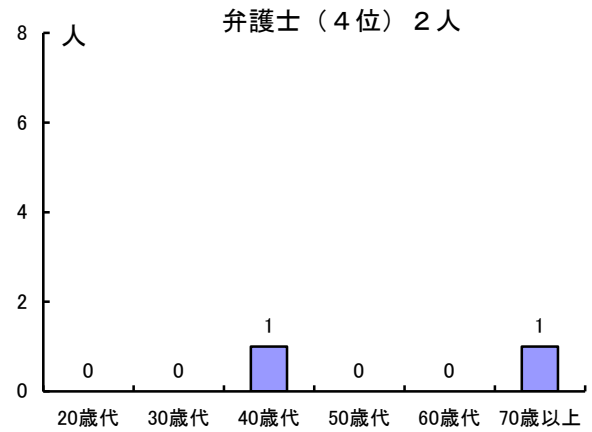
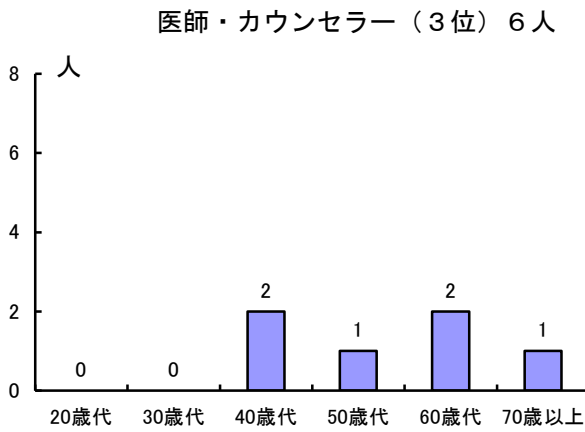
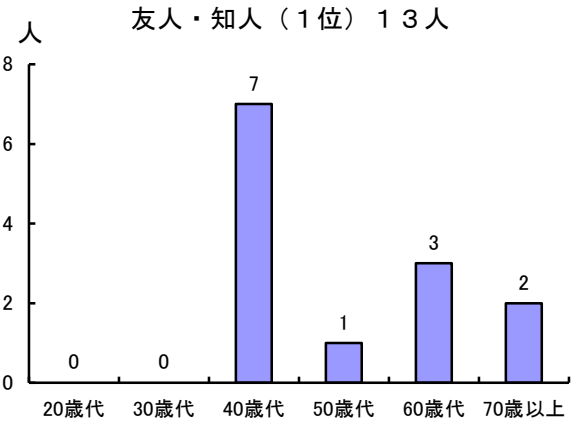
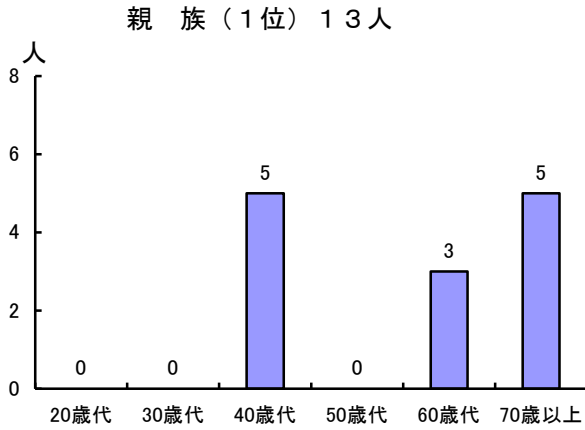
男女別では、「相談した」と答えた男性は0%であったが、女性は34.7%の人が相談をしている。

年代別では、40、60歳代は「相談した」と答えた人は5割を超えているが、他の年代ではその割合が低くなっている。

問 16 問 15 で「相談した」と答えた人におたずねします。あなたが相談したところはどこですか。あてはまるものを全て選んでください。

項目別・年代別【グラフ16-2】

20 歳代 (n=0) 30 歳代 (n=0) 40 歳代 (n=8)
50 歳代 (n=1) 60 歳代 (n=5) 70 歳以上 (n=3)

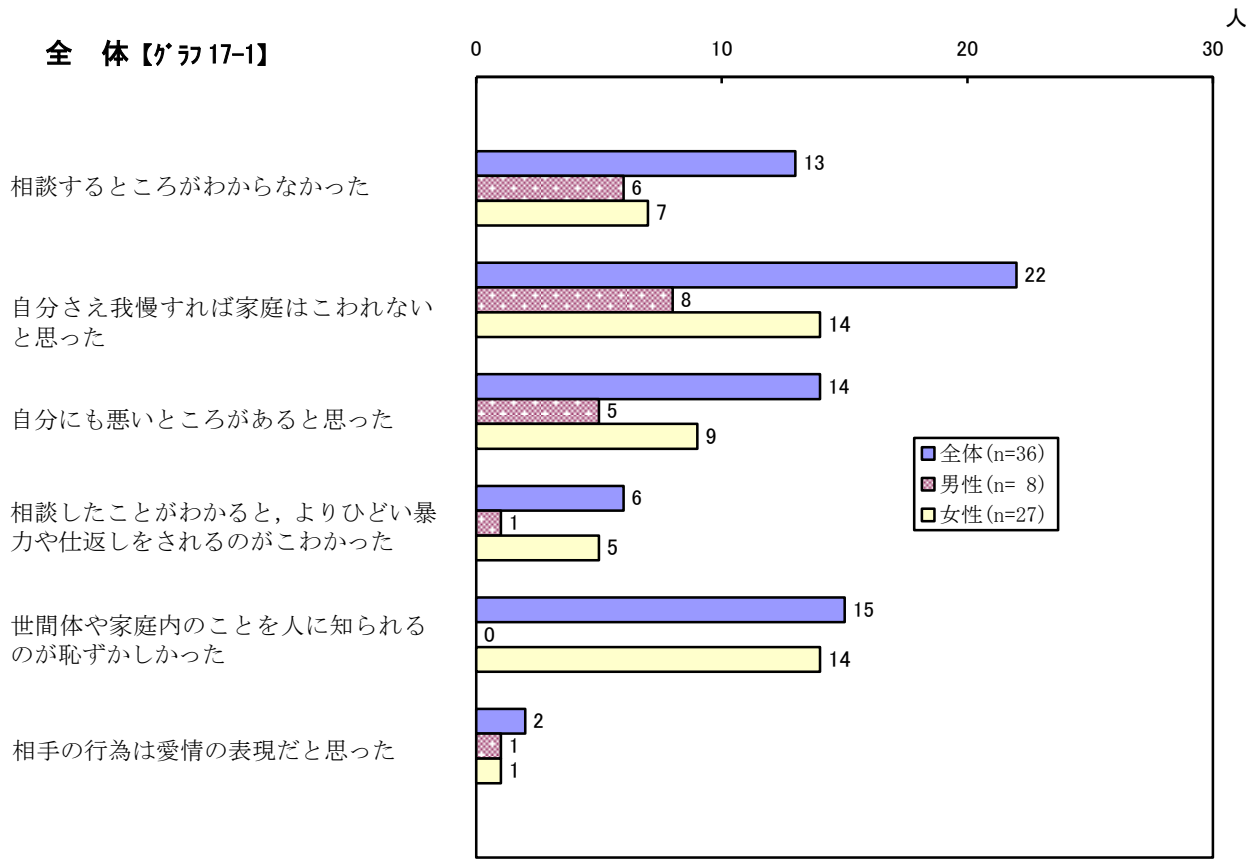


＝親族や友人・知人など，身近な人に相談＝

「親族」，「友人・知人」と答えた人は13人と身近な人に相談した人が大多数で，「医師・カウンセラー」6人，「弁護士」，「市の相談窓口」，「警察」がそれぞれ2人となっている。

女性の年代別でみると，20，30歳代は相談しているとの回答がなかった。

問 17 問 15 で「どこへも相談しなかった」を選んだ方におたずねします。どこへも相談しなかった理由は何ですか。あてはまるものを2つまで選んでください。

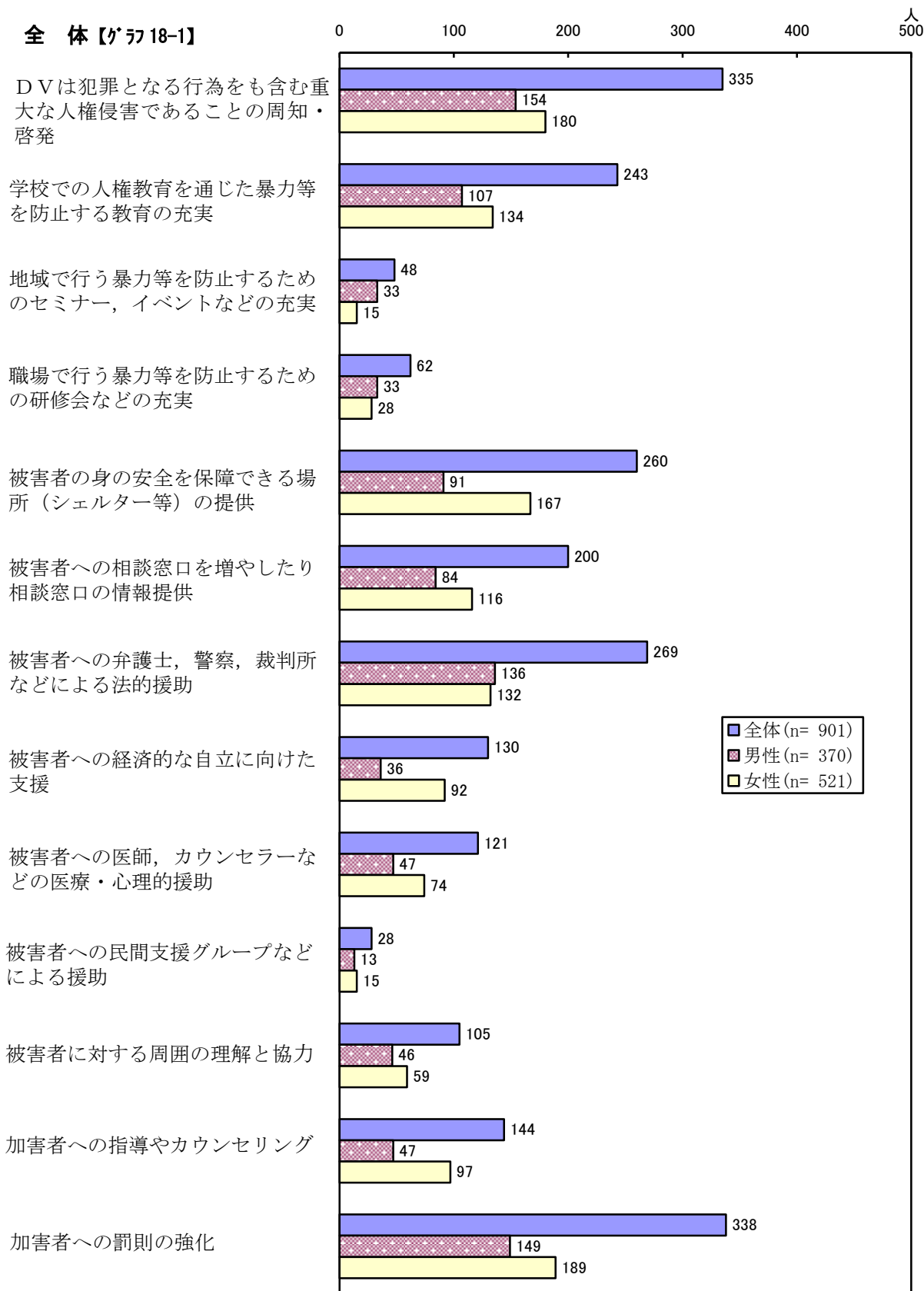


＝相談しなかった理由は「自分さえ我慢すれば家庭はこわれなかったと思った」が最も多い＝

全体、男女ともに「自分さえ我慢すれば家庭はこわれなかったと思った」と答えた人が最も多く、全体22人、男性8人、女性14人となっている。次に女性では「世間体や家庭内のことを人に知られるのが恥ずかしかった」と答えた人14人となっている。また、全体で「相談するところがわからなかった」と答えた人も13人となっている。

問 18 配偶者や恋人からの暴力をなくすためには、どのような支援や対策が必要だと思いますか。
次の中から3つまで選んでください

全 体【グラフ18-1】



=DVを防止なくすために加害者への罰則の強化とDVは重大な人権侵害であることの周知・啓発が必要=

配偶者や恋人からの暴力をなくすためには、全体では「加害者への罰則の強化」338人、「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発」335人など、対策が必要と答えた人が多く、続いて、「被害者への弁護士、警察、裁判所などによる法的援助」269人、「被害者の身の安全を保障できる場所（シェルター等）の提供」260人、「学校での人権教育を通じた暴力等を防止する教育の充実」243人の順となっている。

また、女性では「加害者への罰則の強化」189人、「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発」180人を選択した人が多かった。

<倉敷市の男女共同参画施策についておたずねします。>

問 19 ア～カの項目について、倉敷市の男女共同参画は進んでいると思いますか。それぞれ1～5の中から1つ選んでください。

項目別【グラフ19-1】



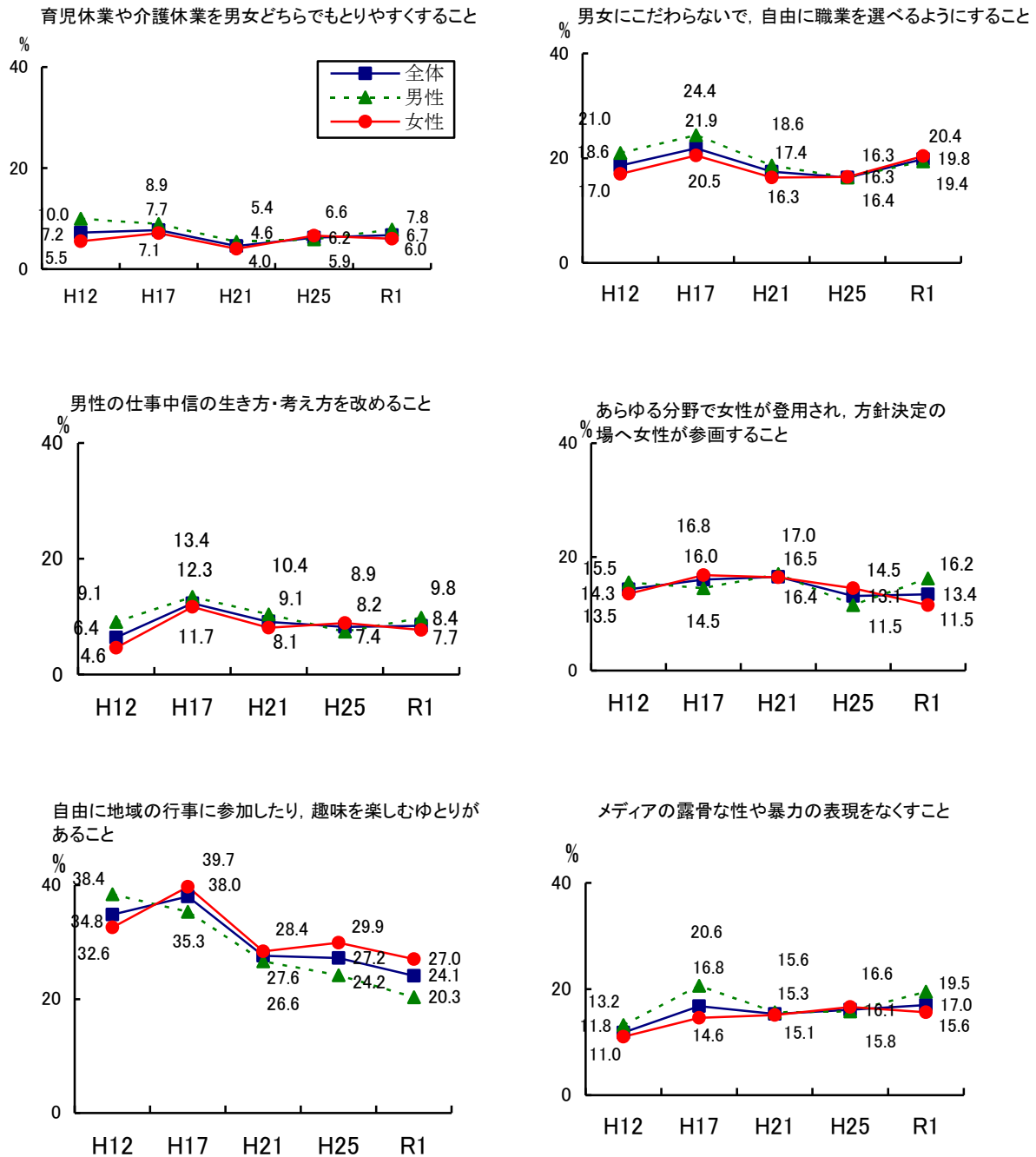
＝男女共同参画はあまり進んでいない＝

6つの項目で、「実現している」と「ほぼ実現している」と答えた人を合わせて最も多いのは、『自由に地域の行事に参加したり、趣味を楽しむゆとりがあること』で全体24.1%、男性20.3%、女性27.0%となっている。次いで、『男女にこだわらないで、自由に職業を選べるようにすること』で全体19.8%、男性19.4%、女性20.4%となっている。

一方、「あまり実現していない」と「実現していない」を合わせて最も多いのは、『男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること』で全体44.6%、男性49.7%、女性41.6%で約半数となっている。次いで、『育児休業や介護休業を男女どちらかでもとりやすくすること』で全体43.4%、男性44.3%、女性43.5%となっている。

「実現している」「ほぼ実現している」の推移【グラフ19-2】

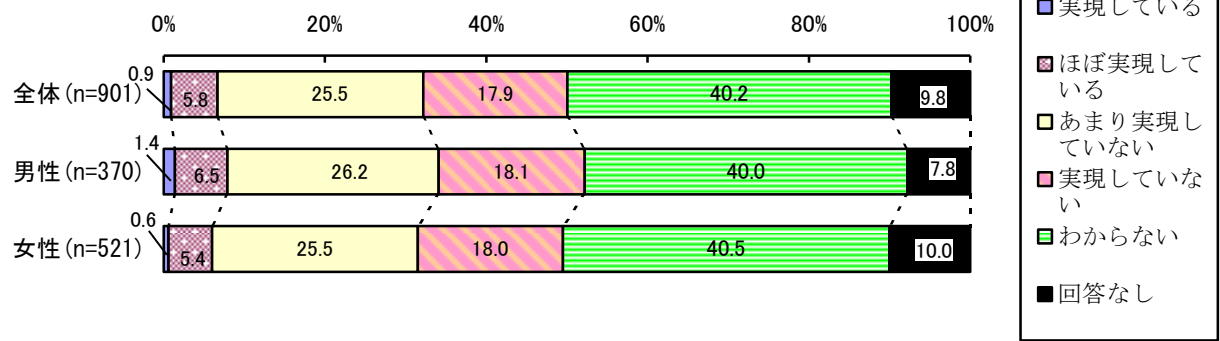
平成12年度	全体(n=566)	男性(n=219)	女性(n=347)
平成17年度	全体(n=884)	男性(n=328)	女性(n=554)
平成21年度	全体(n=1039)	男性(n=437)	女性(n=596)
平成26年度	全体(n=923)	男性(n=393)	女性(n=519)
令和元年度	全体(n=901)	男性(n=370)	女性(n=521)



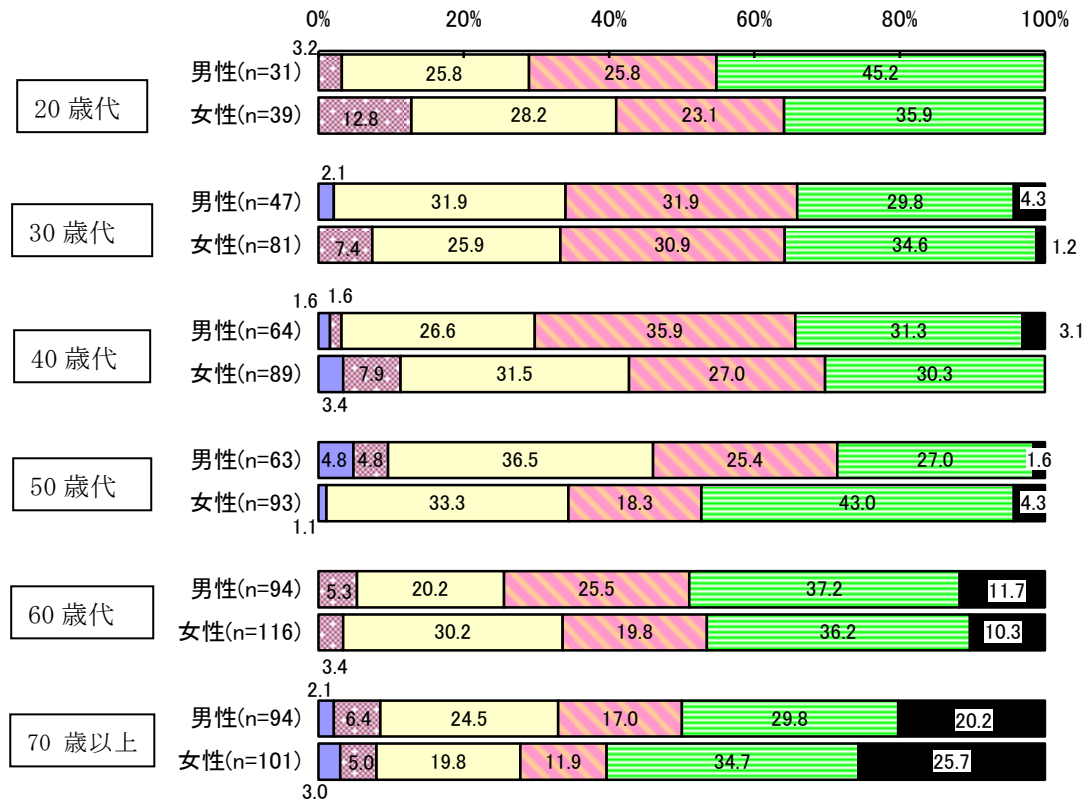
項目別に「実現している」と「ほぼ実現している」を合わせた数値を5年ごとのアンケート（平成12年度から）を比較すると『自由に地域の行事に参加したり、趣味を楽しむゆとりがあること』は少しずつ下がっている。ほかの項目は、ほぼ横ばいである。

ア 育児休業や介護休業を男女どちらでもとりやすくすること

全体・男女別【グラフ19-7-1】



年代別【グラフ19-7-2】



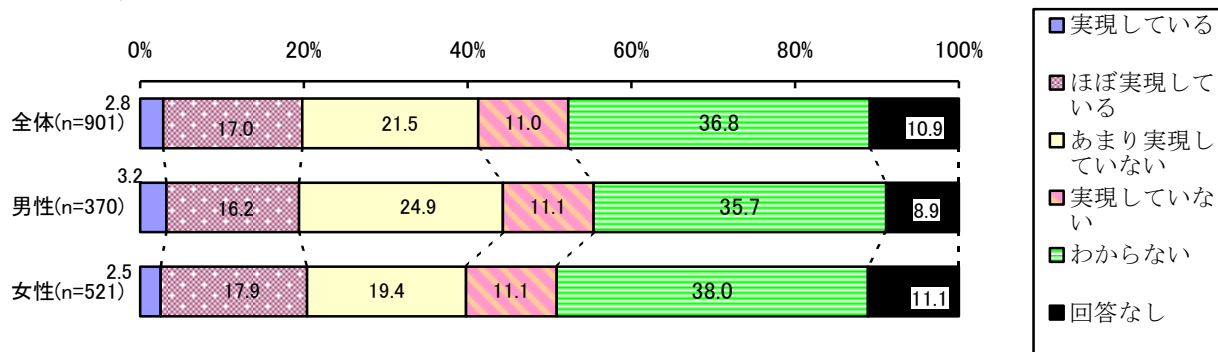
＝まだまだとりにくい男性の育児・介護休業＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると、全体 6.7%，男性 7.9%，女性 6.0%で低い数値になっている。一方、「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 43.4%，男性 44.3%，女性 43.5%となっており、半数近くとなっている。

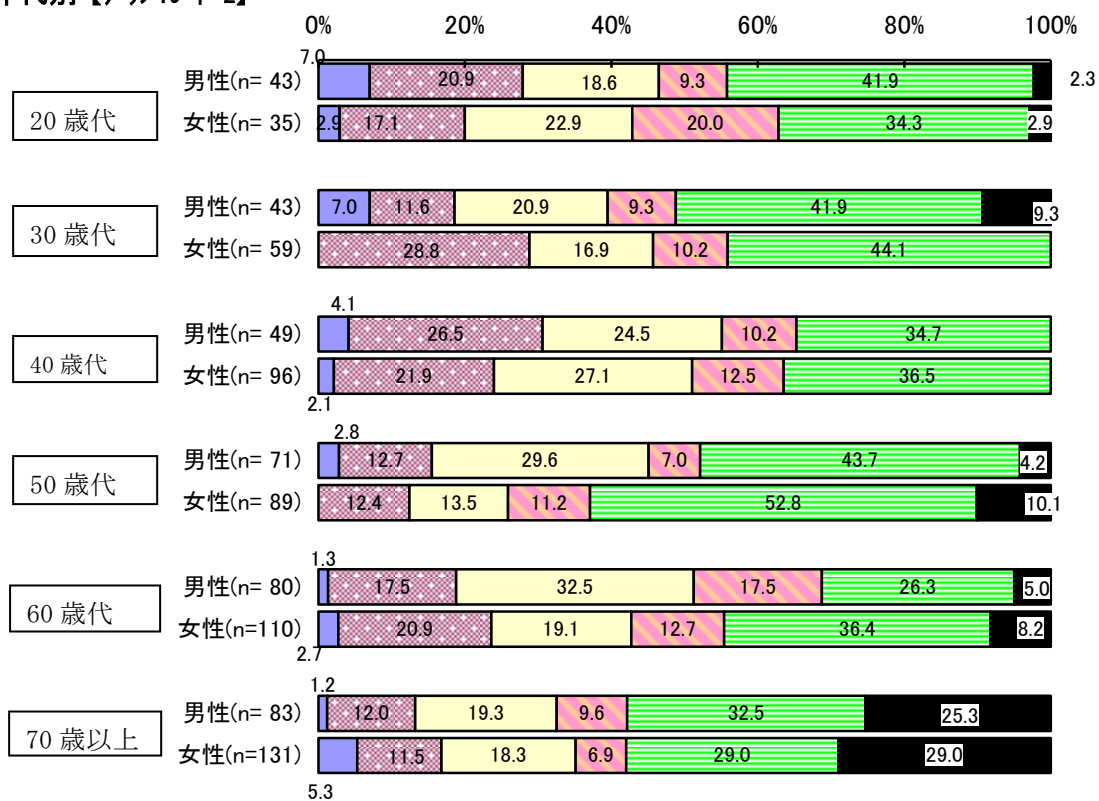
年代別でも、男女ともすべての年代で「あまり実現していない」「実現していない」と答えた人が「実現している」「ほぼ実現している」よりも多くなっている。

イ 男女にこだわらないで、自由に職業を選べるようにすること

全体・男女別【グラフ19-イ-1】



年代別【グラフ19-イ-2】



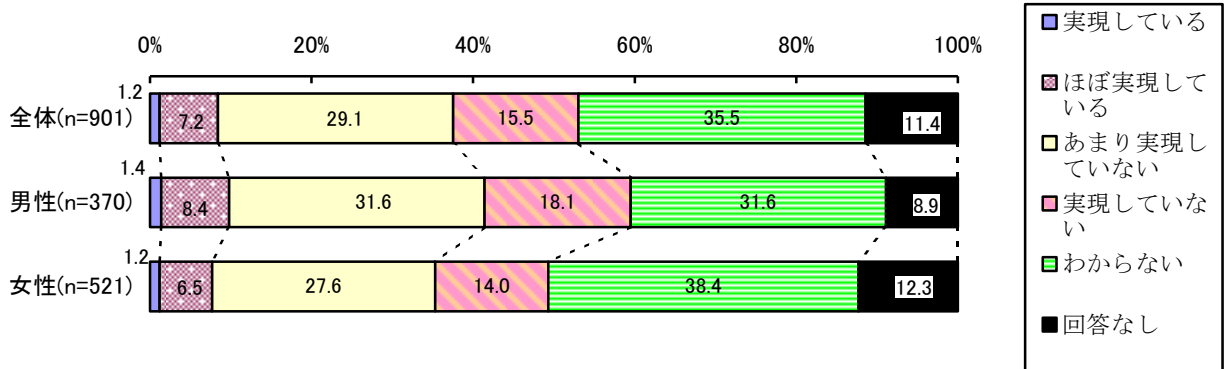
＝ 4割が、男女にこだわらないで自由に職業を選べるようになっていない＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると全体 19.8%、男性 19.4%、女性 20.4%となっている。一方「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 32.5%、男性 36.0%、女性 30.5%で前回調査（平成 26 年度：全体 42.6%）から 10.1 ポイント改善している。

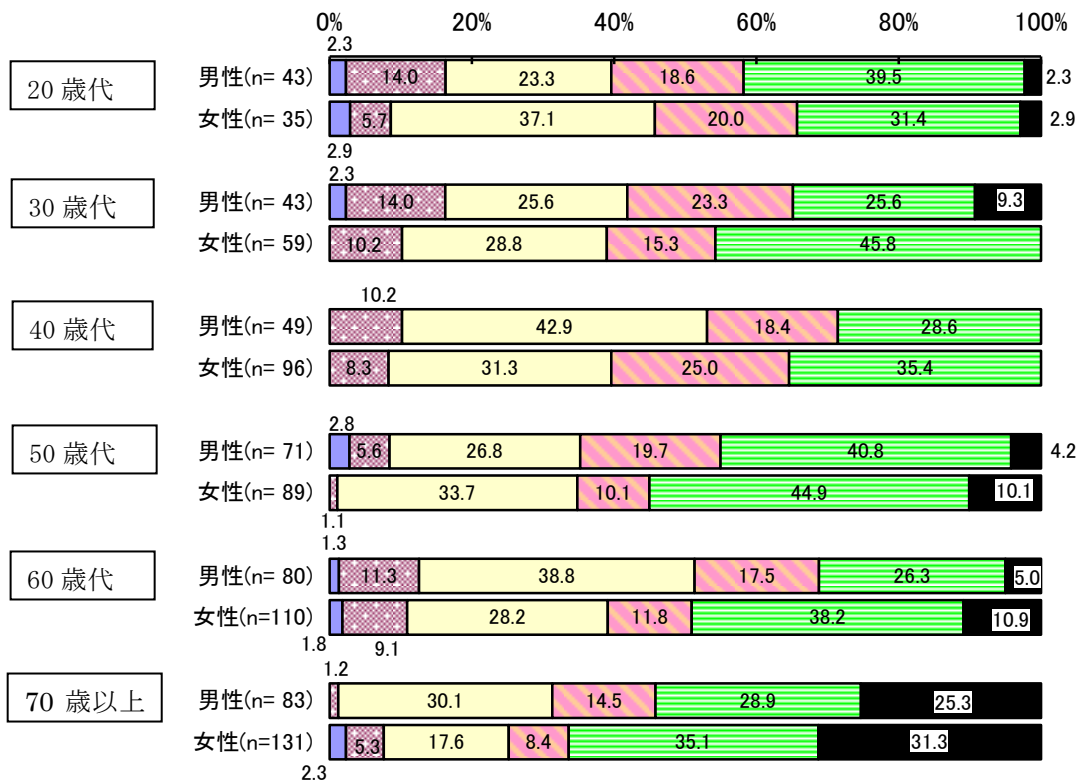
年代別でも、男女とも多くの年代で「あまり実現していない」「実現していない」と答えた人が「実現している」「ほぼ実現している」よりも多くなっている。

ウ 男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること

全体・男女別【グラフ19-ウ-1】



年代別【グラフ19-ウ-2】



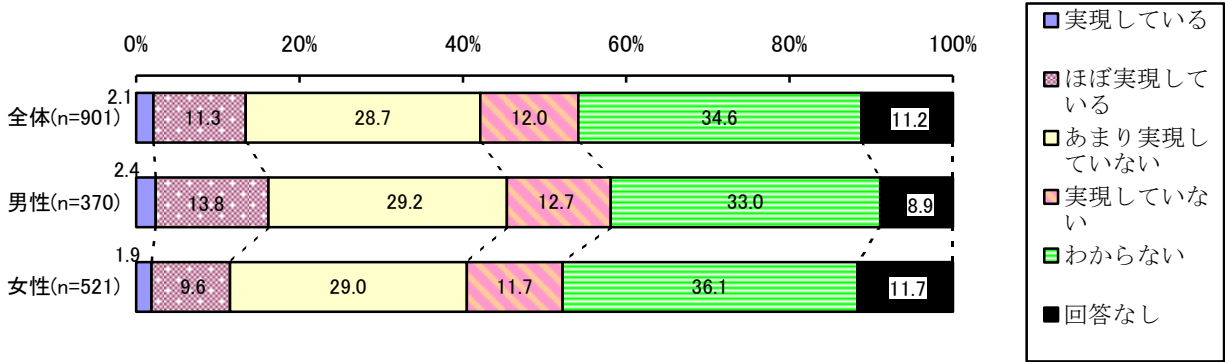
＝男性の仕事中心の生き方・考え方を改めることは実現していない＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると全体 8.4%、男性 9.8%、女性 7.7%で低い数値になっている。「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 44.6%、男性 49.7%、女性 41.6%となっている。

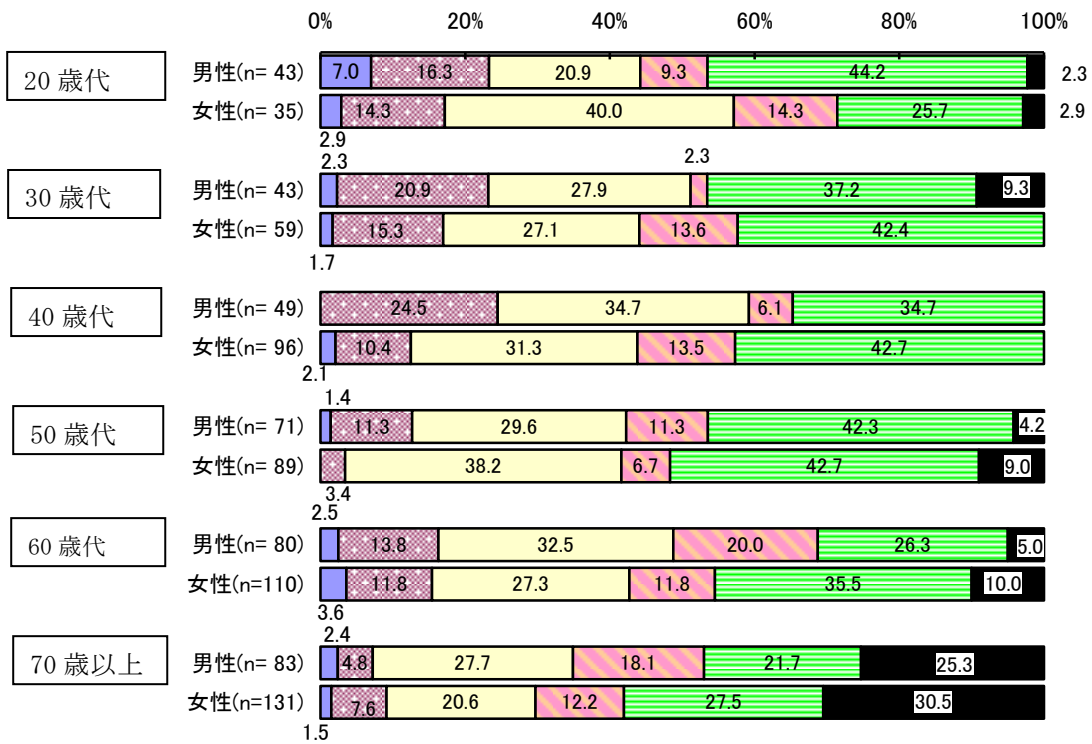
年代別でも、男女ともすべての年代で「あまり実現していない」「実現していない」と答えた人が「実現している」「ほぼ実現している」よりも多くなっている。

エ あらゆる分野で女性が登用され、方針決定の場へ女性が参画すること

全体・男女別【グラフ19-エ-1】



年代別【グラフ19-エ-2】



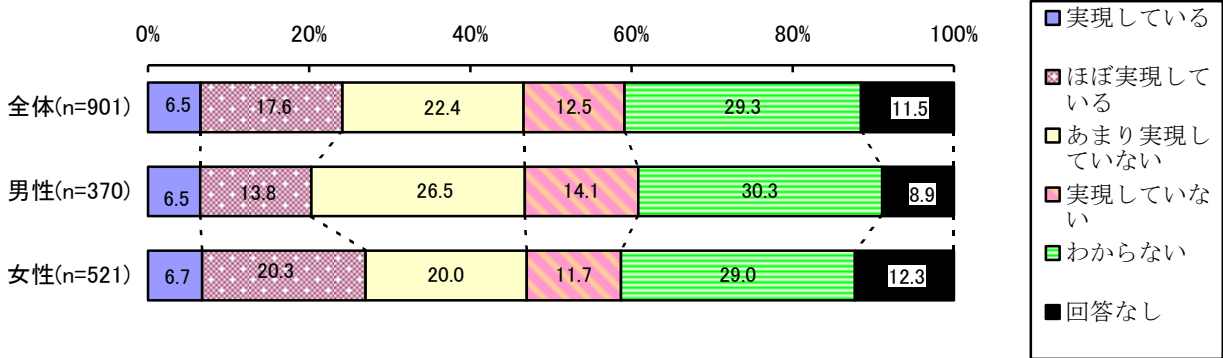
＝ 4割が、女性の登用や方針決定の場への参画が実現していない＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると全体13.4%、男性16.2%、女性11.5%となっている。一方、「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体40.7%、男性41.9%、女性40.7%となっており、約4割となっている。

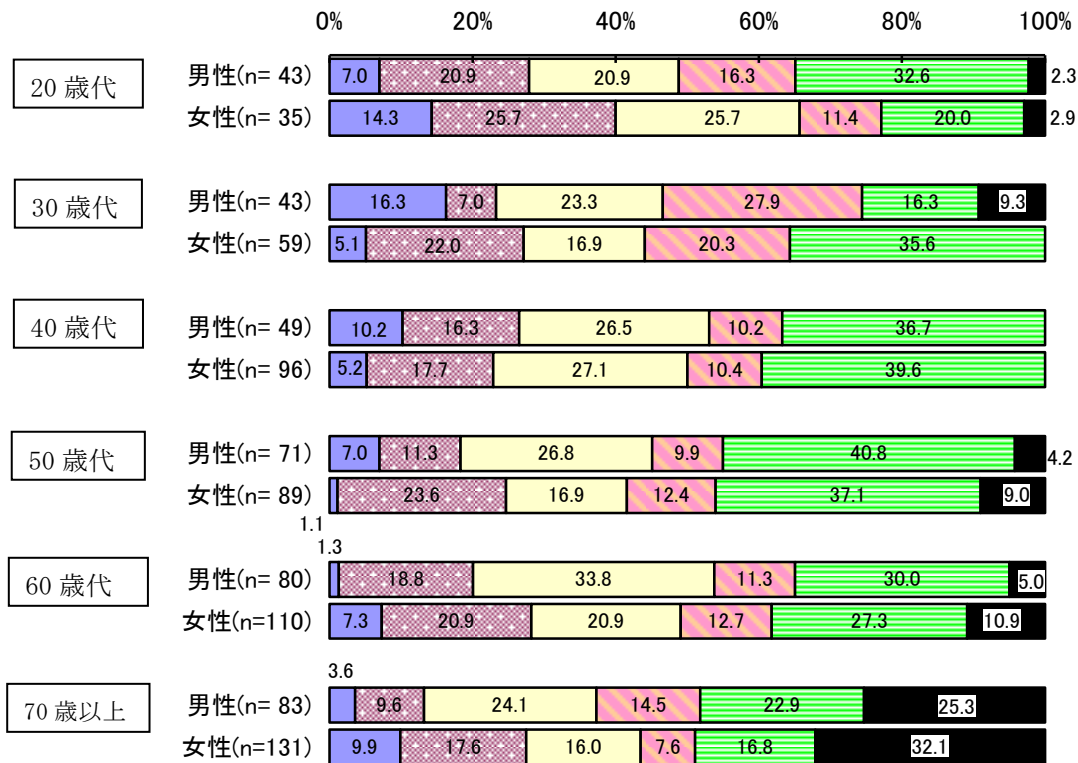
年代別でも、男女ともすべての年代で「あまり実現していない」「実現していない」と答えた人が「実現している」「ほぼ実現している」よりも多くなっている。

オ 自由に地域の行事に参加したり，趣味を楽しむゆとりがあること

全体・男女別【グラフ19-オ-1】



年代別【グラフ19-オ-2】



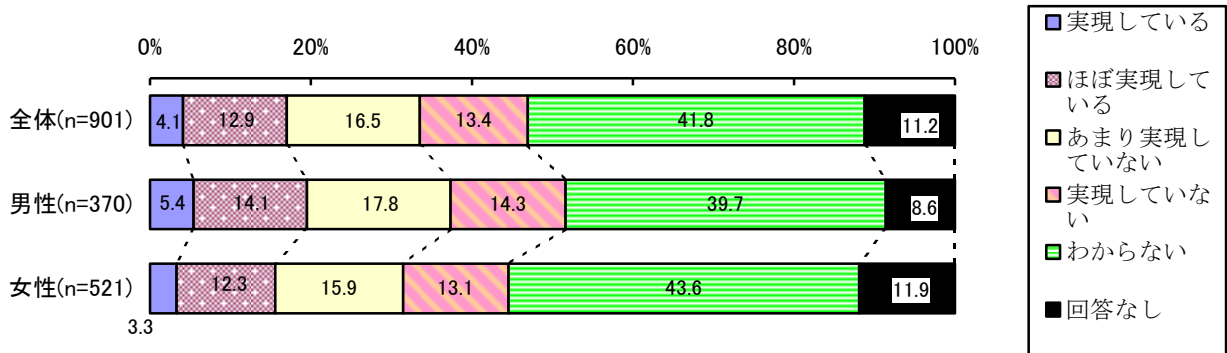
＝ 4人に1人は，行事や趣味を楽しむゆとりがある＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると全体 24.1%，男性 20.3%，女性 27.0%となっている。一方、「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 34.9%，男性 40.6%，女性 31.7%となっている。

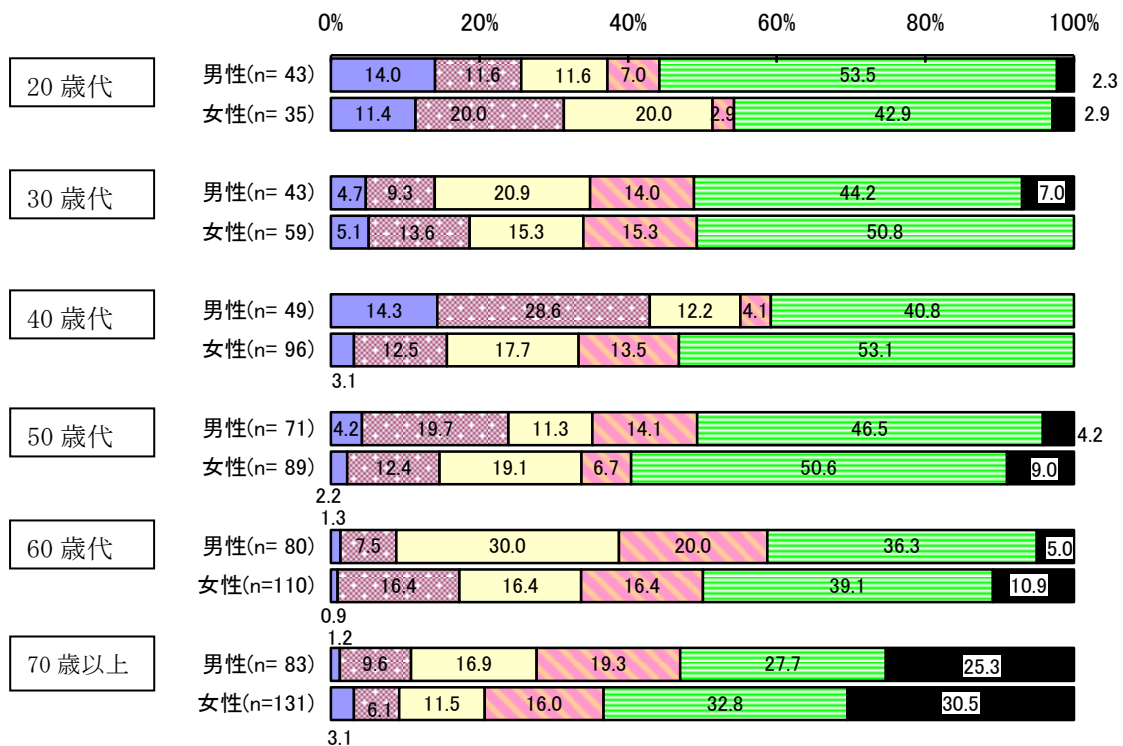
年代別でみると，20歳代と70歳以上の女性が，「実現している」「ほぼ実現している」が「あまり実現していない」「実現していない」よりも多くなっている。

カ メディアの露骨な性や暴力の表現をなくすこと

全体・男女別【グラフ19-カ-1】



年代別【グラフ19-カ-2】



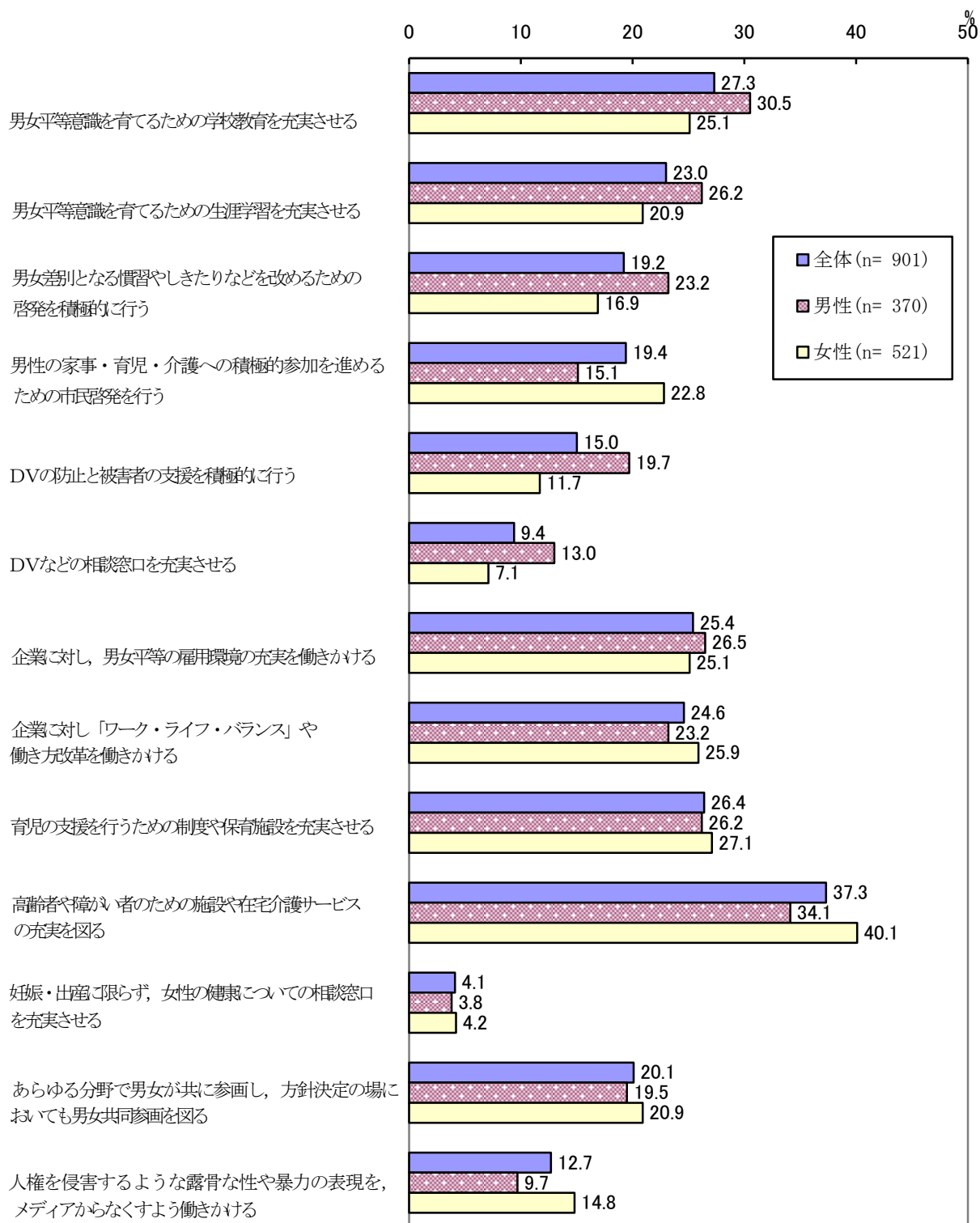
= 3割が、メディアの露骨な性や暴力の場面向なくなっていない =

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると全体17.0%, 男性19.5%, 女性15.6%となっている。一方、「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体29.9%, 男性32.1%, 女性29.0%となっており、約3割となっている。

年代別でみると、20歳代と40歳代男性が「実現している」「ほぼ実現している」が「あまり実現していない」「実現していない」よりも多くなっているが、他の年代は男女とも「あまり実現していない」「実現していない」が「実現している」「ほぼ実現している」よりも多くなっている。

問 20 男女共同参画社会実現のために、倉敷市はどのようなことに取り組みばよいと思いますか。あなたの考えに近いものを3つ選んでください。

全 体【グラフ20-1】



男女共同参画社会実現のための倉敷市が取り組む施策の順位【表 20-1】

「男は仕事，女は家庭」に同感する理由	全体	男性	女性
男女平等の意識を育てるための学校教育を充実させる	2	2	4
男女平等の意識を育てるための生涯学習を充実させる	6	4	7
男女差別となる慣習やしきたりなどを改めるための啓発を積極的に行う	9	6	9
男性の家事・育児・介護への積極的参加を進めるための市民啓発を行う	8	10	6
DVの防止と被害者の支援を積極的に行う	10	8	11
DVなどの相談窓口を充実させる	12	11	12
企業等に対し，男女平等の雇用環境の充実を働きかける	4	3	5
企業等に対し「ワーク・ライフ・バランス」や働き方改革を働きかける	5	7	3
育児支援を行うための制度や保育施設を充実させる	3	5	2
高齢者や障がい者のための施設や在宅介護サービスの充実を図る	1	1	1
妊娠・出産に限らず，女性の健康についての相談窓口を充実させる	13	13	13
あらゆる分野で男女がともに参画し，方針決定の場においても男女共同参画を図る	7	9	8
人権を侵害するような露骨な性や暴力の表現を，メディアからなくすように働きかける	11	12	10

＝男女とも「高齢者や障がい者のための施設や在宅介護サービスの充実を図る」が1位＝

男女共同参画社会実現のために倉敷市が取り組む施策の順位は，1位「高齢者や障がい者のための施設や在宅介護サービスの充実を図る」2位「男女平等の意識を育てるための学校教育を充実させる」3位「育児支援を行うための制度や保育施設を充実させる」となっている。

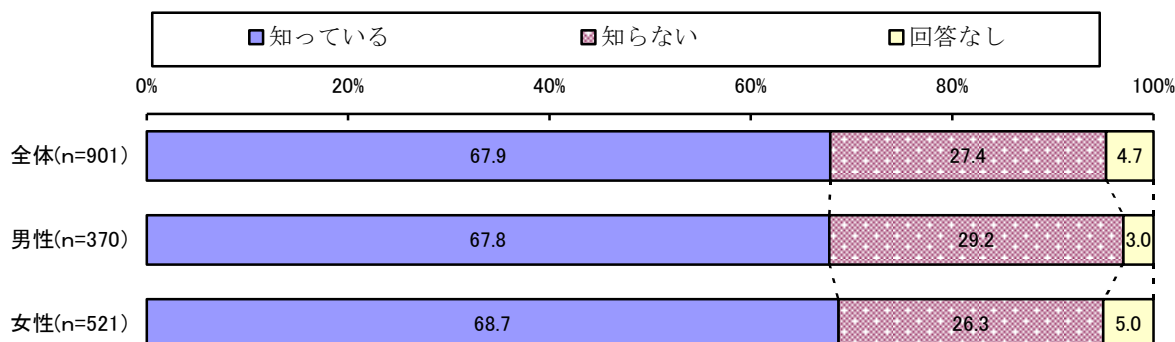
全体，男女とも，最も多い「高齢者や障がい者のための施設や在宅介護サービスの充実を図る」は，全体 37.3%，男性 34.1%，女性 40.1%となっている。また「男女平等の意識を育てるための学校教育を充実させる」が全体の2位 27.3%，男性の2位 30.5%，女性の4位 25.1%となっている。

女性の3位は「企業等に対し「ワーク・ライフ・バランス」や働き方改革を働きかける」25.9%，男性の3位は「企業等に対し，男女平等の雇用環境の充実を働きかける」26.5%となっている。

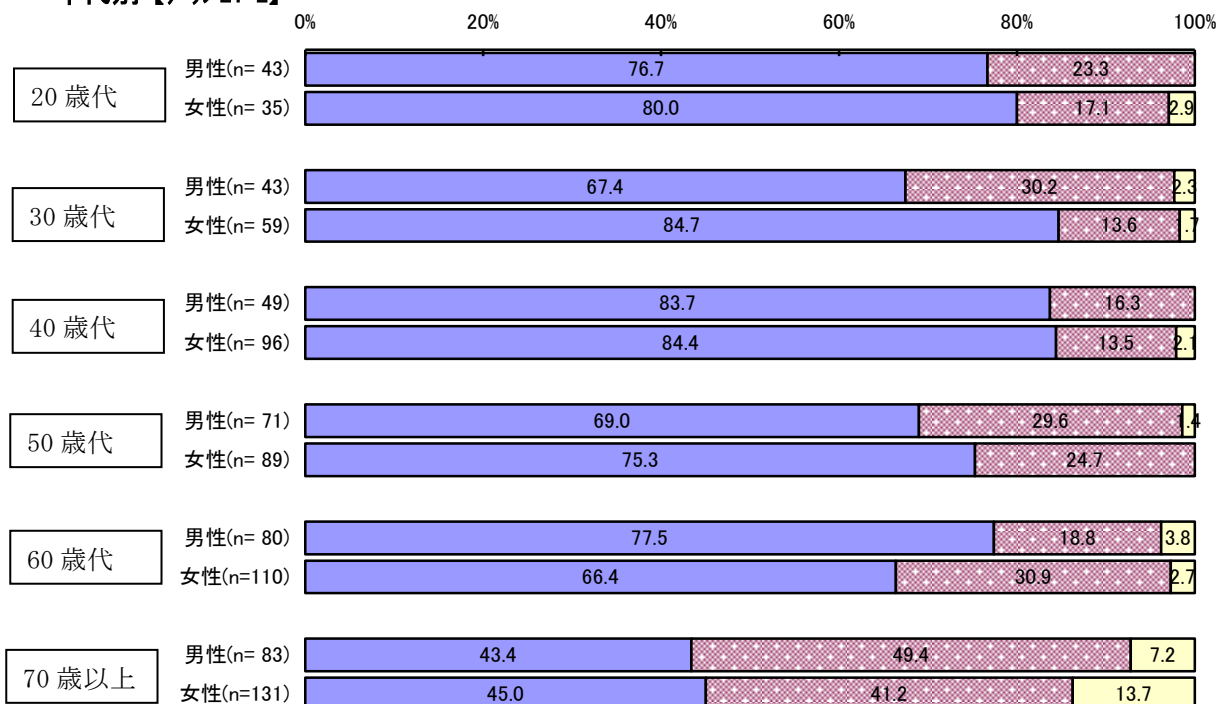
≪性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）（LGBT）についておたずねします。≫

問 2 1 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）（LGBT）※について社会的な取り組みが必要とされていますが、あなたは性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）またはLGBTという言葉の意味を知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ21-1】



年代別【グラフ21-2】



＝7割近くの人が言葉の意味を知っている＝

全体では、「知っている」が67.9%、「知らない」が27.4%で、「無回答」が4.7%となっている。

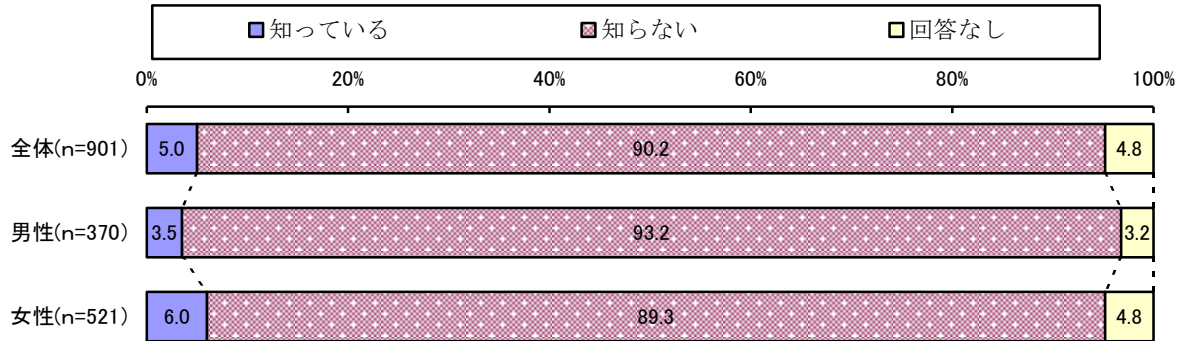
年代別では、60歳代までは、非常に高い認知率であったが70歳以上になると4割程度まで認知率が下がった。

※「性的少数者」、「セクシュアル・マイノリティ」、「LGBT」

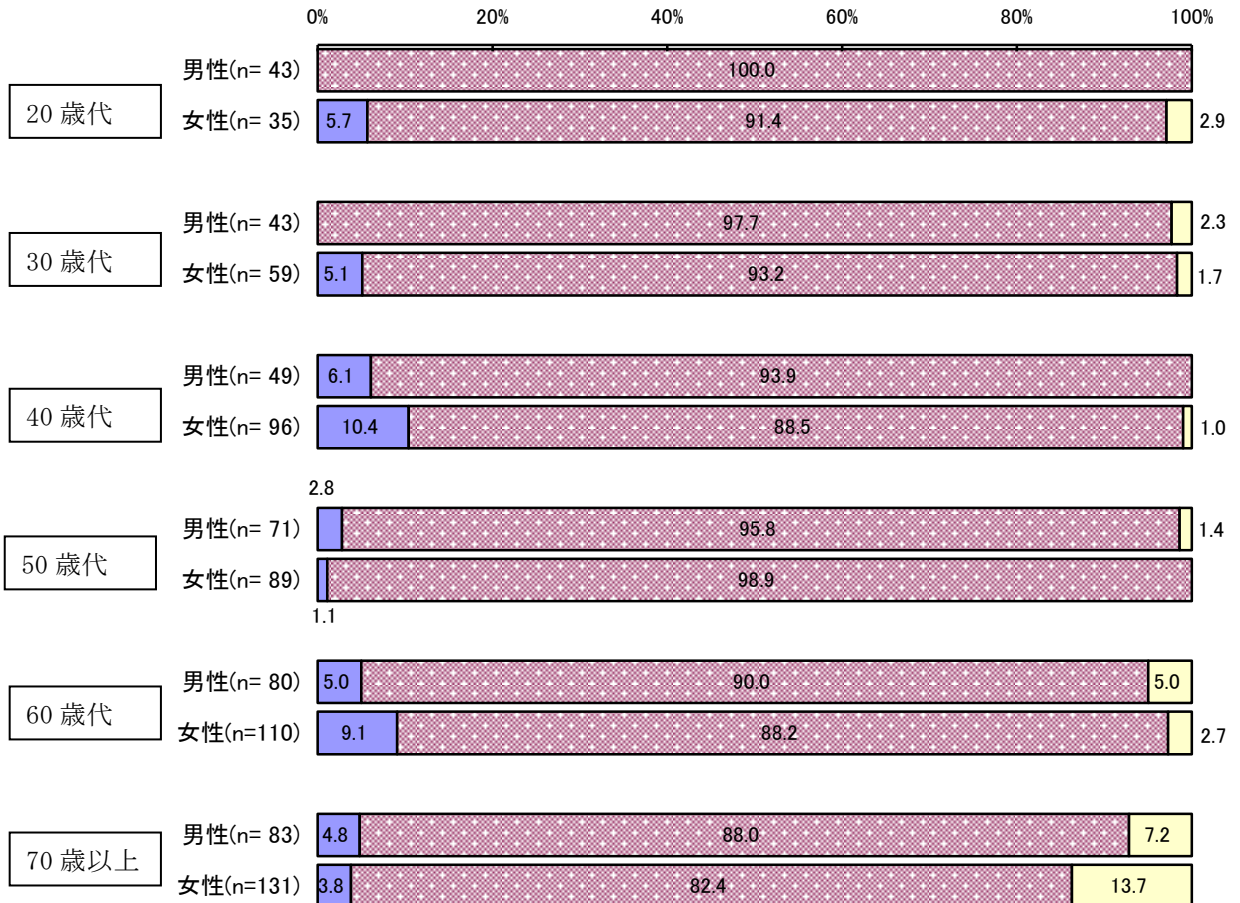
レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（性同一性障害など心と体の性が一致しない人）などの総称。

問 2 2 倉敷市が、性的少数者に対する取り組みを行っていることを知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

全体・男女別【グラフ 22-1】



年代別【グラフ 22-2】



＝ほとんどの人は、倉敷市の性的少数者に対する取り組みを知らない＝

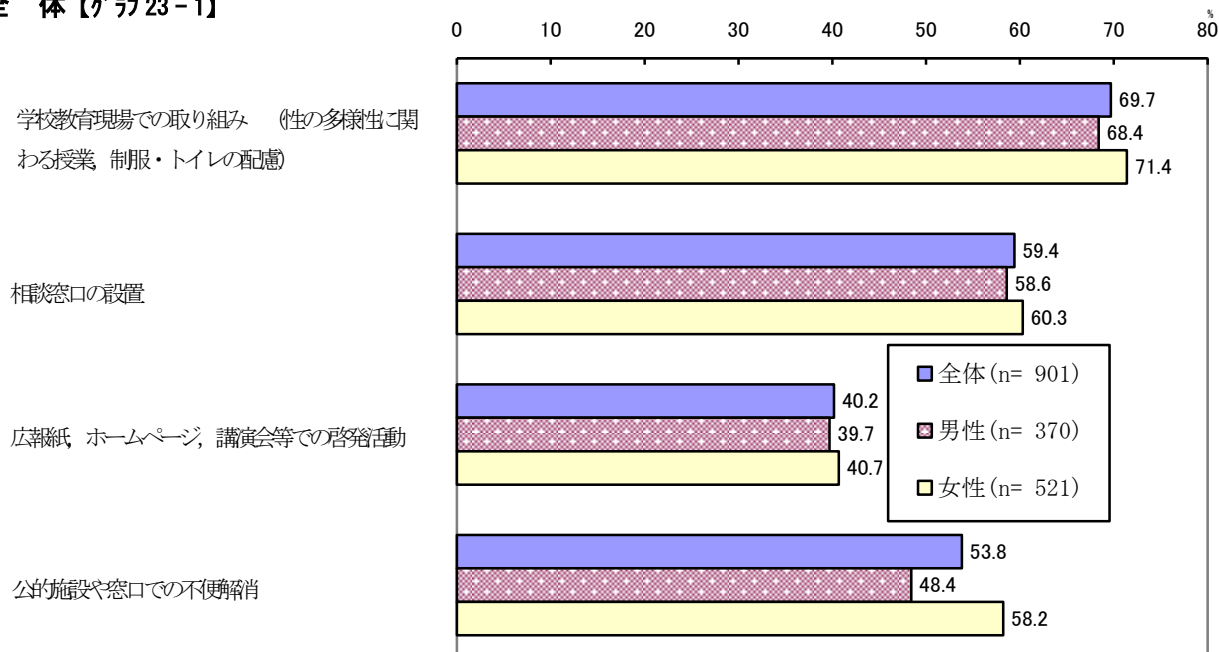
全体では、「知っている」が5.0%、「知らない」90.2%であった。

男女別では女性6.0%、男性3.5%と特に男性で低い数値となった。

年代別では40,60歳代で若干の認知があったが、20,30代男性は0%であった。

問 23 性的少数者の人権を守るため、こういった取り組みが必要だと思いますか。次の番号の中からあてはまるものをすべて選んでください。

全 体【グラフ23-1】



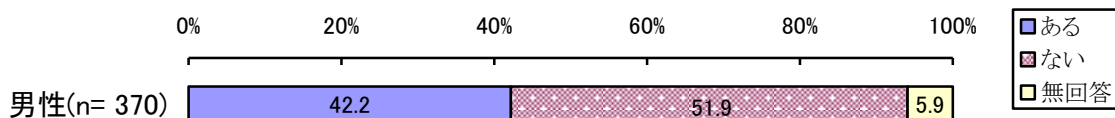
＝必要な施策は、学校教育現場での取り組みや相談窓口の設置＝

性的少数者の人権を守るために必要な取り組みは、1位、「学校教育現場での取り組み(性の多様性に関わる授業、制服・トイレの配慮)」69.7%、2位、「相談窓口の設置」59.4%、3位、「公的施設や窓口での不便解消」53.8%、4位、「広報紙、ホームページ、講演会等での啓発活動」40.2%と続いた。

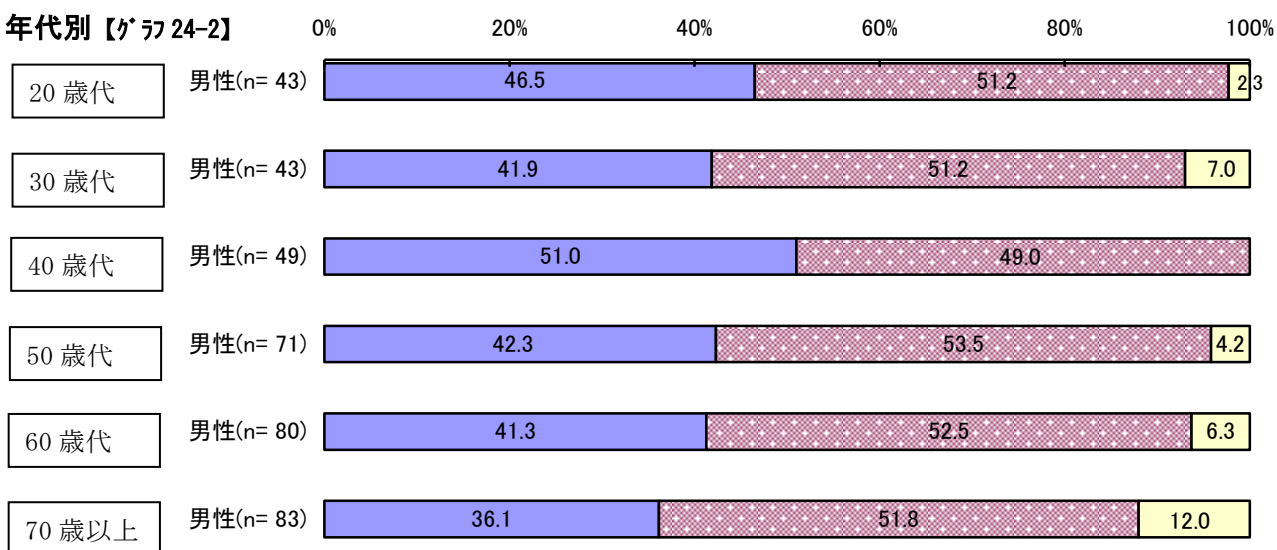
《男性におたずねします。》

問 24 あなたは男であることに「責任」や「つらさ」をかんじることはありますか。
次の中から1つ選んでください。

全体【グラフ24-1】



年代別【グラフ24-2】



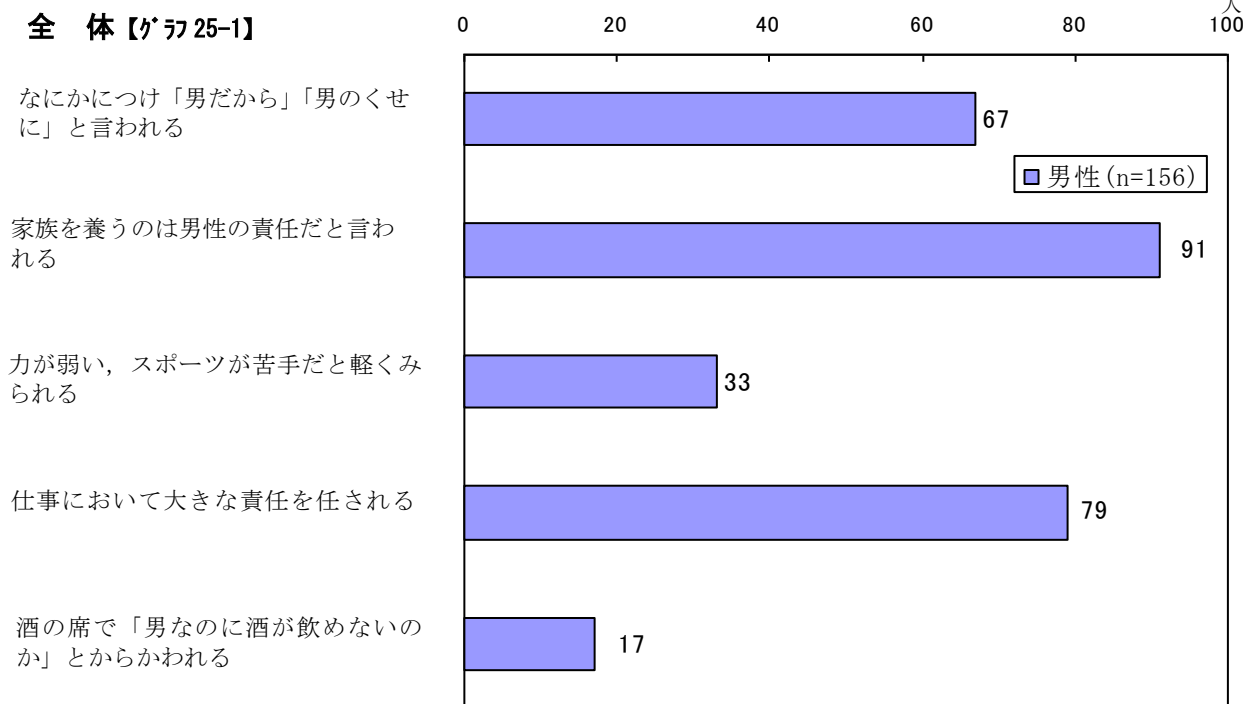
＝男性の4割が責任やつらさを感じることもある＝

全体では、「ある」が42.2%、「ない」が51.9%となっている。

年代別では、「ある」が20歳代46.5%、40歳代51.0%と多い傾向にあるものの、どの年代にも4割程度存在している。40歳代以外の年代では「ある」より「ない」が高い結果となっている。

問 25 「男であることに「責任」や「つらさ」を感じたことがある」と答えた方におたずねします。そう感じる時を当てはまるものをすべて選んでください。

全 体【ガ725-1】



＝「家族を養うのは男性の責任だと言われる」が最も多い＝

「家族を養うのは男性の責任だと言われる」が 91 人と最も多く、次いで「仕事において大きな責任を任される」が 79 人、「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』といわれる」が 67 人となっている。

自由意見

「自由意見欄」及び「市民の方にしていただけること欄」に、回答者 923 人のうち、延 405 人の方からご意見をいただきました。その一部を紹介します

—自由意見—

男女平等・ジェンダー

- ◇ 直ぐに男は「仕事・女は家庭」という多くの異性があたりまえに考える思考を変えるのは難しい。特に、低所得の家庭で顕著になっていると思う。なのでアンケートにもあった「困った時のシェルター」を開設してあげてほしい。(40 歳代女性 勤め人)
- ◇ 自分自身が LGBT なので、隠しながら男性ばかりの職場でやりにくいと感じます。もう少し、大きく知ってもらふことやそういった人のセクシャル・マイノリティの人たちを受けいれてくれる機関の充実。(30 歳代男性 パート・派遣等)
- ◇ 「いきいきと暮らせる」と感じることは個人の問題でその人の置かれている状態によって異なり「いきいきと暮らせていない」と考えている人と問答する以外に原因は見つからない。(70 歳以上男性 無職)
- ◇ なんでも言える社会になれば良い。古くからの慣習を変えるのは難しいが、少しずつでも良い方向へむかえば良い。(50 歳代女性 農業・自営業)
- ◇ LGBT の人権を守るのも大切と思いますが、LGBT の人を増やさない事も大切です。男と女は神が決めているかも？昔は LGBT の人は全んどいませんでした。メディアもおかまの人を出して視聴率を取る様では情けないです。(60 歳代男性 無職)
- ◇ 私は昭和 20 年代の男です。考え方が古いのか小中学校では道徳教育が重要であると感じます。今の世の中自由奔放過ぎる感がある(与えてもらえる子供社会 etc)辛抱(忍耐)自然に出る挨拶・基本が重要と感じる。(60 歳代男性 パート・派遣等)
- ◇ 男性であれ女性であれ人と比べず、自分に与えられた能力や特性に自信を持って暮らすとよい。ひとりひとり生き方も考え方もちがうということに気づいて、とりあえず自分のまわりにいる人を受け入れることが大事だと思う。(60 歳代女性 無職)
- ◇ 男女共同参画社会について行政ができることはかなり既に行われており教育も充実していたため若年層では男女な思考ができていく割合が多く感じる。性少数者への理解をすすめ教育も行われてはいるが、担当教員世代ではしっかりと理解できてないようだった。(20 歳代男性 学生)
- ◇ 中高年の意識改善が必要。変えるも変えないも若者が選べる時代ではない。(30 歳代男性 勤め人)
- ◇ 男性は男性でなくては出来ない事があり、女性は女性でなくては出来ない事があります。うまくゆずり合えば世の中は楽しく生活できると思います。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 秋祭りの時、おみこしをかつぐ人はほぼ男性ばかりなので、男女関係なくできれば良いと思います。(30 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 私は昔の道徳教育が良かったと思っていました。皆が少しずつのゆずり合いをもっていたと思います。何でも個人のプライバシーとして尊重するのはいかなものかだと思います。主張すれば良いというのではなく、お互い様という考えのもと『相手の嫌がることはしない』という基本があれば行き過ぎたことや、い

きなさすぎは、極端なことではできてこないと思います。こんなささいな事も差別なのかと思われる設問に認識を改めました。年齢的に向かない設問もありました。一考。生活保護の受給資格についてより精査することと、遠慮して受けてない人にも光をあてる掘り出しは必要と思います。ずうずうしい奴が得するという制度は厳格にすべきだと思います。公務員の天下りで能力のない人がこしかけ的に働くのはやめてほしい、みんな迷惑している。(70歳以上女性 無職)

- ◇ 「男女平等」を履き違えて、女性が自己中心な主張をしている場面もあると思う。本当の「男女平等」が実現するようにお願いします。(30歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 男性の家事、育児、介護の積極的参加を進めるための市民啓発を行う事。仕事中心の生き方、考え方を改めるためにどのような事をすべきか考えていく事が重要。(40歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 生き生きと暮せるいい世の中になりましたが、今日の女性の言動を考えた時に世の中が変わったのは仕方がないのですが、日本国民としてもう少し考えて昔の人もいい事をしていた事も残していきたいと思います。(70歳以上女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 男女は平等が当然、年齢差は教育が課題、小さい時からの情報伝達と育成を。(70歳以上男性 その他)
- ◇ お互いに男女が相手を尊重し合う事。近所づきあいができるような社会であってほしい。(70歳以上男性 無職)
- ◇ 私は昔人間なので父の方が偉いと思います。でも家では父は偉そうにしたりしないし、女性を差別することもありません。私は女二人姉妹です。(40歳代女性 その他)
- ◇ 男女平等は当然ですが、最近女性ばかり取り上げられ男性の不平等差を感じる。(50歳代男性 勤め人)
- ◇ 男女共同参画で、いろいろな数値目標等があげられるが一向に実現できていないように思う。北欧のようにある程度数値を義務付けることで、実質的に社会が変わっていくのではないのでしょうか。(40歳代女性 勤め人)
- ◇ 男・女とも協調すること。(70歳以上男性 勤め人)
- ◇ 差別なく女性も外に出ていろんな事に参加できるようになればよいと思います。(50歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 時代も変わってきて、人間の考え、性格育ち方も様々なのであり男女に関係なく、1人1人の個性を認め寛容な対応を望みます。(70歳以上女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 男性側も「男としての役割」を求められない社会づくりと同時進行で、女性の権利向上をしてほしい。(20歳代男性 勤め人)
- ◇ 男女ともに育児や家事に参加し、お互いに支えていけるような環境がつかれるといいと思う。(20歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 男性、女性と決めつけることなく、助け合いながら役割をそれぞれ実行出来る社会になれば、いいのではないかと思います。(40歳代女性 無職)

- ◇ すぐパワハラやハラスメントなど、過敏になりすぎている事もあって、あおり運転も良くないことだけど過敏になりすぎてトラブルが増えている気もする。相手に不快な思いをさせるのは良くないが、すごく窮屈な世の中で難しいと思う。(40 歳代男性 無職)
- ◇ 人の考えや意見を他人に押しつけない。(20 歳代男性 勤め人)
- ◇ 現代の若い人は、女性が劣っているという偏見は無いと思いますが、やはり高齢者特に勤務経験のない方達の中には、女性が前に出ると嫌がられる傾向があります。(70 歳以上女性 その他)
- ◇ 女性が男性に対し、家庭の中で DV をしている人を聞いたことがあるので、男性のみならず女性にも DV 防止の周知をしてほしいと思う。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 性差は存在するのだから、ムリにあらゆる場面で同じにする必要はない。逆差別が起こる可能性がある。(30 歳代男性 勤め人)
- ◇ 守ってもらう事に、なれさせない様にしてもらいたい。自分の事は自分で出来るだけさせる社会に(あまえさせない)(40 歳代男性 勤め人)
- ◇ 性別に関わらず、人権を尊重できる社会にできるだけ近づける様、少しずつでも動けたらと思っています。(50 歳代男性 勤め人)
- ◇ LGBT の人が身近にいますが、やはり不自由さ、生きづらさはとても感じます。倉敷の取り組みも、まだまだのような気がします。でも全国的にすこずつ言葉も広がっているようなので、、、まだまだですが、応援しますのでよろしくお願いします。(40 歳代女性 勤め人)
- ◇ 女性だからと言う理由で、不平等を感じた事はあまりない。(60 歳代女性 その他)
- ◇ 男女平等は当然ですが、男らしさ、女らしさは性が違う以上あって当然、どちらも必要。違うものを持つ者が助け合って支え合って補いあって、生きていきたいものです。(60 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 1人1人考え方も違うし、望む未来も人それぞれだと思います。その多様な生き方、考えを周囲が受け入れる事が出来るようにしていければいいなと思います。(40 歳代女性 勤め人)
- ◇ 家庭問題は、夫婦間の理解度に比例し社会問題化は二次的である。『有能であれば男女を問わず』が原則。(70 歳以上男性 専業主婦・主夫)
- ◇ 体の構造から男女の役割は異なっており、真の男女平等は難しいと思う。社会、家庭内の役割に対してもやはり、適材適所となる様な見直しや役割づくりというのも必要ではないか。その上でそれぞれにおける機会は均等、公平に与え、見守り、育成していく社会づくりを期待する。(50 歳代男性 勤め人)
- ◇ 男性、女性として何事においても差をつけない。(60 歳代女性 無職)
- ◇ 仕事と家庭は分担する考え方が必要。(60 歳代男性 勤め人)
- ◇ 男尊女卑を未だに感じるのは、50 代以降の男の人達の多くが古い考えを変えよとしないからだと思う。(40 歳代女性 勤め人)

家庭・子育て・介護

- ◇ お金を支給する支援ではなく保育所をたくさん作ったり、女性が働ける場所を増やしたりすることの方が大切だと思う。(50 歳代女性 勤め人)
- ◇ 子供の声が少なくなり活気がなく何かさみしい感じです。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 子どもは周り(大人)を見て育ちます。大人の啓発も必要ですが、何より子どもに正しい考え方(男女平等、多様性 etc)をしっかりと教えていく事が重要だと思います。(60 歳代男性 無職)
- ◇ 母親の介護に追われる毎日ですが、そろそろ施設に(ショートステイ等必要ですが)お願いしなければなりません。なかなかショート、ロングの受け入れ先がありません。一時的な受け入れ施設の確保充実をお願いしたい。(60 歳代男性 無職)
- ◇ 知らない子供でも声かけ(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 浅口市のように子供に対する考え方を充実してほしい。特に子供の医療費とか。(20 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 小学生の子どもをお持ちの親子さんと一緒に出来る楽しい遊び等を倉敷市の主催とする、無料で。小学生のうちにもっと親子を楽しく遊ばせておかないと子どもが大人になって違った道に行き走りやすいと思う。(70 歳以上女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 老後の健康、介護の充実した市政[例えば 市民積立法式保険金の設立](70 歳以上男性 無職)
- ◇ 学校・幼児教育の頃から「人のいやがることはしてはいけない」「自分がされたくないことを人にはしてはいけない」等、人としてあたりまえの事をしっかり教える教育をして欲しいです。人の命、安全が一番なので(とくに小さい頃に受けた事のトラウマは簡単には拭えない事も多いので、)(30 歳代女性 その他)
- ◇ PTA 活動で母親限定の活動・父親限定の活動があります。(役職 etc)夫婦で協力して仕事の調整をして参加しようとしても、母親限定の活動においては、夫では代理ができません。現代において少しナンセンスさを感じています。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 子供を育てていますがワーキングマザーです。0歳児と7歳児の母です。6歳以上離れた場合、保育園の加点もなく金銭面での免除もないので途方にくれています。病気で年の差兄弟になりました。こういった面も考えてほしいです。(30 歳代女性 勤め人)
- ◇ 幼児期からの親や教育機関からの教育が必要だと思います。男だから、女のくせになどの考え方はなく1人の1個性として好きなことをのびし、他者へも理解を深める事が大切です。(50 歳代男性 勤め人)
- ◇ 育児への支援施設や介護サービスの充実。(60 歳代男性 無職)
- ◇ 現在デイサービスセンターへ通所しています。倉敷市は他の市町村より良いと言われますので、これからも高齢社会となると思い施設の充実を願います。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 自分が産休育休をもらったのに、子供の担任の先生が産休に入られると聞くと後は大丈夫？と正直不安になってしまう。そういう意識をかえていかないといけないと思う。(60 歳代女性 専業主婦・主夫)

- ◇ 福祉の充実をお願いしたいです。生活しにくい町だと思えます。先が不安です。(40 歳代女性 無職)
- ◇ 男女平等の意識、ドメスティックバイオレンスすべてに(女性の自分に対してのプライド(男性も)を持つこと)が大事だと思います。それを学校で教育してほしいです。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 生活をするのに仕事をするしかないのでお金も気持ちもゆとりがない。子供を育てるのにお金がかかりすぎる。少子化になるのも当然。(50 歳代男性 農業・自営業)
- ◇ 子供の貧困等対策が子供の頃の学校教育に必要だと思います。人生を過ごしていく為には、働かなければ生活していけないと教える事がなされていません。(60 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 子供(小学生)の時から、授業などで取り上げることがいいと思う。(40 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 我が子は発達障害がありますが、療育や学校での支援を受ける事で、親子共に自己肯定感が高まり色々な事にチャレンジできています。他人と比べず、自己のペースで成長生活していく事を認めてくれる風土になってほしいです。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 保育園を増やし、待機児童をゼロにしてもらいたい。(60 歳代男性 パート・派遣等)
- ◇ 若い親たちが子供のしつけどころか、自分がまだ親になってないと思えます。それは老人が子供を少し甘やかせて大きくなっている様に思えます。(70 歳以上女性 農業・自営業)
- ◇ 子供が乳児の間は、女性が育児に専念出来る社会づくりが必要。小学校に行くようになってから、育児をしていた女性が社会、仕事に支障なく復帰できる社会システムが必要。(50 歳代男性 勤め人)
- ◇ 職場の環境はもちろん、保育施設や介護施設を充実させてほしい。そのためには、周囲の理解や協力が最も重要だと思う。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 仕事と家庭の両立をしたくても、養うためにはお金が必要→どうしても働かないといけない→子供との時間が取りにくい、とバランスが悪い悪循環を感じる。私はとりあえず賃金上げて欲しく税金を下げて欲しい。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 学校教育において男女で区切るのではなく、1人1人の個人を大事に育てていく事が大事だと思う。(20 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 少子高齢化が進み税金もあがっていく中、増々少子化が進むと思う。もっと子供を育てやすい社会づくりをしていかなければ、これからの子供達は更に負担が増え良い方向にならない。(30 歳代男性 勤め人)

仕事

- ◇ あらゆる企業(官公庁も含む)の定年を 50 歳にする。やはり労働力としては、50 歳までにしないと企業はなりたないと思う。今の若い人たちを登用した方がよいと思う。すばらしい発想は持っているし、チャレンジ精神にとんでいます。是非「50 歳定年」にして頂きたいです。そうすれば、倉敷、いや今の日本社会も変わり、素晴らしい「日本」に成長していくと私は信じています！(40 歳代女性 専業主婦)
- ◇ 「男性が育休を取っていいよ」と言われても、まわりにそのような人がいないため非常に取りづらい。職場～%は取得する目標があるようだがそれをもっと周知するべき。(20 歳代男性 勤め人)

- ◇ 男として家族を養うのは当然だと思うが、妻は三人目の子供を産んで家庭に入った。もう少し働きたいと思って働こうとしていたが、母が脳梗塞で介護が必要になり、10年が過ぎた。手伝い程度しかしてないが、義理母や妻からはいつもありがとうと言われる。(60歳代男性 パート・派遣等)
- ◇ 健康な高齢者に特技を生かした仕事や好きな経験してみたい仕事をする人をつのる。台風の後の道掃除など。平日の学校の送り迎えなど(70歳以上女性 無職)
- ◇ 企業に対しいろいろ働きかけしているが、実態がともなっていない(時短、育児、男女平等)仕事内容が変わらず、時間だけ短くなる、人が休む、代わるなど制度だけが先走りしている。このあたりが改善されなければ「やったやった」の制度で終わる。(50歳代男性 勤め人)
- ◇ 専業主婦をしていた母が仕事を始めたが、職場で嫌がらせが続き働きたいけど働けない状況が続いている。働きやすき環境づくりや、相談窓口を設置し真剣に向き合ってほしいと思った。(20歳代女性 勤め人)
- ◇ 非正規雇用をなくし、生活にゆとりが持てる社会になれば いきいきとした毎日を過ごす事ができると思います。(50歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 会社の金で「数」この会社で保育所を作り、若い男女の子供を社内であずけられ安心して働ける環境を作ってほしい。(70歳以上男性 その他)
- ◇ 賃金の差を無くす。最低賃金の引き上げ。(20歳代男性 勤め人)
- ◇ まず、働く場所があること、地域や周囲の理解と協力 多様性を認める社会づくりが大切だと思います。私たちの税金を効率的に使ってほしいです。そのためには各地の統計結果も大事だと思います。(30歳代女性 勤め人)
- ◇ 企業に対して、男性が育児休暇を取得しやすく復帰した際に、従来通りの業務に従事できる様指導頂きたい。現状まだまだである。(40歳代男性 勤め人)
- ◇ 保育士や介護職員等、福祉現場で働く人たちは残業が多い上に給料が低いです。その為仕事、家庭、プライベートの調和が難しくなると思います。求められている分野なので現場のことを知って頂き、何らかの改善をしてほしいです。男性が育休を取れるのが当たり前になる社会づくりをお願いしたいです。(30歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 働きながらも、介護が出来る様になったら良いと思うし希望する。(60歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 決められた勤務時間で働ける会社が増えるといいと思います。有休の消化を確実にすることにも取り組んでほしいです。(会社では有休消化の発言を言えないような雰囲気がある)(20歳代男性 勤め人)
- ◇ 男女の社会的地位に対する平等性は高くなっているが、賃金に対する格差がある。同じ様に世帯を持つと男性の方が給料があがる。能力給に対する社会、企業評価への取り組みも必要と思う。(40歳代女性 勤め人)
- ◇ 職種差別をなくしてほしい。公務員の天下りを考えてほしい。(60歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ ワークバランスが大切だと思います。(50歳代男性 勤め人)
- ◇ 就職差別をなくす。法の改正。(60歳代女性 パート・派遣等)

- ◇ いろいろな役員人事で男性上位は続いているもっと女性の登用を。(60 歳代男性 無職)
- ◇ 会社は事なかれで、大事故以外は当事者本人に責任をおしつけ健康保険を使用させ、苦しい日々をしているのが現実です。(50 歳代男性 勤め人)
- ◇ 再就職活動の際に、性別以上に年齢差別があることが骨身に染みて分かりました。土俵さえも立てない苦しみがありますか？これが改善されない限り、日本は再就職もままならず、とてもじゃないが結婚どころではなく子供なんぞ論外！という人間ばかりになり、少子化が進みいずれ滅亡の道を辿ることになるでしょう。(40 歳代男性 無職)
- ◇ 高齢者の就職をもっと支援してほしい。(50 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 企業努力による就労者への給与増額に期待したい。生活へのゆとりが起これば、個人の考え方が変化すると思う。未就労者へは、行政の力で細やかな対応をして頂きたく思います。(50 歳代男性 勤め人)
- ◇ やみくもに、女性の管理職を増やさないで下さい。同性にとっても働きにくい職場になります。個人の能力、向き不向きによって与えられる機会を平等にして欲しいだけで、その結果男女の数の数に差があるのは当然なので。(40 歳代女性 勤め人)
- ◇ 企業や社会の意識を変える為、粘り強く啓発する。(50 歳代男性 無職)
- ◇ 障害者に対して支援しているという立場で、ハラスメントが行われているのではないかと特に小さなグループホーム等管理者とサビ管兼任のところ、やりたい放題。(50 歳代女性 パート・派遣等)

プラン・アンケート・施策

- ◇ 行政がやるのではなく、市民にやってもらう。期限付きの地域通貨などを作って、比較的時間のある人たちにできることを、短時間やってもらう。何かをやってもらうために役所へ出向くのではなく、個々ができることを地域に還元するために、社会参加する。倉敷市を住みよい街にするのは、市民ひとりひとりの力であることを認識してもらう。自分には何にも力がないと思っている誰にも社会貢献できる力があることに気付いてもらい、社会貢献する事によって個々の満足度もあがる(50 歳代女性 専業主婦)
- ◇ 問 19 の全てに「わからない」と答えてしまいました。男女共同参画施策として市が取り組んでいることが伝わって来ません。アピールをもっとすべきだと思います。(50 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 上の問 24 がなぜ男性だけなのか、それがすでに平等ではない。男女だけでなく子供から障害のある方まで、実際車イスで通ってもとても不便です。子供の内からしっかり教育して優しい人々のいる倉敷にしてもらいたい。(40 歳代女性 農業・自営業)
- ◇ 「男性におたずねします。」があるのに「女性におたずねします。」がないのは何故？又「性的少数者におたずねします。」がないのは何故か？全ての人に問わないのは何故？このアンケートを作成・集計するのは主として男性ですか？(40 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ アンケートを取っても、意見を書いても市民が良くなる事はないと思う。(70 歳以上女性 パート・派遣等)
- ◇ 平均寿命がのびているので生涯教育など、年を取ってから暮らしやすい倉敷市になればいいと思います。(50 歳代女性 農業・自営業)

- ◇ 大人、子供にかかわらず、まずは”知る”ということが大切。正しい知識を持った人(有識者や教育に従事する方々)が”知らない人”に(無知な方や子供)まずは教える場をより多くつくるのがいいのではないか。(20 歳代男性 勤め人)
- ◇ なぜ男性におたずねがあるのに、問 24,25 女性におたずねが無いの？差別ですか！(60 歳代女性 その他)
- ◇ 今回は男女平等のアンケートでしたが、私は「相手の事を思いやれば男女関係なくなる」と考えます。男だから女だから本人が言うのは良いですが、相手、他人が使うべきではないと思うので、そのためには精神的経済的に余裕があれば優しくなれるのではないのでしょうか。具体的には問 20 に書いてあります。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ いろんな(心)の障害者の人が相談出来る窓口をふやすこと！(60 歳代女性 農業・自営業)
- ◇ 役所は口だけ、目に目えない行政です。(60 歳代男性 その他)
- ◇ DV にしても育児、介護休暇、LGBT の人達の人権を守るにも講演会や啓発をしたって企業や社会はそう簡単には変わらない制度をしっかりととのえたり、企業へ罰則なりあたえないと結局何も変わりはない。(30 歳代女性 勤め人)
- ◇ 人にかかわる全てにおいて、差別がなくなるよう願います。(60 歳代女性 農業・自営業)
- ◇ 政策を充実させると共に、心の内部にメスを入れ情報の分析をしながら 心の面に強いストレス対策 社会の構築に全力に取り組む次世代社会を目指す事を 基盤とする日本の世づくりを推移する。(30 歳代男性 無職)
- ◇ 若い世代は比較的性別にとらわれたいと感じる。高齢者の方程、男女の違いにこだわる。学校教育に取り入れることも大事だが、現在社会で地位のある世代への啓発活動をしないと、まだ引退しない高齢世代に若い世代が押されてしまうと思う。(40 歳代女性 勤め人)
- ◇ 地域の交流がだんだん少なくなっていると思う。みんな仕事が忙しいのか参加が減っていると思う。市民全員で楽しくできる事があれば良いのですが。(50 歳代男性 勤め人)
- ◇ 生まれてから、ほぼ倉敷で生活しています。とても住みやすいのでこれかも倉敷にいたいと思います。働き始めて約 10 年で思ひもありますが、個人でできることは進んでやるべきことは進んでやるべきだと思います。個人の尊重、思いやりの心が有ればいい町になります。(30 歳代女性 勤め人)
- ◇ 選挙がもう少し気軽に投票できる様にしてほしい。「倉敷広報」は地域への負担、集配の仕方方法を考えてほしい。高齢者に当たった時は配るのが大変、税金の無駄。(30 歳代男性 勤め人)
- ◇ 無駄な税は使わず、本当に悩んでいる市民には真摯に向き合う。(20 歳代男性 学生)
- ◇ 男女平等のところ、質問したいが女性差別をした質問があって不愉快だった。その質問以降に回答したくなかったが、この意見を言いたくて全て回答した。時間のムダ、精神的負担をあたえられただけで、全てが意見のない書類だ。こんなことに、私たちの税金を使ってほしくない！！(40 歳代女性 勤め人)
- ◇ 「性別に関わらず」とある割には、問 19 における男性を悪者に仕立て上げた質問があることが疑問です。女性というだけで、あらゆる事が優遇されることは、かえって女性を差別しているように感じます。同

時に男性への差別をしていると感じます。※別性用のトイレを個室にするか、入り口にドアをつけてほしいです。見られる側の立場になって頂きたい。(20 歳代女性 無職)

その他

- ◇ 皆さんで良い倉敷市を作っていきましょう。1人1人が社会に出て働く事、イベントに参加することなど(20 歳代女性 学生)
- ◇ 生理痛への理解がほしい。(20 歳代女性 勤め人)
- ◇ 心を大切に考えた社会を作ってください。(50 歳代男性 無職)
- ◇ お互いに意見が出しあえる社会(40 歳代男性 勤め人)
- ◇ 高齢者には税が重すぎる(70 歳以上男性 パート・派遣等)
- ◇ 男女、少数者をいうのではなく、一人の個人として働き(働く場所、十分な働く時間、休みも)住む場所(安全に)があり、なんとか食べられる(死ぬまで)そういう社会を望みたい。(50 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 自由に運動できる施設を増やす。(50 歳代男性 勤め人)
- ◇ 横並び意識が強く自分自身で考えようとせず、思考停止におちいつている様に思う。(70 歳以上男性 農業・自営業)
- ◇ 小さなことからコツコツと 難事は良事、感謝の心。(50 歳代男性 パート・派遣等)
- ◇ 他人の事を思いやる社会を作りましょう。(70 歳以上男性 無職)
- ◇ 78 歳の女性です。押売り、電話とてもこわいです。自信がないのです。修理でとても高額を請求されません。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 今は何でもインターネットで情報が収集できますが、学歴が有ればまた違った目線で物事が見えるのかなと思います。今は住宅ローンが有るので仕事優先になっています。(30 歳代男性 勤め人)
- ◇ 地域の課題や情報の共有、公的制度等高齢者の優遇改善、渋滞緩和対策として二輪車を推し進める。(20 歳代男性 勤め人)
- ◇ バスの回数をこれ以上減らさないで下さい。外出の楽しみがなくなります。(70 歳以上女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 人生の中で 70 歳を過ぎて年金生活で今は野菜を作ったりお花を植えて過ごしています。旅行に行ったりして過ごしています。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 67 歳です。年金生活が普通に出来る社会。現状はバイトをするか、資産運用をやらないと生活出来ない。(60 歳代男性 無職)
- ◇ 環境の整備として夜間照明の充実、用水路へのガードパイプ管の設置、子供、高齢社会への配慮(60 歳代男性 無職)

- ◇ 市役所が窓口になればよいが、用事で行くと職員の顔が暗い。(70 歳以上男性 無職)
- ◇ 高齢になって免許証を返納すると、病院、買物等が大変なのでどこにも外出できないので、その交通手段を考えてほしい。(70 歳以上男性 無職)
- ◇ トイレを明るく使用しやすく、犯罪がおきにくく防犯カメラの設置をする。(60 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 公共交通機関の充実。(70 歳以上男性 パート・派遣等)
- ◇ 特に高齢者の理解がたりない。現代に寄り添う気持ちがない人が多い。昔は昔はと、マナーが悪いのも高齢者が多い。若者ばかりではない。(50 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ お願いした所で、何も変わらないと思う。(50 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 若い人から老人まで健康が一番。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 定期的に町内会の川掃除が有りますが、区域外の所(例: JR 陸橋の下の川には、自転車等の大型ゴミが放置されている。)の掃除の充実をお願いします。(60 歳代男性 勤め人)
- ◇ 好きな事で、社会に役立てる事が出来る様考え中です。(60 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 最近、災害が多く発生しているが皆で痛みを分かち合い、助け合いの精神を大切にすること。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 家族全員高齢者なので、賃貸の保証人、病院での承諾など不便が予想されるが手段がないのが現状である。親は DV だから距離を取りたいし、宝塚市のようなパートナーシップ制度を強く望む。(40 歳代男性 勤め人)
- ◇ 生活苦に対する支援。税率改正による給与の見直し。(30 歳代男性 勤め人)
- ◇ 1人暮らしをなくす為に、食と住が困らない様にシェアハウスのような公共住宅を作って欲しいです。1人1人が得意分野を生かせるように。(60 歳代女性 専業主婦・主夫)

—市民の方にしていただけることの見解—

- ◇ 私は上記に書いたように、まず平等の意味を正すこと。後に又その結果が表れます。現代も内容は違いますが、教師が暴力をふるわないようにすることによって、学校、子ども、親が変わってきます。ちょっとした事を履き違えると、間違いや勘違いが起こります。私はそのちょっとした事を発信したいと思います。(50 歳代女性 パート・内職)
- ◇ 「部落民」やそれへの差別を市の担当者から差別のないよう講演会・集会を町内会合時に「差別のない町内」を目ざしてほしい。関係者を「やってやろう」と公言する者あり。(70 歳以上男性 その他)
- ◇ ①町内に(農業放棄地)草山の田んぼが増えている。地域で法人を作り何とか活用出来ないか？②上記と同じ様に基の(村の墓地)放棄地が散在し困っている。管理組合の再構築が必要では！(市有地)(60 歳代男性 無職)
- ◇ 1年に1回でも良いのでお年寄り子ども達がふれあうイベントがあれば良いと思います。(30 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 80 才過ぎていますが日々新たなるの精神で頑張っています。人々の役に立てる悦を日々感じていません。伊藤市長さん 頑張ってください。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ LGBT で悩んでいるけど、言い出せず学校などでつらい思いをしている子がいたら、周りが早く気づいて生活しやすいようにしてあげたいと思う。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ LGBT の啓発活動。会社、学校での教育。相談できる所があれば。パートナーシップの普及。(30 歳代男性 パート・派遣等)
- ◇ 安倍(のバカ)が要介護 1,2 を対象から外す様だが、倉敷市独自でカバーが出来ればした方が良い。治安が悪くなると思う、住民の生活が荒れたら。(40 歳代男性 勤め人)
- ◇ あらゆる分野で男女が共に参画し、方針決定の場においても男女共同参画を実現するためには何が出来るのか考えていく事が必要だと思います。(40 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ いい人は大勢いる。悪い(心)がない人も現在も多くなっている。子供も？(70 歳以上男性 その他)
- ◇ 家の中で話し合ったりしたらいいと思います。(40 歳代女性 その他)
- ◇ イベント(地域などの)で男女平等に活躍出来るような内容を知っていただける場を設けるなど、広めていくと認知するのではないかと思います。(40 歳代女性 無職)
- ◇ 今は、隣は何をする人ぞ的がある。地域の人々とコミュニケーション
- ◇ 今は子供の学校の PTA 副会長をやっています。まずは子供達の為にも地域の人との関わりの方にもアクションをおこして地域の輪を広げていけたらと感じます。(30 歳代男性 勤め人)
- ◇ いろいろな形で配布物が多すぎる(愛育関係)地域であたった人は負担です。今愛育の目的も変わってきています。考えを改める必要があると思う。地域での活動を1つにまとめる取り組みは出来ないか？広報+地域(各)の取り組行事を一緒にするとか？(30 歳代男性 勤め人)

- ◇ 上の通り、女性に配慮(又は優遇)することは、男女どちらに対しての差別を助長していると思うので「女性専用」の公共施設(電車やトイレ(共用のものと別に設置してあるもの))や「レディースデイ」を利用しないようにしています。今まで女性として差別された覚えも全くないので。問25以外で男性に配慮していない点など、男性軽視がなくなっていないと感じるのも、また理由の一つです。(20 歳代女性 無職)
- ◇ 男だから女だから、でなく男でも手先が器用女でも力持ち、各々得手不得手があるのだから皆が気楽に暮らせたならそれが一番良いのに、、と思います。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 海外に行くと、外国の方の温かさに触れ嬉しい気分になります。倉敷はどうか？ぜひ海外の人にも喜んでもらえるような 取り組みがあれば協力したいです。(30 歳代女性 勤め人)
- ◇ 行政からの呼びかけや、講演会等には出来るだけ出席し協力する。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ グループホーム等、レクレーション等でボランティアをつくる。障害者、高齢者が地域の中で暮らしている実感が持てる、交流の場をつくる。(50 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 高齢者の足になるようなタクシー(無料)を市で作ってほしい。(50 歳代男性 勤め人)
- ◇ 子供がえがおになることなら、親(子育て世代)は喜んですると思います。(30 歳代女性 勤め人)
- ◇ 子供達を家族だけで育てるという考えでなく、公共のもの地域をもっともっと利用して 子育てしやすい環境作りをしていけたらいいと思います。(50 歳代女性 農業・自営業)
- ◇ こどもに対して「男なんだから」「女なんだから」と考えをおしつけないように、その子らしさとしてとらえる。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ このアンケートは、おもいきり思想の偏りのあるもののような気がしました。もう少し中立な質問が望ましい。(30 歳代男性 勤め人)
- ◇ 困り事悩み事が気軽に相談出来るようにしてもらいたい。(70 歳以上男性 無職)
- ◇ これはいち市民である人に協力できる事とらえて書きますが、こういったアンケートは集計が大変でしょうがたくさん行っていいと思います。私は書く方ですし家に封書で来たら気づきます。ただ「〇〇へ行って講習を聞き意見を言う」というものは日当があった方が責任も出ますし時間を割ける人も増えるのかなと。家で書くメールする、家からスカイプなどの会議に参加するなら日程が合えば誰でも気軽に参加できるのではないのでしょうか。そしてもちろん職員の方にも手当を増やしていただきたいです。(30 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 昨年町内会長をしたが、子供会の役員は女性ばかり町内の役員はまだ男性中心、いろいろな場で男が前に出ている。これでは、いかんと思うのだが。(60 歳代男性 無職)
- ◇ 自営業に少しでも特別手当(支給)が市からあればよいのに。(40 歳代女性 農業・自営業)
- ◇ 自助、共助。(40 歳代男性 農業・自営業)
- ◇ 質問に対しての答え、選択肢がありませんでした。すでに退職し現在は年金です。又以前の職場はほとんどが女性で男女というより職種(免許)により差を感じました。(60 歳代女性 無職)

- ◇ 市の取り組みが市民に伝わって来ない。知ればもっと市民である私にも出来ることがあるかもしれないと思う。(40 歳代女性 勤め人)
- ◇ 自分自身のことや周囲のことで気づいたことや困ったことは、とりあえず市の相談窓口を利用してみることが大切だと思う。そこからまた次のステップにつながっていくこともあると思う。(60 歳代女性 無職)
- ◇ 市民参加型の啓発活動が増えると良いと思います。(気軽に参加できるようなもの)(40 歳代女性 勤め人)
- ◇ 市民による防犯パトロールを推進させる。(60 歳代男性 パート・派遣等)
- ◇ 市民の皆様方が市役所に協力的であること。(60 歳代男性 無職)
- ◇ 市民はみんな仲よしなんだという事を 市の方も市民それぞれも心の底に作ること。(70 歳以上男性 無職)
- ◇ 障害者、高齢者に対してもっと優しく協力を。(40 歳代女性 無職)
- ◇ 小学校の内から盲目や車イス体験をしてどれだけ大変か分かる(気づくと行動や気持ちも変わると思っています。大人の方でもとてもマナーの悪い方が多い。災害についても総社市に比べると対応が遅いし悪い。市長が泣く前にすべきことが沢山あるはず泣きたいのは市民です。動物殺処分についても もっとゼロにする為の努力がまだまだ足りない。役所の方々は日々の業務で忙しい中大変だと思いますが、もっと上の方々に守りでなく前進する方向に魅力的な倉敷になるなら協力は惜しみません。どうぞよろしくお願い致します。(40 歳代女性 農業・自営業)
- ◇ 少子高齢化社会です。老人は日々何事にも耐えており健康優先の考え方、子供は何を思っているのでしょうか、教育は充実していますが、指導者は大丈夫ですか。私は日々子供と接していますが、思いやりのある社会を望みます。(60 歳代男性 パート・派遣等)
- ◇ 女性しか子供が産めないので、どうしても子供にかかわるのが女性になって負担が大きくなる。(60 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ 女性は、身内からきびしく言われるし女のくせにと。(60 歳代女性 専業主婦・主夫)
- ◇ ショッピング行き帰りのビン缶ひろい。ホーキ・ちり取り器持参でガラス破片の掃除。空き家の道辺り側の草取り。犬猫のふん拾いの公の許可。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 接客業ですが、ときどきこの方は生活にひどく困っているでは？と思う場面に出会うこともあります。(一日中行ったり来たりのしかも何日もの老婦人等)～ に行ってみられては？と提案できる場がほしいです。男女に関係なく申し分ありません。(50 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ そっとしておいてあげる。(30 歳代男性 農業・自営業)
- ◇ そもそも「男女共同参画基本計画」が浸透していないと感じています。その部分の改善が必要だと思います。(50 歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ だだ働きの家事がどこも相当たまっていて、災害で目が冴える。(70 歳以上男性 専業主婦・主夫)
- ◇ 他人の認識をあらためるという行動は非常に体力も根気も必要なことだと思います。それでも協力し

てくれるボランティア等は少なからずいるはずなので、まずマンパワーを増やすのが大事なのかと。(20歳代男性 勤め人)

- ◇ 男性が家庭で平等に家事を行えば解決することは多いです。80-50 問題もです。家事ができれば自信も持てます。(70歳以上女性 無職)
- ◇ 男性は男らしく、女性は女らしくあってもらいたい、その上で男女平等になる様に家族で子供が小さい時からの教育が大切だと思います。市民(家族)に協力して、良い社会になればと思います。(60歳代男性 無職)
- ◇ 地域活動などから変えていく。(50歳代男性 無職)
- ◇ 地域コミュニティーの充実の為に、少し強引でも参加してもらおうこと。周りに住んでいる人を知らない人が意外と多い。(40歳代女性 勤め人)
- ◇ 地域の活動の中で婦人部の役割など根強い。(60歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 地域のコミュニケーションを図るべき自治会等が住民に対しての気くばりが必要と思われれます。(稗田、緑丘地区)(70歳以上女性 無職)
- ◇ 中小企業、大手企業それぞれ人を集めてブレーン ストリーミングする。他業種との交流会があると自分達の意識改革の糸口が見つけられるかも。(30歳代男性 勤め人)
- ◇ 町内会や PTA の運営が、専業主婦を前提にしているのをやめて下さい。平日昼間に日程を組まれると仕事を休まないといけないし、頻度が多いと役員になりたくないと思ってしまう。(40歳代女性 勤め人)
- ◇ 手助けすることがあれば、力になりたい。(60歳代女性 無職)
- ◇ どんな事も見て見ないふりをしない。(50歳代男性 無職)
- ◇ 年金生活であまり良い回答にはなりませんので参考になるかどうか解りませんので。(70歳以上男性 無職)
- ◇ 年齢に関係なく働く意欲のある人にもう少し就職口を多くして下さい。(70歳以上女性 パート・派遣等)
- ◇ ひと(20歳代女性 学生)
- ◇ ボランティア活動(60歳代男性 無職)
- ◇ ボランティアに参加したい。(60歳代女性 パート・派遣等)
- ◇ 真備に対してやり過ぎです。もっと社会的に弱者はたくさんいます。優先順位を考えて下さい。(60歳代男性 その他)
- ◇ まず、条例を守る事であり、人に対しては思いやりの精神を持っていたいと思う。(50歳代男性 勤め人)

- ◇ 溝清掃や土手刈り(他の地球では無いかも)に環境衛生の面から もっと積極的参加するよう行政指導していただきたい。(70 歳以上男性 農業・自営業)
- ◇ 見回り隊ぐらいかな。(70 歳以上男性 無職)
- ◇ 息子世代が倉敷に住みたいと思えるような町づくり、老後の不安がないと言えば嘘になるが、ボランティア等自分に出来そうな事は何でも手伝いたいと思うが、特にこれがというもはわからない。(60 歳代男性 パート・派遣等)
- ◇ 申しわけありませんが、よくわかりません。(70 歳以上女性 無職)
- ◇ 問題によって市民からボランティアとして人材を募るしかないと思う。(70 歳以上男性 無職)
- ◇ 幼児教育、小中学校教育への責任的参加 PTA だけでなく市民が教育に参加にする体制作り。(60 歳代男性 無職)
- ◇ 予約なしでも集まる場所があれば楽しいと思います。(70 歳以上女性 専業主婦・主夫)
- ◇ ワークショップの開催、SNS での拡散、情報の共有。(30 歳代女性 勤め人)

調査表

男女共同参画に関するアンケート結果報告書／市民

作成：倉敷市市民局人権政策部男女共同参画課

〒710-8565 岡山県倉敷市西中新田640番地

TEL **086-426-3105**

FAX **086-426-0990**

Eメール gndeq1@city.kurashiki.okayama.jp